



40

年の歩み

NPO法人
近畿バイオインダストリー振興会議

発行：2025年(令和7年)12月
編集・発行：NPO法人 近畿バイオインダストリー振興会議

〒541-0048 大阪市中央区瓦町4-8-4 井門瓦町第2ビル 3F Tel.06-4963-2107 Fax.06-4963-2127

Index

■ 発刊にあたって	1
■ 近畿バイオインダストリー振興会議の設立	2
■ トピックス	
■ 1990～1999年トピックス	3
■ 2000～2004年トピックス	4
■ 2004～2007年トピックス	5
■ 2009～2011年トピックス	6
■ 2012～2015年トピックス	7
■ 2016～2019年トピックス	8
■ 2020～2022年トピックス	9
■ 2022～2025年トピックス	10
■ 理事会・総会・記念講演会	11
■ 現在の事業別活動の経緯と成果	
■ バイオコミュニティ関西	12-21
■ 関西バイオビジネスマッチング	22-23
■ 大阪府受託事業：ライフサイエンス事業化推進事業	24-25
■ BioJapan共同出展	25
■ バイオベンチャーデータベース	25
■ 生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会	26-29
■ 毛細血管ラボ・社会実装コンソーシアム	30-31
■ バイオの次世代を考える会	32-33
■ 関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー	34-36
■ 会場参加型トークセミナー	37
■ 新春国際交流会	38
■ 活動報告会	39
■ これまでの事業別活動の経緯と成果	
■ 近畿経済産業局の施策との連携	40
■ 組織工学・再生医学ワークショップ	41
■ 遺伝子治療シンポジウム	42
■ コンビナトリアル・バイオエンジニアリング会議	43
■ 関西バイオの未来を考える会	44
■ 関西バイオビジネス研究会	45
■ バイオ技術シーズ公開会	46-47
■ 再生医療技術を活用した動物実験代替法検討会	48
■ 関西スマートセルフォーラム	49
■ 先端的は中堅・中小企業、ベンチャー企業の可能性を広げる、いろいろな取組み（日本バイオベンチャー大賞、全国バイオネットワーク形成事業）	50-51
■ 海外との交流（Local to Local、カナダ、オランダ、日韓バイオマス）	52-53
■ 近畿バイオ・バイオマス研究会	54-57
■ 公的資金獲得	58-59
■ 年表	60-61
■ 近畿バイオの現体制図と事業	62
■ 役員変遷	63
■ 会員リスト	64

発刊にあたって



坂 田 恒 昭

このたび、NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議は設立より40年の節目を迎える運びとなりました。ひとえに会員の皆様、関係機関・団体のご支援・ご協力、そして地域・行政・産学界の皆様の温かいご理解とご尽力の賜物であり、心から深く感謝申し上げます。

振り返れば、当団体の前身である近畿バイオインダストリー振興会議が発足した当初、バイオ技術はまだ芽吹き of の段階でした。創設の理念は、関西・近畿地域におけるバイオインダストリーの橋渡しのプラットフォームを構築し、産・学・官が連携して技術を社会実装していくことでした。当初は限られた事業とネットワークでの活動でしたが、多くの皆様の英知と情熱により、次第に事業領域が拡充され、活動基盤も厚くなってまいりました。

この40年間、当団体が果たしてきた役割を思い返すと、大学の産学連携組織が整備されていなかった時代からの産学マッチング・バイオベンチャーの創生・育成・国際交流支援・会員相互の知見共有といった活動が脈々と積み重なってきたことを痛感します。とりわけ近年では、グローバルな潮流対応、生命医療や環境分野、再生可能資源利用などのテーマへ応えるべく、バイオエコノミーの視座で地域内外をつなぐ拠点としての位置づけを強めています。さらに、2021年からは内閣府バイオ戦略（現バイオエコノミー戦略）に基づき組成されたグローバルバイオコミュニティであるバイオコミュニティ関西（BioCK）の事務局の一翼を担うことにより、地域内だけではなく、地域とグローバルをつなぐ架け橋としての役割を果たしつつあります。

さて、40周年を迎える今、これまでの歩みを総覧するとともに、未来への指針を示すものにしていきたいと思っております。本誌を通じて、過去の挑戦と成果、さまざまな試行錯誤の記録が読み取られ、かつ未来志向の展望が共有されることを願っております。そして未来に向かって、若手研究者・起業家・行政担当者・会員の皆様にとって、次なるステップを後押しする手がかりとなれば幸いです。

これからの10年、20年を見据えるにあたり、私は以下のような方向性を重視したいと考えております。

バイオエコノミー視点の深化
地球規模の社会課題（環境、食糧問題、資源循環、健康長寿など）に貢献できる技術・事業の推進。バイオを軸とした持続可能性と経済発展およびイノベーションを結びつけたロードマップを描いていきたい。

オープンイノベーションと異分野連携の強化
バイオ領域のみならず、DX・AI・データサイエンス・材料工学等、異分野技術との融合を積極的に推進し、新たな価値を創出するプラットフォームとして機能を強化したい。

地域基盤と国際ネットワークの融合
関西地域を基盤に据えつつ、海外バイオクラスターや国際機関との連携をさらに深化させ、技術交流・産業展開の道を拡げることを目指します。

人材育成と次世代支援
バイオの未来を担う若手・学生層、起業志向のある研究者を育てる支援プログラムや研修機会を構築し、持続可能な人材循環を確立したい。

最後になりますが、40年という歴史は決して偶然の積み重ねではありません。そこには多くの方々の挑戦と協力、そして志があります。設立40年を迎えるのを機に、過去の歩みをしっかり見つめ、未来へ向けたビジョンを共有しながら、さらなる飛躍を目指して邁進してまいりたいと存じます。今後とも、皆様の変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

近畿バイオインダストリー振興会議の設立

近畿バイオインダストリー振興会議は1985年3月に大阪大学総長の山村雄一先生を中心に、大阪通商産業局長（現・近畿経済産業局長）、大阪科学技術センター会長らが発起人となって設立された。



近畿バイオインダストリー振興会議

1985年（昭和60年）3月6日 設立総会

委員長：山村雄一 大阪大学総長

副委員長：伊藤健 住友化学工業（株）専務取締役
城阪俊吉 大阪科学技術センター副会長
福井三郎 京都大学名誉教授

幹事長：千畑一郎 田辺製薬（株）専務取締役

監事：神田延裕（株）三和銀行副頭取
成松啓二 関西電力（株）常務取締役

顧問：山本雅司 大阪通商産業局長

目的：産・学・官が一体となった近畿のバイオインダストリーの振興をより効果的に推進するため、新しい応用分野の開拓、技術開発基盤整備など総合的な振興の検討及びその具体策の推進を図る場として設置されたものである。



委員長
山村雄一

山村雄一（やまむら ゆういち）
1918年7月27日～1990年6月10日
臨床免疫学者。大阪府生まれ。

大阪大学医学部卒。
1949年大阪大学医学博士。「結核菌の安息香酸代謝に就て」。1956年に国立刀根山病院内科医長、1957年に九州大学医学部生化学教授、1962年に大阪大学医学部教授、1967年に同大学医学部長、1979年から1985年まで大阪大学総長を務めた。
癌の免疫療法であるBCG-CWSを開発。

山村雄一先生ご永眠 1990年6月10日

岡田善雄先生（大阪大学細胞工学センター教授）の送る言葉の一節に「…先生は『天の時、地の利、人の和』という言葉で、新しい企画を説得される事が多かった。ある意味で『天の時』と『地の利』は偶然的な色合いが濃い、いわゆる『天命』的なものがある。我々が意識的に努力できるのは、この句の最後に位置している『人の和』ということになろう。そのためであったのであろう、先生は「人が総てである」と口癖のようにおっしゃっていた…」

TOPICS 1990年

第2代委員長に、千畑一郎氏 就任

第5回委員総会：1990年（平成2年）6月21日

特別顧問：福井三郎 京都大学名誉教授

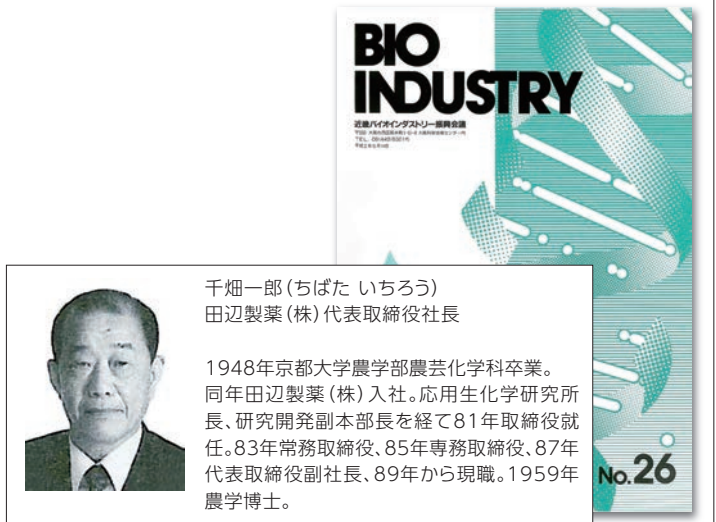
委員長：千畑一郎 田辺製薬（株）代表取締役社長

副委員長：岡田善雄 大阪大学細胞工学センター教授
鳴海欽一 サントリー（株）専務取締役
西澤吉彦 住友化学工業（株）専務取締役

幹事長：山田秀明 京都大学農学部教授
山田康之 京都大学農学部教授

監事：橋本安雄 関西電力（株）常務取締役

顧問：麻生渡 近畿通商産業局長



千畑一郎（ちばた いちろう）
田辺製薬（株）代表取締役社長

1948年京都大学農学部農芸化学科卒業。
同年田辺製薬（株）入社。応用生化学研究所長、研究開発副本部長を経て81年取締役就任。83年常務取締役、85年専務取締役、87年代表取締役副社長、89年から現職。1959年農学博士。

TOPICS 1996年

第3代委員長に、秋吉節氏 就任

第11回委員総会：1996年（平成8年）6月18日

特別顧問：福井三郎 京都大学名誉教授

委員長：秋吉節 塩野義製薬（株）相談役

副委員長：岡田善雄 大阪大学名誉教授
安部川佳司 サントリー（株）顧問
新田恒治 松下電器産業（株）取締役研究本部長
五十川昌孝 鐘淵化学工業（株）常務取締役

幹事長：新名惇彦 奈良先端大教授

監事：橋本安雄 関西電力（株）常務取締役
清水庸介 三和銀行常務取締役

顧問：岩田満泰 近畿通商産業局長
千畑一郎 田辺製薬（株）代表取締役社長

事務局長：田村格 塩野義製薬（株）



秋吉節（あきよし たかし）
塩野義製薬（株）相談役

1953年東京大学医学部薬学科卒業。
同年塩野義製薬（株）入社。第五学術部長、製品部長を経て78年取締役就任。81年企画部長、85年常務取締役、90年専務取締役、93年副社長、96年から現職。
1987年薬学博士。

TOPICS 1999年

近畿圏バイオ技術整備事業受託



バイオ分野の産業化基盤技術、産業化促進のための課題調査し、約300名のバイオ研究者、約600のバイオ技術シーズを集積してまとめた。



バイオ技術シーズを活かすため、シーズ公開会を開始。

- ① 専属コーディネータによるシーズ検討（コーディネータ会議）
- ② シーズ・ニーズのマッチングの場（技術シーズ公開会）
- ③ JAICとの近畿バイオファンド設立

バイオシーズ産業化のための バイオ技術シーズ公開会

開催回数 1999年より39回
発表件数 424シーズ
参加者 3,000名以上

フォローアップ勉強会

研究プロジェクトの創生
バイオベンチャーの創生

TOPICS 2001年

第4代委員長に、清水當尚氏 就任

第16回委員総会：2001年(平成13年)6月8日

委員長：清水 當 尚 大日本製薬(株)

副委員長：岡 田 善 雄 大阪大学名誉教授
大 橋 武 久 鐘淵化学工業(株)
橋 本 忠 夫 サントリー(株)

幹 事 長：小 林 昭 雄 大阪大学教授

監 事：秋 山 哲 夫 関西電力(株)
野 村 正 朗 大和銀行

事務局長：遠 山 伸 次 塩野義製薬(株)



清水當尚(しみず まさなお)
大日本製薬(株)相談役

1953年京都大学医学部薬学科卒業、同年大日本製薬(株)入社。77年取締役・総合研究所長、80年常務取締役・研究開発所長。85年専務取締役、91年副社長、93年副会長、97年から現職。
1961年薬学博士。

TOPICS 2002～2003年

近畿産業クラスター計画

「近畿バイオ関連産業プロジェクト」補助事業を受託

2002年7月、当振興会議が中核推進機関として指定を受け、「近畿バイオ関連産業クラスター部会」を発足させ事業を開始。

- 1 近畿圏バイオベンチャー・データマップ、研究者データマップの整備
- 2 技術シーズの収集、産業化可能性の検討(コーディネータ会議)
- 3 技術シーズ公開会の開催
- 4 フォローアップ勉強会の開催
- 5 各種バイオセミナー(異業種からの参入、先端技術の普及)
- 6 情報提供

近畿バイオのNPO法人化

行政等が実施する各種公募事業(地域コンソーシアム、補助金等)を直接受託するため、法人格が必要。

2002年	7月 18日	NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議設立総会(有志で設立)
2002年	8月 15日	NPO法人設立認証申請書提出
2002年	12月 4日	大阪府知事より認証
2002年	12月 11日	設立登録完了
2003年	3月 24日	臨時会員総会にて任意団体近畿バイオインダストリー振興会議を解散、すべての財産、権利、義務等をNPO法人近畿バイオインダストリー振興会議に承継することを承認。
2003年	4月 1日	NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議として活動開始

TOPICS 2004年

「関西バイオの未来を考える会」発足

近畿バイオは、近畿圏のバイオの振興とともにバイオクラスター形成に向けた各種の活動を展開してきた。その成果の一端として「バイオは関西」と自他共に認められるようになった。今後、この関西のバイオが期待されるような活力を得て、わが国のバイオの核となるためには、各分野の若手で最新の研究に携わっている“関西のバイオニューリーダー”の協力が不可欠である。近畿バイオでは、下記のような先生方の同意を得て、「関西バイオの未来を考える会」を結成し、各ご専門分野の最新のご研究を紹介して議論するとともに産業界への普及を推進した。

関西バイオの未来を考える会 会員 (50音順)

1. 安 達 宏 昭 (大阪大学) 電気工学	10. 黒 田 俊 一 (大阪大学) ナノバイオ	19. 福崎英一郎 (大阪大学) メタボローム
2. 植 田 充 美 (京都大学) コンビバイオ	11. 近 藤 昭 彦 (神戸大学) 細胞表層工学	20. 藤 井 郁 雄 (大阪府大) 抗体酵素
3. 宇 山 浩 (大阪大学) 物質工学	12. 坂 田 恒 昭 (神戸大学) ゲノム創薬	21. 南 野 直 人 (国立循環器) プロテオーム
4. 近江谷克裕 (産総研) 発光タンパク	13. 杉 本 直 己 (甲南大学) 機能分子化学	22. 三 宅 正 人 (産総研) セルチップ
5. 梶 本 修 身 (大阪外大) 機能性食品	14. 高 木 昌 宏 (北陸先端大) タンパク質材料科学	23. 森 下 竜 一 (大阪大学) 遺伝子治療
6. 梶 本 哲 也 (京都薬大) 医薬品製造	15. 田 畑 泰 彦 (京都大学) 再生医療	24. 矢 野 浩 之 (京都大学) 生物機能材料
7. 加 藤 功 一 (京都大学) 医療材料	16. 玉 井 克 人 (大阪大学) 遺伝子治療	25. 山 中 伸 弥 (京都大学) ES細胞
8. 家戸敬太郎 (近畿大学) マリンバイオ	17. 田 丸 浩 (三重大学) 発生バイオ	26. 吉 田 和 哉 (奈良先端大) 植物バイオ
9. 河 田 照 雄 (京都大学) 食品機能	18. 橋 本 堂 史 (神戸大学) 食品・栄養化学	

TOPICS 2004～2005年

地域連携フォーラム開催

近畿圏内のベンチャー間交流のみならず、バイオ研究が盛んな地域間交流を推進するために、2004年北海道バイオ産業振興協会(HOBIA)との交流協定を締結、さらに2005年沖縄・南西地域産業活性化センターとの交流を開始して、北海道―近畿―沖縄のバイオベンチャーの連携・交流を目的としてバイオ産業の発展に寄与した。



TOPICS 2006年

「食と運動の機能性に関する研究会」発足

本研究会は、健康な生活を維持するための重要な要素である食と運動の機能性の関係を解明し、第3期科学技術基本計画にも謳われている生涯健康な生活―生涯はつらつ生活を実現するための研究情報を集積し、新しい産業を立ち上げることを目的として発足した。

また、臨床医・各専門分野の第一人者と開発者との連携と相互理解により、医師が認め消費者に期待される機能性食品の開発を通じて、高齢化社会における健康の維持、疾病・老化の予防、我が国の食産業の発展に寄与することをめざした。

発起人(順不同)

吉 川 敏 一 京都府立医科大学内科学教室 教授	田 中 宏 暁 福岡大学スポーツ科学部運動生理学 教授
荒 井 綜 一 東京農業大学応用生物科学部 教授	高 波 嘉 一 同志社大学スポーツ医科学研究センター 教授
大 澤 俊 彦 名古屋大学大学院生命農学研究科 教授	鳥 井 信 吾 サントリー株式会社 副社長
渡 辺 恭 良 大阪市立大学大学院医学研究科 教授	高 橋 里 美 株式会社カネカ 常務取締役・研究開発本部長
鰐 淵 英 樹 大阪市立大学大学院医学研究科 教授	山 田 邦 雄 ロート製薬株式会社 社長
松 村 靖 夫 大阪薬科大学生命薬科学部門 教授	安 部 康 久 月桂冠株式会社 専務取締役
末 松 誠 慶応義塾大学医学部医化学教室 教授	森 弘 之 不二製油株式会社 常務
森 谷 敏 夫 京都大学大学院人間・環境学研究科 教授	田 中 隆 治 財団法人 サントリー生物有機化学研究所 副理事長

TOPICS 2007年

「バイオマス研究会」発足

本研究会は、持続可能な社会システムの実現にむけて再生可能な植物バイオマス資源からバイオ燃料はもとより、先端材料、化学製品、医薬品などの多種多様な化合物を統合的に生産する“統合バイオリファイナリー”の確立のため、バイオマス利用分野で活躍されている先生方にご講演をいただき、環境再生、資源回収、化石燃料代替エネルギー等の実用化技術情報を集約し、企業会員と幹事の先生方との密接な連携を図ることを目的として発足した。

発起人(順不同)

新 名 惇 彦 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 教授	宇 山 浩 大阪大学大学院工学研究科応用化学専攻 教授
福 田 秀 樹 神戸大学自然科学系先端融合研究環 教授	近 藤 昭 彦 神戸大学大学院工学研究科 教授
池 道 彦 大阪大学大学院 工学研究科環境エネルギー工学専攻 教授	鍋 島 成 泰 株式会社住化技術情報センター
植 田 充 美 京都大学大学院農学研究科応用生命科学専攻 教授	吉 田 和 哉 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 助教授

TOPICS 2009年

バイオベンチャー企業一覧作成

産業界に対して、研究成果等を効率的にアピールする機会が少ないバイオベンチャー企業のために、最新の研究開発状況を掲載したPR媒体として、2009年に整備した。以来、毎年更新して、冊子体(2012年はDVD)を作成したが、2013年以降はWEB上にて随時更新した。



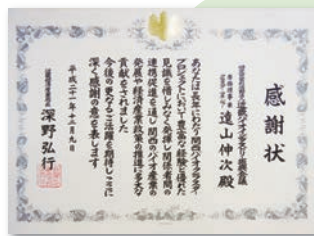
2009年作成冊子



2010年作成冊子



2011年作成冊子



近畿経済産業局から感謝状



2015年現在

TOPICS 2010年

「アドバイザーボード」設置

地域の産業集積活性化支援事業(近畿経済産業局事業)において、バイオベンチャー企業の研究成果事業化促進のための問題点、意見聴取のため、創業関連、再生医療、医療機器、食関連の分野において「アドバイザーボード」を設置した。

ボード委員

【創 業】

森 下 竜 一	大阪大学大学院 医学系研究科 教授
坂 田 恒 昭	塩野義製薬(株) 戦略企画部 部門長
岩 谷 邦 夫	クリングルフーマ(株) 代表取締役社長
湯 山 和 彦	(株)ジーンデザイン 代表取締役社長
小 野 圭 一	大日本住友製薬(株) 常務執行役員

【医療機器】

妙 中 義 之	国立循環器病センター 副所長
岩 田 博 夫	京都大学 再生医科学研究所 教授
前 田 拓 巳	(株)島津製作所 技術推進部長
渡 辺 充	シスメックス(株) 研究開発企画本部長

【再生医療】

川 真 田 伸	先端医療振興財団 上席研究員
木 下 茂	京都府立医科大学 医学研究科 教授
田 口 隆 久	産業技術総合研究所 関西センター所長
小 澤 洋 介	J-TEC (ジェイテック) 代表取締役社長

【食関連】

吉 川 敏 一	京都府立医科大学 医学研究科 教授
寺 尾 純 二	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究科 教授
田 中 隆 治	サントリーホールディングス(株) 技術監

TOPICS 2011年

「関西バイオビジネスマッチング」事業スタート

本事業は、世界的に高い成長が見込まれているバイオ関連産業分野において、地域の産学官等が連携して、中小・ベンチャー企業と大企業・中堅企業とのビジネスマッチング、国内他地域の企業とのビジネスマッチングを活性化するための取組を展開することにより、近畿地域に新たな成長産業群としてのバイオ関連産業群を創出することを目的としてスタートした。



TOPICS 2012年

第5代理事長に新名惇彦氏就任

第10回理事総会：2012年(平成24年)6月8日

理 事 長：新 名 惇 彦 奈良先端科学技術大学院大学 副学長

副 理 事 長：田 中 隆 治 星薬科大学 学長
植 田 充 美 京都大学大学院 教授
山 田 正 彦 (株)カネカ 上席幹部

専 務 理 事：井 上 了 元大日本製薬(株)

常 務 理 事：坂 田 恒 昭 塩野義製薬(株)
藤 川 茂 昭 サントリーウエルネス(株)

事 務 局 長：魚 谷 信 夫 塩野義製薬(株)



新名惇彦(しんみょう あつひこ)
奈良先端科学技術大学院大学 副学長

1965年大阪大学工学部醗酵工学科卒業。
1970年同大学院工学研究科醗酵工学専
士課程修了(工学博士)、大阪大学工学部醗
酵工学科・助手。1977年米国マサチューセツ工
科大学・博士研究員(1978年まで)1992年
大阪大学工学部応用生物工学科・教授。
1994年奈良先端科学技術大学院大学バイオ
サイエンス研究科・教授。2008年同大学停年
退職、名誉教授。2009年同大学理事・副学長
(2013年まで)。2013年同大学特任教授。
2012年近畿バイオ理事長就任。

TOPICS 2013年～2014年

会場参加型トークセミナー開始

座長に日経BPの宮田満氏をお迎えし、関西で活躍する企業のトップのご講演をお聞きした後、参加者とともにフリートークを行う「会場参加型トークセミナー」を新しく企画した。

第一回	2013年5月9日 「サラヤのビジネスと持続可能な社会への取り組み」	サラヤ株式会社 更家悠介 社長
第二回	2013年12月12日 「タカラバイオの事業戦略」	タカラバイオ株式会社 仲尾功一 社長
第三回	2014年12月11日 「不二製油でのバイオ取り組み」	不二製油株式会社 海老原善隆 会長



関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー開始

ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開している関西の先生方にご講演いただき、健康・医療産業に対するインスピレーションと産業化へのイマジネーションを参加者に感じていただくことを目的として開始した。

第一回	2014年9月30日 大阪大学大学院医学系研究科 竹 田 潔 教授 大阪大学大学院薬学研究科 小比賀 聡 教授
------------	---

TOPICS 2015年

30周年記念事業の開催

記念講演 2015年6月9日

会場：大阪科学技術センター8F 大ホール

「大阪大学が取り組む未来医療のいまとみらい」
大阪大学大学院 医学系研究科 医学部 医学系研究科長・医学部長 澤 芳樹

「神戸大学における改革」
神戸大学 前学長 福田 秀樹



30周年記念誌発行

NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議
「30年の歩み」



事務所移転

2015年9月事務所移転
新住所：大阪市中央区瓦町4丁目8-4
井門瓦町第2ビル 3階

TOPICS 2016年

第6代理事長に田中隆治氏就任

第14回理事会・総会：2016年（平成28年）6月13日

理 事 長：	田 中 隆 治	星薬科大学 学長
副 理 事 長：	坂 田 恒 昭 高 橋 賢 藏	塩野義製薬(株) シニアフェロー サントリーグローバルイノベーションセンター(株) 代表取締役会長
	山 田 正 彦	(株)カネカ 新規事業開発部 食料生産支援グループ 上席幹部
	近 藤 昭 彦	神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 教授 研究科長
専 務 理 事：	梅 村 勲	田辺三菱製薬(株)
常 務 理 事：	中 尾 正 宏	サントリーホールディングス(株)
	宇 山 浩	大阪大学大学院 工学研究科 教授
事 務 局 長：	松 村 俊 彦	大日本住友製薬(株)



田中隆治(たなか たかはる)
星薬科大学 学長

1969年金沢大学理学部生物学科卒業。
1971年神戸大学 大学院理学研究科修士・卒業、同年サントリー株式会社中央研究所入社。
1974年大阪大学タンパク質研究所受託研究員、1978年 大阪大学 理学博士取得。
同年サントリー株式会社中央研究所に復職。
2002年 取締役先進技術応用研究所所長、
2005年顧問・技術監、2008年 金沢大学 理事・副学長、2012年から2019年まで星薬科大学学長。
2016年から2022年まで近畿バイオ理事長。

TOPICS 2016年～2017年

バイオの次世代を考える会発足

次世代を担うアカデミアと企業の若手研究者が集い、違う立場から共通の接点や役割を見出し、新しい展開や創造につなげる異業種交流の場として「バイオの次世代を考える会」を2016年度に発足させた。

「再生医療技術を活用した動物実験代替法」検討会 (近畿経済産業局主催、近畿バイオ共催)

動物実験の代替手法として、複合組織チップの研究開発が急がれており、その早期実現を目的に「再生医療技術を活用した動物実験代替法」検討会を開催した。
(2017～2019年度)

年末バイオセミナーと新春国際交流会を一本化

2002年度から開催してきた年末バイオセミナーと新春国際交流会を、2017年度から1本化し、1月に開催することとした。



TOPICS 2018年～2019年

関西スマートセルフフォーラム (近畿経済産業局と近畿バイオの共同主催)

生物が持つ物質生産能力を人工的に最大限引き出した細胞“スマートセル”を利用したものづくりは製造プロセスの抜本改革につながる可能性がある。
スマートセルインダストリーの実現に向けた中小・ベンチャー企業に対する知財戦略支援事業として、関西スマートセルフフォーラムを開催した。(2018～2020年度)

ライフサイエンス事業化推進事業(大阪府受託)

大阪府主催事業の運営を2019年度に近畿バイオとして初めて受託した。本事業では、有望な製品・技術シーズを有する府内ライフサイエンス中小・ベンチャー企業等のグローバルなビジネス展開支援の一環として、海外企業との商談会やセミナーを実施しており、2025年度現在も継続して受託している。



TOPICS 2020年

コロナ禍を機にデジタル化加速

2020年4月7日に政府から緊急事態宣言が発令され不要不急の外出は不可となった。急遽PCのモバイル化とzoom導入による会議のオンライン化を進め、在宅勤務を可能とした。年間計17回のセミナーを全てオンラインで実施した結果、参加者が前年比約2倍となり大きな効果があった。

ホームページをリニューアル

WordPressを用いた新しいシステムに刷新した。トップページはバイオテクノロジーの応用分野である「ヘルスケア/食/農業/環境」をひと目でイメージできるデザインとし、事業を体系立てて発信できる構成にした。

新規会員紹介イベントの開始

近畿バイオ会員に対して新規入会会員を紹介するオンラインイベントを企画した。会員相互の理解を深める良い機会となり、いくつかの商談に発展した。2021年以降は「活動報告会」として継続的に開催している。



TOPICS 2021年

バイオコミュニティ関西発足

内閣府のバイオ戦略に基づくグローバルバイオコミュニティの形成を目指し、「バイオコミュニティ関西(略称:BiocK)」を2021年7月に設立した。産業界が中心となって、社会課題解決のためのオープンイノベーションの場をつくることがコンセプトであり、近畿バイオと都市活力研究所が事務局を担当している。

毛細血管ラボ・社会実装コンソーシアム開始

毛細血管画像を健康指標として確立すること、およびその社会実装を行うことを目的として、2021年8月にコンソーシアムを設立した。

関西バイオビジネスマッチングをオンライン化

従来、リアル会場で実施していた関西バイオビジネスマッチングを完全オンライン化した。EventHub社のシステムを導入し、全国どこからでも時間と場所に制約されずに参加できる体制を整えた。



TOPICS 2022年

第7代理事長に坂田恒昭氏就任

第22回理事会 2022年(令和4年)7月1日

理 事 長：	坂 田 恒 昭	大阪大学共創機構 特任教授
副 理 事 長：	近 藤 昭 彦	神戸大学 副学長 大学院科学技術イノベーション研究科 教授 研究科長
	柴 田 浩 志 田 岡 直 明	サントリーウエルネス(株) 専務取締役 (株)カネカ 理事 アグリ・バイオ&サプリメント研究所 所長
	縄 野 雅 夫	田辺三菱製薬(株) 創薬本部長
専 務 理 事：	高 田 清 文	サントリーホールディングス(株)
常 務 理 事：	宇 山 浩 川 並 弘 子	大阪大学大学院 工学研究科 教授 田辺三菱製薬(株)
理事・事務局長：	国 松 武 史	住友ファーマ(株)



坂田恒昭(さかた つねあき)
大阪大学共創機構 特任教授
徳島大学研究支援・産官学連携推進部 客員教授
特定非営利活動法人 情報科学生物学会
(CBI学会) CBI研究機構
次世代モダリティ研究所 所長
神戸大学 産官学連携本部・産官学連携
アドバイザーフェロー

1977年大阪大学理学部生物学科卒業。
1979年大阪大学大学院理学研究科生理学
専攻修了。1990年医学博士(東北大学医学
部生理学専攻)。1979～2021年塩野義製薬
株式会社シニアフェロー。

TOPICS 2022年

バイオコミュニティ関西が 内閣府のグローバルバイオコミュニティに認定

内閣府の「バイオ戦略」に基づくグローバルバイオコミュニティに、バイオコミュニティ関西 (BiocK) が認定された。2030年に世界最先端のバイオエコノミー社会を実現するため、研究開発から事業化までの多様な主体が関わる戦略的なバリューチェーンを構築し、バイオ分野で世界をリードするグローバルコミュニティを形成することが目的である。



バイオベンチャーデータベース

近畿バイオが運営してきた「関西バイオベンチャー企業一覧」と、バイオインダストリー協会 (JBA) が運営してきた「バイオベンチャーダイレクトリー」を統合し、新たに「バイオベンチャーデータベース」として共同で運営することとした。2025年12月現在の登録企業数は370社。



TOPICS 2023年

バイオコミュニティ関西 (BiocK) の活動

BiocK発足後、各方面への趣旨説明および連携協議を進めた結果、2年間で分科会29件、アドバイザー26名、連携機関101件に達した (2024年3月現在)。

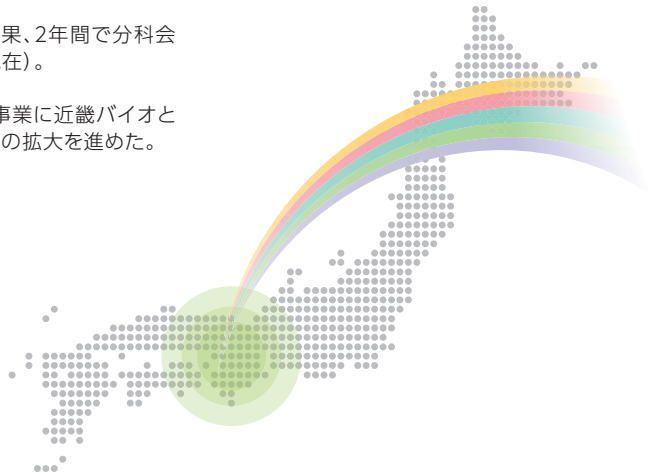
また、BiocK分科会活動支援の一環として、以下2件のJST受託事業に近畿バイオとして参画すると同時に、BiocKおよび近畿バイオの海外ネットワークの拡大を進めた。

スタートアップ創出/成長の促進支援

分科会名: デジタルバイオヘルス分科会
リーダー機関: 国立循環器病研究センター
実施内容: 海外調査
期間: 2023～2025年度

人材育成プログラム構成の強化と実施

分科会名: フォトニクス生命工学分科会
リーダー機関: 大阪大学
実施内容: 国内調査、海外調査
期間: 2023～2024年度



TOPICS 2024年～2025年

Bioeconomy Hub Japan開催

バイオコミュニティ関西 (BiocK) が発起団体となり、全国6つの内閣府認定バイオコミュニティが組織委員会を設立し、グローバルな情報発信と市場拡大に向けた国際連携の強化を目的として、国際シンポジウムを開催した。

Bioeconomy Hub Japan 2024では国内登壇者を中心に、Bioeconomy Hub Japan 2025では海外からの登壇者も加え「バイオによるイノベーションがプラネタリーヘルスをどう実現するか」について議論を行った。

バイオの次世代を考える会 再スタート

バイオの若手研究者の異業種交流会として2016年から活動していたが、目的を検討し直し、関西を中心にエコシステムを根付かせるため、産官学のバイオニューリーダーの密な協力を促し、若手のネットワーク形成とオープンイノベーションに繋がる交流活動を行うことを目的として再スタートした。



理事会・総会・記念講演会

毎年6月に理事会および総会を開催し、前年度の事業報告および活動計算書、当年度の事業計画および活動予算書を審議している。終了後は有識者をお招きした記念講演会を開催している。理事および会員が集まる貴重な場であり、交流会では参加者による活発な情報交流が行われている。



年 月 日	テ ー マ	講 師
2003年6月2日	これからのゲノム創薬	藤野 政彦 武田薬品工業株式会社 代表取締役会長
2004年6月7日	経済産業省のバイオ施策と近畿経済産業局の取り組みについて	宮城 勉 近畿経済産業局 局長
	P値<臨床的意義	福原 俊一 京都大学大学院 医学研究科 医療疫学分野 教授
2005年6月16日	バイオが導く治療学	金田 安史 大阪大学大学院 医学系研究科 遺伝子治療学分野 教授
	今、そこにあるバイオテクノロジー	植田 充美 京都大学大学院 農学研究科 応用生命科学専攻 教授
	人は何故、お茶を飲むのか!	田中 隆治 サントリー株式会社 顧問・技術監
2006年6月16日	経済産業省のバイオ施策の現状	徳増 有治 経済産業省 生物化学産業課長
	医薬基盤研究所と研究活動	山西 弘一 独立行政法人医薬基盤研究所 理事長
2007年6月8日	ベンチャー企業経営の醍醐味	岩谷 邦夫 クリングルファーマ株式会社 代表取締役
	大学発ベンチャー設立の裏話 ～株式会社創昌の歩み～	安達 宏昭 株式会社創昌 代表取締役社長
2008年6月6日	ゲノムサイエンスの現状と未来 ～微生物ゲノム研究を中心に～	小笠原 直毅 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授
	心再生医療の現状と展望	澤 芳樹 大阪大学大学院 医学系研究科 外科学講座 教授
2009年6月15日	若さを保つ方法 ～癌、生活習慣病の予防～	吉川敏一 京都府立医科大学大学院 医学研究科 教授
	新型インフルエンザ (H1N1) の現状と問題点	高橋 和郎 大阪府立公衆衛生研究所 副所長 / 感染症部長
2010年6月14日	がんと人間と社会	垣添 忠生 国立がんセンター 名誉総長
2011年6月6日	医療のパラダイムシフト ～遺伝子解析とオーダーメイド医療～	堀 正二 大阪府立成人病センター 総長
2012年6月8日	薬物トランスポーター研究の進歩:from Bench to Bedside	乾 賢一 京都薬科大学 学長
2013年6月3日	iPS細胞誕生秘話	高橋 和利 京都大学 iPS細胞研究所 講師
	近畿バイオの3学長が語る産学連携	福田 秀樹 神戸大学 学長 田中 隆治 星薬科大学 学長 吉川 敏一 京都府立医科大学 学長
2014年6月9日	21世紀の科学を覗く	西川 伸一 JT生命誌研究館 顧問 / NPO法人AASJ 代表
2015年6月9日	大阪大学が取り組む未来医療のいまとみらい	澤 芳樹 大阪大学大学院 医学系研究科長 / 医学部長
	神戸大学における改革 ～バイオ分野の強化も含めて～	福田 秀樹 神戸大学 前学長
2016年6月13日	新規がん免疫治療薬抗PD-1抗体ニボルマブの研究開発	柴山 史朗 小野薬品工業株式会社 研究本部・免疫研究センター
2017年6月5日	オートファジー研究の最前線:医薬品・化粧品・機能性食品開発の可能性	吉森 保 大阪大学大学院 医学系研究科 遺伝学教室 特別教授 / 附属オートファジーセンター・センター長
2018年6月25日	制御性T細胞と新しい免疫医療	坂口 志文 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 実験免疫学 教授
2019年6月19日	アベノミクスにおける規制改革と2025大阪・関西万博による関西活性化	森下 竜一 内閣府規制改革推進会議委員 / 内閣官房健康医療戦略室戦略参与 / 大阪大学大学院 医学系研究科 教授
2020年6月23日	「人生100年時代」の医療・介護 ～アフターコロナ / withコロナをふまえて～	江崎 禎英 経済産業省 商務・サービスグループ 政策統括調整官 (兼)厚生労働省 医政局 統括調整官 (兼)内閣官房 健康・医療戦略室 次長
2021年6月17日	データ立国論	宮田 裕章 慶應義塾大学 医学部医療政策・管理学教室 教授
2022年6月22日	CEOとしての意思決定	中山 譲治 第一三共株式会社 常勤顧問
2023年6月20日	生命を捉えなおす 一動的平衡の視点からー	福岡 伸一 青山学院大学 総合文化政策学部 教授
2024年6月20日	バイオインダストリーとイノベーション	更家 裕介 サラヤ株式会社 代表取締役社長
2025年6月20日	免疫研究と臨床応用	熊ノ郷 淳 大阪大学 総長



内閣府のバイオ戦略に基づくグローバルバイオコミュニティの形成を目指し、「バイオコミュニティ関西(略称:BiocK)」を2021年7月に設立した。関西における産官学の法人及び団体を代表する者からなる「委員会」を中心にコミュニティを運営し、その事務局は NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議と公益財団法人都市活力研究所が共同して担っている。最も重要な活動であるイノベーションの促進を確実に実行するため、「分科会」を設置し、社会課題解決のためのオープンイノベーションを推進している。また、ネットワーク形成促進のベースとして活用するため「アドバイザー」および「連携機関」を設けている。これらの連携・連鎖を促し、アンダーワンルーフの下、相乗効果を高める活動を推進している。

バイオコミュニティ関西について

ビジョン	持続可能な社会実現のため、バイオファーストの発想を広げ、グローバルバイオコミュニティの形成をめざす
ゴール	関西を拠点にバイオ分野における究極のエコシステムをつくる
キーワード	「集積」から「連携」へ つなぐ、つなげる、つながる

名 称	✓ バイオコミュニティ関西 ✓ Biocommunity Kansai ✓ 略称 BiocK (バイオック)
設立・認定	✓ 2021 年 7 月 1 日設立 ✓ 2022 年 4 月 22 日 内閣府より ✓ グローバルバイオコミュニティに認定
アクション プラン	✓ イノベーションの促進 ✓ ネットワーク形成促進 ✓ 国内外への情報発信
コミュニティの あり方	✓ 「産業界」中心のコミュニティとする ✓ バイオ界全体の連携を強化する ✓ 新たなイノベーションにつなげる

「連携」が意味すること

ネットワーク機関が中心となって、コミュニティ内の人と情報の交流を促進することにより、各機関がお互いの状況を深く理解し、適切な情報共有が進む状態をつくり出し、必要なパートナーと協力し、人・モノ・金・情報の好循環が進み、経済的な成長を達成するとともに、グローバルな存在感を増している状態

「集積」から「連携」へ！



バイオコミュニティ関西のロゴと説明



形

バイオ関連拠点であることを、バイオ (Bio) の「B」で表します。

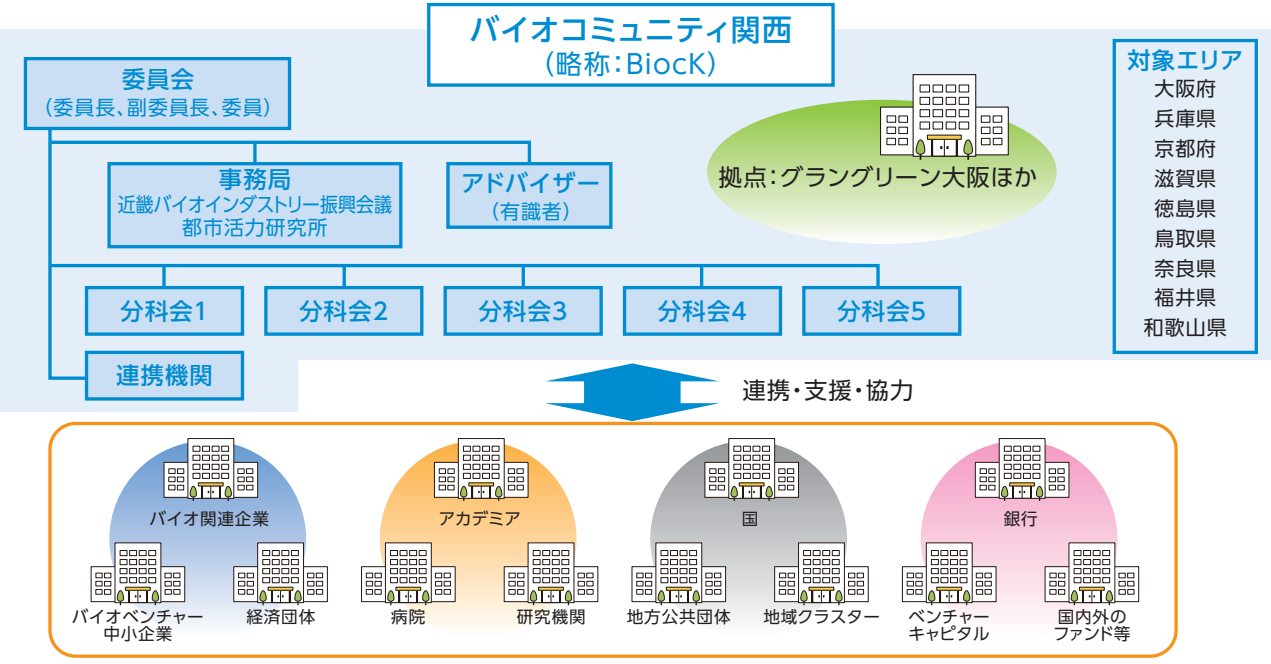
カラー

持続可能な社会の実現という大きな目標を掲げる私たちにとってSDGsは大切な指針となります。そこで起用されている17色を用い、多様性や未来への可能性を示します。

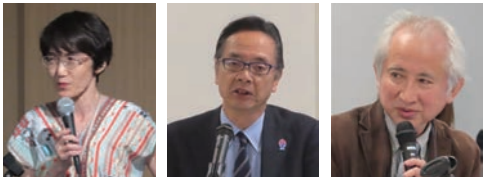
K

BiocKの“K”は、関西 (Kansai) 発信の組織であることをアピール。関西は、青々とした山脈、広大な湖や豊かな海、水の都と言われる都市を擁します。また、青の中でも赤みを帯びた色調で、落ち着いた中にも情熱を感じられるBiocKの野心的かつ先進的な取組みを表現しています。

バイオコミュニティ関西の組織



バイオコミュニティ関西 委員構成



澤田 拓子 諸 富 隆 一 坂 田 恒 昭
2025年7月10日現在

役員	委員長	澤 田 拓 子	関西経済連合会ベンチャー・エコシステム委員会 委員長
	副委員長	諸 富 隆 一	関西経済連合会ベンチャー・エコシステム委員会 副委員長 関西経済同友会関西ブリッジフォーラム委員会 委員長
	副委員長 統括コーディネーター	坂 田 恒 昭	NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 理事長 大阪商工会議所ライフサイエンス振興委員会 副委員長 全国バイオコミュニティ連絡会 会長
	事務局長	村 山 宣 人	NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 専務理事
	事務局次長	森 田 正 典	公益財団法人都市活力研究所 専務理事
	委員	関西経済連合会 関西経済同友会 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立研究開発法人国立循環器病研究センター 国立研究開発法人産業技術総合研究所関西センター 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 国立研究開発法人理化学研究所 独立行政法人製品評価技術基盤機構 公益財団法人地球環境産業技術研究機構 株式会社国際電気通信基礎技術研究所 関西健康・医療創生会議	大阪商工会議所 京都商工会議所 神戸商工会議所 大阪大学 京都大学 神戸大学 徳島大学 大阪公立大学 関西医薬品協会 日本貿易振興機構大阪本部 独立行政法人中小企業基盤整備機構近畿本部 一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン 一般財団法人バイオインダストリー協会 大阪府 大阪市 兵庫県 神戸市 京都府 京都市 滋賀県 徳島県 鳥取県 奈良県 福井県 和歌山県 堺市
事務局	NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 公益財団法人都市活力研究所		

1 イノベーションの促進

社会課題解決のためのオープンイノベーションを推進する責任あるコンソーシアム(分科会)を組成し、1企業、1研究機関では解決できないテーマを取り上げて挑戦している。

分科会構成 企業発オープンイノベーションの促進(16件)

2025年7月1日現在

分科会名称	社会課題分野	取組内容	リーダー機関	備考
バイオメタン分科会	環境・エネルギー	エネルギーのカーボンニュートラル化	大阪ガス株式会社	産官学から多くの研究機関が参画
プラスチック分科会	環境・エネルギー	バイオプラスチック	サラヤ株式会社	
メンタルヘルス分科会	ヘルスケア	社会生産性の向上	塩野義製薬株式会社	
パーソナルデータ分科会	ヘルスケア	パーソナルデータの利活用	西日本電信電話株式会社	
麹菌(国産)ウェルビーイング分科会	生活習慣改善ヘルスケア	麹菌の健康効果、美容効果の解明	月桂冠株式会社	
ライフスタイルDX分科会	デジタルヘルスケア	デジタルを活用したライフスタイルのアップデート	サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社	
トイレ空間での新たな価値提案分科会	ヘルスケア	トイレを利用した健康な暮らしのサポート	TOTO株式会社	
お茶とフレイル研究分科会	ヘルスケア	お茶によるフレイルの予防、改善	共栄製茶株式会社	
スマートカルチャーセッション分科会	持続的・一次生産システム	一次産業におけるバイオ機能の最大限活用	ヤンマーホールディングス株式会社	
木材・CLT利活用DX分科会	木材活用大型建築	Building Information Modeling(BIM) データ活用によるCLT再利用	株式会社竹中工務店	
KODOBOKU技術を活用した森林環境分科会	森林環境保全	豊かな生物多様性の森づくり	株式会社シーテック	
バイオファウンドリ・クラスター分科会	モノづくりバリューチェーン	バイオモノづくり	株式会社バックス・バイオイノベーション	
分析・計測分科会	バイオ分野全般	分析・計測によるバイオ産業の振興	株式会社島津製作所	
宇宙バイオ実験分科会	バイオ全般	人工衛星ペイロードを利用した日本発 民間主導宇宙バイオ実験プラットフォームの構築	株式会社IDDK	
音でバイオの世界をかえる分科会	バイオ生産システム・ヘルスケア	バイオ生産、ヘルスケア領域への音の利用	オンキヨー株式会社	
スタートアップ分科会	スタートアップ支援	関西におけるスタートアップ支援	株式会社三井住友銀行	
新たな分科会の中核機能を担う「企業」・「産学官連携プロジェクト」 募集中				

分科会構成 産官学連携プロジェクトとの連携(15件)

2025年7月1日現在

分科会名称	社会課題分野	取組内容	リーダー機関	備考
デジタルバイオヘルス分科会	ヘルスケア	総合健康産業都市	国立循環器病研究センター研究所	JST共創の場
フォトニクス生命工学分科会	ヘルスケア	フォトニクス生命工学	大阪大学	JST共創の場
Vision to Connect分科会	ヘルスケア	眼科を中心としたデジタルヘルスピッグデータによる幸福なライフスタイルの社会実装	東北大学	JST共創の場
モダリティー分科会	ヘルスケア	抗体・遺伝子治療製品・ワクチン製造	次世代バイオ医薬品製造技術研究組合(MAB組合)	AMED・NEDO
メドテックイノベーション分科会	ヘルスケア	医療機器開発人材育成	大阪大学/テルモ株式会社	
ヘルスエクイティDX分科会	ヘルスケア	ケアラーのケアシステム構築	自治医科大学/アルム株式会社	
細胞製造分科会	再生医療	細胞製造工システムの構築	大阪大学	AMED
再生医療分科会	再生医療	再生医療工システムの構築とグローバル化	大阪大学	
健康関数®分科会	健康脆弱化の予防・予防・改善	個別健康の最大化により健康寿命を延伸する	神戸大学、理化学研究所	
フードロス分科会	持続的・一次生産システム	革新的低フードロス共創拠点	大阪大学	
デジタルグリーン分科会	持続的・一次生産システム/ デジタルヘルス/バイオ生産	けいはんな学研都市と近郊農山村が相互補完する持続可能社会の実現	奈良先端科学技術大学院大学	
バイオマス分科会	カーボンニュートラル	バイオマス技術によるカーボンゼロエミッションの実現	東京農工大学	JST共創の場
ホワイトバイオ分科会	ホワイトバイオ関連	バイオファウンドリ事業	大阪大学(代表世話人)	NEDO
バイオ産業人材育成分科会	バイオ生産システム人材育成	バイオものづくりの実務を担うバイオ産業人材育成	大阪工業大学	NEDO
未来型都市分科会	持続可能社会	未来型知的インフラモデル発信	大阪大学	JST共創の場
新たな分科会の中核機能を担う「企業」・「産学官連携プロジェクト」 募集中				

分科会活動

オープンイノベーションの成功に向けて

分科会会議で議論



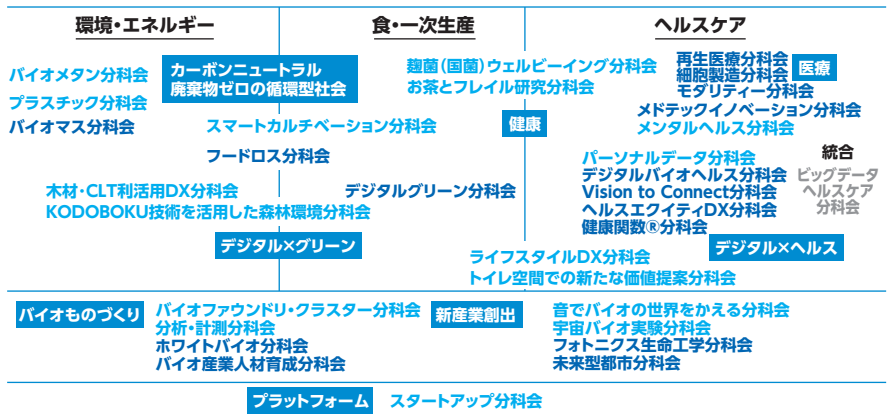
BiocKによる分科会支援活動

分科会のニーズに応じた

- ① パートナー探し
- ② 情報発信支援
- ③ 公的資金獲得支援

目標達成へ!

分科会マッピング

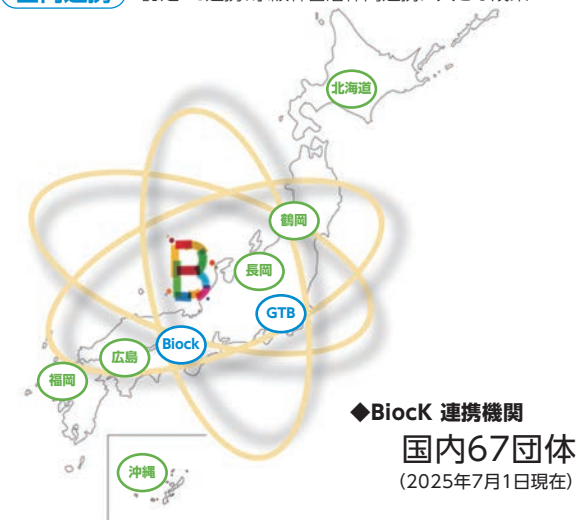


薄青:企業発オープンイノベーション分科会
濃青:産官学連携プロジェクトとの連携分科会

2 ネットワーク形成促進

バイオエコシステムの構築に向けて、国内外とのネットワークの形成を加速し、連携事業や情報交流を推進している。

国内連携 認定BC連携、京阪神自治体間連携に大きな成果



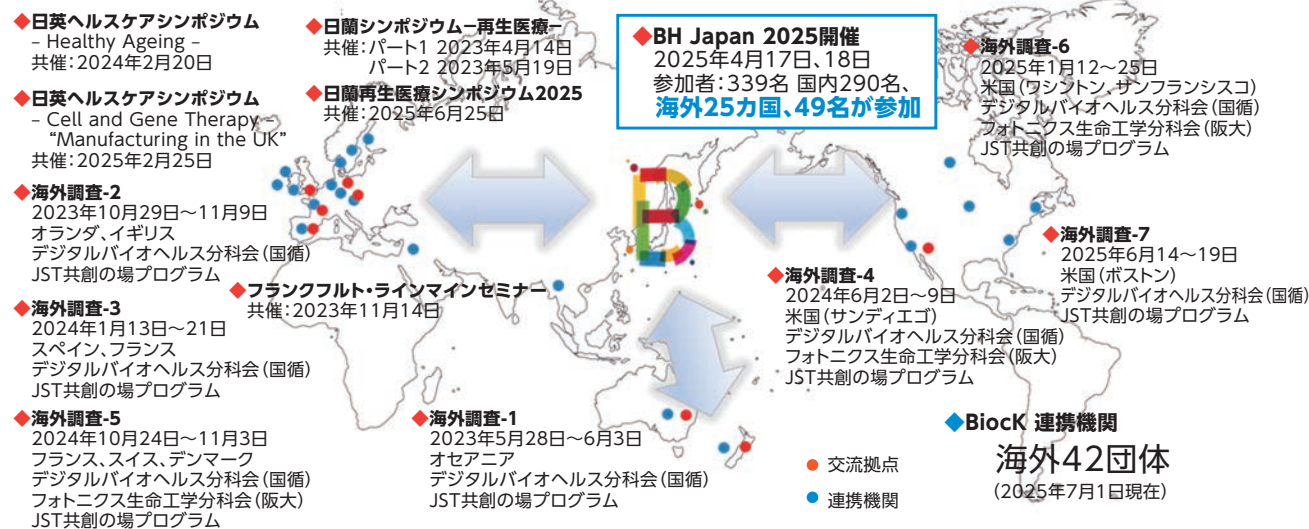
内閣府認定 グローバルバイオコミュニティ

Greater Tokyo Biocommunity 協議会(GTB)
バイオコミュニティ関西(BioCK)

内閣府認定 地域バイオコミュニティ

北海道プライムバイオコミュニティ
鶴岡バイオコミュニティ
長岡バイオコミュニティ
ひろしまバイオDXコミュニティ
福岡バイオコミュニティ
沖縄バイオコミュニティ

海外連携 各国との交流が飛躍的に拡大(2023~2025を記載)



◆日英ヘルスケアシンポジウム
- Healthy Ageing -
共催:2024年2月20日

◆日英ヘルスケアシンポジウム
- Cell and Gene Therapy
"Manufacturing in the UK"
共催:2025年2月25日

◆海外調査-2
2023年10月29日~11月9日
オランダ、イギリス
デジタルバイオヘルス分科会(国循)
JST共創の場プログラム

◆海外調査-3
2024年1月13日~21日
スペイン、フランス
デジタルバイオヘルス分科会(国循)
JST共創の場プログラム

◆海外調査-5
2024年10月24日~11月3日
フランス、スイス、デンマーク
デジタルバイオヘルス分科会(国循)
フォトニクス生命工学分科会(阪大)
JST共創の場プログラム

◆日蘭シンポジウム-再生医療-
共催:パート1 2023年4月14日
パート2 2023年5月19日

◆日蘭再生医療シンポジウム2025
共催:2025年6月25日

◆フランクフルト・ラインマインセミナー
共催:2023年11月14日

◆海外調査-1
2023年5月28日~6月3日
オセアニア
デジタルバイオヘルス分科会(国循)
JST共創の場プログラム

◆BH Japan 2025開催
2025年4月17日、18日
参加者:339名 国内290名、
海外25カ国、49名が参加

◆海外調査-6
2025年1月12~25日
米国(ワシントン、サンフランシスコ)
デジタルバイオヘルス分科会(国循)
フォトニクス生命工学分科会(阪大)
JST共創の場プログラム

◆海外調査-7
2025年6月14~19日
米国(ボストン)
デジタルバイオヘルス分科会(国循)
JST共創の場プログラム

◆海外調査-4
2024年6月2日~9日
米国(サンディエゴ)
デジタルバイオヘルス分科会(国循)
フォトニクス生命工学分科会(阪大)
JST共創の場プログラム

◆BiocK 連携機関
海外42団体
(2025年7月1日現在)

アドバイザー

各分野の専門家にアドバイザーにご就任いただき、助言を受ける体制を構築
36名(2025年7月1日現在)

3 国内外への情報発信

BiocKホームページを活用した情報発信

バイオのポータルサイトとして多くの団体が活用

分科会紹介ページの運用 アドバイザー紹介ページの運用	関連団体イベントの情報発信 HP掲載、メルマガ配信:年間約120件	BiocKおよび各団体からのお知らせ HP掲載、メルマガ配信:年間約50件
-------------------------------	--------------------------------------	--

BiocK WEBサイトで情報発信中!

BiocK
<https://biocK.jp/>

- イベント情報
- 分科会活動
- 連携機関



国際シンポジウム Bioeconomy Hub Japanの開催

バイオコミュニティ関西が発起団体となり、内閣府認定バイオコミュニティをメンバーとする組織委員会を設立し、本委員会が主催となり、グローバルな情報発信と市場拡大に向けた国際連携の強化を目的として、国際シンポジウムを開催した。

● Bioeconomy Hub Japan 組織委員会 2024年9月現在

委員長	澤田 拓子 (バイオコミュニティ関西 委員長)
副委員長	永山 治 (Greater Tokyo Biocommunity 協議会 会長) 諸 富 隆 一 (バイオコミュニティ関西 副委員長) 坂田 恒昭 (バイオコミュニティ関西 副委員長兼統括コーディネーター)
委員	瀬戸口 剛 (北海道プライムバイオコミュニティ 代表) 富田 勝 (鶴岡バイオコミュニティ (一般社団法人鶴岡サイエンスパーク 代表理事)) 磯田 達伸 (長岡バイオコミュニティ 代表) 山本 卓 (ひろしまバイオDXコミュニティ 代表) 鈴木 蘭美 (福岡バイオコミュニティ 代表) 岩本 竜吾 (沖縄バイオコミュニティ 代表) 高田 清文 (バイオコミュニティ関西 事務局長) 藤本 秀司 (バイオコミュニティ関西 事務局次長)
事務局	NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 (バイオコミュニティ関西事務局) 公益財団法人都市活力研究所 (バイオコミュニティ関西事務局)

ディレクター

プログラムディレクター
グローバルヘルス分野:テクニカルディレクター
環境分野:テクニカルディレクター
持続的な食料システム分野:テクニカルディレクター



坂田 恒昭
バイオコミュニティ関西 (BioCK)
副委員長 兼 統括コーディネーター
大阪大学 共創機構 特任教授



近藤 昭彦
神戸大学
名誉教授 学長補佐



小川 順
京都大学
大学院農学研究科
教授



Bioeconomy Hub Japan 2024



テーマ	プラネタリーヘルス ～バイオによるイノベーションがプラネタリーヘルスをどう実現するか～
日時	2024年4月19日 (金)
場所	グランフロント大阪
登壇者	国内8名、ディレクター3名
参加者数	110名
主催	Bioeconomy Hub Japan 組織委員会



基調講演	グローバルな疾病構造の変化と差し迫る地球環境問題 ●井村 裕夫 (京都大学 名誉教授)
基調講演	人新世に目指すプラネタリーヘルス ●春日 文子 (長崎大学 プラネタリーヘルス学環 熱帯医学・グローバルヘルス研究科 教授)
講演	脱炭素を目指すエネルギーシステム ●山地 憲治 (公益財団法人地球環境産業技術研究機構 (RITE) 理事長)
講演	低炭素社会実現に向けたバイオものづくりへの挑戦 ●上田 正博 (株式会社カネカ 常務執行役員 R&B本部長)
講演	食産業における新たな課題 ●阿部 啓子 (東京大学 名誉教授／東京農業大学 客員教授)
講演	食のサステナビリティとWell-being ●柏原 正樹 (味の素株式会社 執行役 ビジネスモデル変革担当 グリーン事業推進部長)
講演	One Healthアプローチの重要性:感染症の時代を生きるために ●前田 健 (国立感染症研究所 獣医科学部 部長)
講演	ライフサイエンス研究の動向と展望 (主にモダリティの観点から) ●辻 真博 (国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター ライフサイエンス臨床医学ユニット フェロー)



2024チラシ



- テ　　マ

プラネタリーヘルス
～バイオによるイノベーションがプラネタリーヘルスをどう実現するか～
- 日　　時

2025年4月17日(木)～18日(金)
- 場　　所

ハービスホール(大阪梅田)
- 登　　壇　　者

海外6名、国内9名、ディレクター3名
- 参加者数

339名(国内:290名、海外:25カ国　49名)
- 主　　催

Bioeconomy Hub Japan 組織委員会



総合討論

分野:環境(Enviroment)

モデレーター: 近 藤 昭 彦 (神戸大学 名誉教授 学長補佐)

Bioeconomy for human wellbeing and planetary health

- Anthony Guy Capon (Director, Monash Sustainable Development Institute, Professor of Planetary Health, Monash University, Australia)

The Social-Ecological Nexus of Water: Pursuing Global Water Sustainability in the Face of Climate Change and Technological Advancements

- Shahbaz Khan (Director of the UNESCO Regional Office for East Asia, Australia/China)

地球との共存を目指す知恵とは何か

- 山 極 壽 一 (総合地球環境学研究所 所長)

地球環境課題(CN/CE/NP) 解決に向けた、産業界におけるバイオモノ作りへの挑戦と今後の課題

- 三 田 紀 之 (三菱ケミカルグループ株式会社 執行役員 チーフサステナビリティオフィサー)
(代理: 佐 野 浩): (三菱ケミカルグループ株式会社 サステナビリティ・渉外本部 ビジネス・サステナビリティ部 部長付)

海洋生態系の課題への取り組みにおける微生物ゲノミクスの役割

- 竹 山 春 子 (早稲田大学 理工学術院 教授)

分野:持続的食料システム(Sustainable Food Systems)

モデレーター: 小 川 順 (京都大学大学院農学研究科 教授)

Advancing Food Security and Nutrition Resilience Through Science-Driven Bioeconomy Strategies

- Máximo Torero Cullen (Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO), Italy)

How the Bioeconomy Could Improve Human Health and the Environment

- David Tilman (University of Minnesota/University of California Santa Barbara, USA)

ゲノム編集作物のラボから消費者への旅

- 江 面 浩 (筑波大学 生命環境系 特任教授)

産業界の視点から見る持続可能なアグリフードシステムの未来

- 中 村 茂 雄 (味の素株式会社 代表執行役社長 最高経営責任者)

Foodtechによる食品(培養肉など)の普及に係る心がけについて

- 吉 富 愛 望 アビガイル (一般社団法人細胞農業研究機構 代表理事)

分野:グローバルヘルス(Global Health)

モデレーター: 坂 田 恒 昭 (バイオコミュニティ関西 副委員長 兼 統括コーディネーターノ大阪大学 共創機構 特任教授)

A new era in global health and the role of innovation

- Peter Karel Piot (London School of Hygiene & Tropical Medicine, U.K; Former Special Advisor to EC President von der Leyen on Health Security, Brussels, Belgium)

A Systems Approach to Climate and Health

- Montira Pongsiri (Lead Advisor, Climate Change and Health Department of Global Health, Save the Children, USA)

医療AIとデータ活用が切り拓く持続可能な社会への道

- 小 寺 聡 (東京大学医学部附属病院循環器内科 特任講師)

日本の基礎科学力と創薬力を生かして、世界の人々の健康に貢献する

- 栄 木 憲 和 (エイキ コンサルティング 合同会社 President)

プラネタリーヘルスの実現に果たすアカデミアの役割とは

- 村 木 倫 子 (大阪大学 経営企画オフィス 教授)



登壇者の集合写真

●スタートアップ紹介

分 類	企業名	事業内容	地域
環 境	bitBiome株式会社	微生物のシングルセルゲノム解析技術	東京
	株式会社ミーバイオ	光スイッチタンパク質を使ったバイオもののづくり	神奈川
	Symbiobe株式会社	空気(CO2、窒素)の資源化	京都
	株式会社フレンドマイクロブ	微生物による社会課題解決	愛知
	ファーマランタ株式会社	合成生物学による植物希少成分の製造・販売 物質生産のための菌株構築サービス	石川
	株式会社バックス・バイオイノベーション	統合型バイオファウンドリ	兵庫
持続的 食料システム	Spiber株式会社	新世代バイオ素材開発	山形
	サナテックライフサイエンス株式会社	ゲノム編集作物(GABA高含有トマト)	東京
グローバル ヘルス	株式会社ピオック	麹菌によるフードテクノロジー	愛知
	X-Nef株式会社	AIを用いた精神疾患の新しい治療	京都
	株式会社AdvanSentinel	感染症下水モニタリング	大阪
	株式会社メガカリオン	iPS細胞から血小板及び赤血球の産生	京都

●ポスター展示

バイオコミュニティ関西	内閣府認定バイオコミュニティ	その他
バイオメタン分科会	Greater Tokyo Biocommunity (GTB)	BioPhenolics株式会社
メンタルヘルス分科会	バイオコミュニティ関西 (BioCK)	ミーバイオ株式会社
パーソナルデータ分科会	北海道プライムバイオコミュニティ	株式会社シンプロジェン
ライフスタイルDX分科会	鶴岡バイオコミュニティ	自治医科大学/株式会社アルム
トイレ空間での新たな価値提案分科会	長岡バイオコミュニティ	インフォーマ マーケッツ ジャパン株式会社
木材・CLT活用DX分科会	ひろしまバイオDXコミュニティ	京都バイオ計測センター
KODOBOKU技術を活用した森林環境分科会	福岡バイオコミュニティ	
バイオファウンドリ・クラスター分科会	沖縄バイオコミュニティ	
分析・計測分科会		
宇宙バイオ実験分科会		
デジタルバイオヘルス分科会		
フォトニクス生命工学分科会		
Vision to Connect分科会		
バイオマス分科会		

●協 賛

株式会社カネカ
サントリーホールディングス株式会社
塩野義製薬株式会社
シスメックス株式会社
田辺三菱製薬株式会社
阪急阪神不動産株式会社
ダイキン工業株式会社

●広告協賛

アズワン株式会社

●後 援

内閣府
デジタル庁
外務省
文部科学省
厚生労働省
農林水産省
経済産業省
環境省
公益財団法人2025年日本国際博覧会協会



2025チラシ

バイオ戦略トークセミナー／BiocKシンポジウム

2021年1月29日 バイオ戦略トークセミナー 「アグリバイオ戦略」

日本のアグリバイオ戦略2050 年に向けて

●菱沼 義久（農林水産省 大臣官房技術総括審議官 兼 農林水産技術会議事務局長）

パネルディスカッション ●鶴 英明（ヤンマーホールディングス株式会社 技術本部
イノベーションセンター イノベーション企画部 部長）

●千葉 一裕（東京農工大学 学長）、および講演者



2021年3月29日 バイオ戦略トークセミナー 「ヘルスケアの未来戦略 デジタルヘルスの未来像」

いのち輝く未来社会の共創

●宮田 裕章（慶應義塾大学 医学部医療政策・管理学教室 教授）

バイオ戦略におけるヘルスケア分野での“ワンストップ”な AI活用術

●石山 洸（株式会社エクサウィザーズ 代表取締役社長）

パネルディスカッション ●小林 博幸（塩野義製薬株式会社 デジタルインテリジェンス部 部長）
●水川 貴史（塩野義製薬株式会社 研究企画部 部長）、および講演者

2021年10月1日 バイオ戦略トークセミナー 「環境エネルギーの未来戦略 バイオメタンの有効活用」

バイオガスのエネルギー利用とその高品質化について

●大下 和徹（京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 准教授）

日立造船のカーボンニュートラルに向けたバイオメタン、合成メタンへの取り組み

●田中 朝都（日立造船株式会社 環境事業本部 環境技術推進部 部長）

バイオメタンの最大化に向けて

●坪田 潤（大阪ガス株式会社 エネルギー技術研究所 シニアリサーチャー）

パネルディスカッション ●坪田 潤（大阪ガス株式会社 エネルギー技術研究所 シニアリサーチャー）、および講演者

2021年11月24日 バイオ戦略トークセミナー 「プラスチックの社会課題とバイオプラスチックの有効活用」

循環型社会実現に貢献するバイオプラスチックの開発とビジネス

●佐野 浩（三菱ケミカル株式会社 サークュラーエコノミー推進本部 兼 ポリマーズ&コンパウンズ企画本部）

バイオプラスチック総論と研究最前線

●宇山 浩（大阪大学 大学院工学研究科 教授）

パネルディスカッション ●宇山 浩（大阪大学 大学院工学研究科 教授）
●奥山 俊郎（サラヤ株式会社 商品開発本部 副本部長）、および講演者

2021年12月9日 バイオ戦略トークセミナー 「関西Bio拠点におけるスタートアップエコシステムの形成に向けて」

神戸大学発バイオベンチャーの事例研究～シード期からアーリー後期迄の事業創造プロセスと現状の課題～

●山本 一彦（神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 教授）

事業会社のオープンイノベーションへの期待と課題

●劉 雷（アストラゼネカ株式会社 イノベーションパートナーシップ&i2.JP）

世界初の「再生誘導医薬」の開発経緯とステムリムのビジネスモデル

●岡島 正恒（株式会社ステムリム 代表取締役 社長執行役員）

パネルディスカッション ●宮川 潤（株式会社三井住友銀行 関西成長戦略室 成長事業開発部 部長）
●長谷川 宏之（三菱UFJキャピタル株式会社 執行役員 ライフサイエンス部長）
●坂田 恒昭（バイオコミュニティ関西 副委員長 兼 統括コーディネーター）、および講演者



2022年5月27日 バイオコミュニティ関西(BiocK) キックオフセミナー

バイオコミュニティ関西への期待

●覺道 崇文（内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 審議官）

バイオコミュニティ関西の挑戦

●澤田 拓子（バイオコミュニティ関西(BiocK) 委員長）

英国のバイオコミュニティからの学びとバイオコミュニティ関西に期待すること、日英連携の可能性

●竹之下 泰志（ダークブルーセラピューティック社 取締役／アダージョセラピューティック社 欧州代表／リブバイオ社 社主／大阪大学 招聘教授）

日米連携によるスタートアップ支援とバイオコミュニティ関西に期待すること

●池野 文昭（MedVenture Partners 株式会社 取締役 CMO／Stanford University Program Director (U.S.) of Japan Biodesign、
Stanford Byers Center for Biodesign・Co-Director of Asia Region, SPARK Global, Stanford SPARK）

2022年7月25日 BiocKシンポジウム 「再生医療最前線～関西から世界へ～」

バイオコミュニティ関西(BiocK)について

●坂田 恒昭（バイオコミュニティ関西 副委員長 兼 統括コーディネーター）

iPS細胞を用いたパーキンソン病治療

●高橋 淳（京都大学iPS細胞研究所 所長・教授）

重症心不全に対する心筋再生医療

●澤 芳樹（大阪大学大学院医学系研究科 特任教授／大阪警察病院 院長）

角膜再生医療の実現化に向けて

●西田 幸二（大阪大学大学院医学系研究科 脳神経感覚器外科学講座(眼科学) 主任教授）

同種滑膜間葉系幹細胞を用いた軟骨再生 その実用化に向けて

●中村 憲正（大阪保健医療大学 教授／大阪大学国際医工情報センター 招聘教授）

再生医療の普及を支援する再生医療ナショナルコンソーシアムの活動について

●岡田 潔（大阪大学大学院医学系研究科・医学部附属病院 産学連携・クロスイノベーションイニシアティブ 特任准教授）

細胞製造の未来

●紀ノ岡 正博（大阪大学大学院工学研究科生物工学専攻 教授(兼) 工学研究科テクノアリーナ細胞製造コトづくり拠点 拠点長）

住友ファーマの再生・細胞医薬事業の取組状況

●木村 徹（住友ファーマ株式会社 代表取締役 専務執行役員）

網膜再生医療と医療側の準備

●高橋 政代（株式会社ビジョンケア 代表取締役社長）

パネルディスカッション ●澤 芳樹（大阪大学大学院医学系研究科 特任教授／大阪警察病院 院長）

●坂田 恒昭（バイオコミュニティ関西 副委員長 兼 統括コーディネーター）、および講演者



2023年3月9日 バイオ戦略トークセミナー 「ルール形成による市場創出～国際的な標準化や制度構築の動向について～」

NITEのご紹介

●山本 耕市（独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE) 大阪事業所長）

国際的な標準化、ルール形成に関する活動について

●吉田 耕太郎（ISO(国際標準化機構)CASCO(適合性評価委員会) 特別設置タスクフォース 国際エキスパート 独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE) 企画管理部 イノベーション支援課 課長）

標準化政策の動向

●木井 保夫（経済産業省 産業標準調査会基本政策部会 委員／NITE理事(バイオテクノロジー分野担当)）

チームNITEの取組

●徳永 清徳（独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE) 企画管理部 イノベーション支援課 専門官）

パネルディスカッション ●坂田 恒昭（バイオコミュニティ関西 副委員長 兼 統括コーディネーター）、および講演者

2023年8月3日 バイオ戦略トークセミナー 「オープンイノベーションによる成功の秘訣」

シン・一次産業：自然と共生し生命(いのち)の根幹を担うイノベーションへの挑戦

●鶴 英明（ヤンマーホールディングス株式会社 技術本部 共創推進室 専任部長）

シリコンバレーで見てきた脱炭素イノベーション ～欧米事例と日本の現在地～

●出馬 弘昭（東北電力株式会社 事業創出部門 アドバイザー／大阪大学フォーサイト株式会社 取締役／インベストメントLab株式会社 シニアアドバイザー／IZM 代表）

たった一人からはじめるイノベーション～ヘトヘトからワクワクへの仕組み創り～

●竹林 一（京都大学経営管理大学院 客員教授／オムロン株式会社 イノベーション推進本部 シニアアドバイザー）

パネルディスカッション ●坂田 恒昭（バイオコミュニティ関西 副委員長 兼 統括コーディネーター）

●高橋 俊一（一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン(LINK-J) 事務局長）、および講演者

2023年12月1日 バイオ戦略トークセミナー 「関西圏バイオクラスターの歴史と発展」

特別講演：我が国バイオ政策の展開

●下田 裕和（経済産業省 商務サービスグループ生物化学産業課長）

“関西バイオクラスタープロジェクト”による産業クラスターの形成

●小谷 純二（経済産業省 近畿経済産業局 地域経済部 バイオ・医療機器技術振興課 課長）

大阪商工会議所の健康医療分野の歩み～大阪・関西における健康医療産業振興20年との連動～

●横山 愛湖（大阪商工会議所 理事・産業部長）

バイオグリッドのこれまでとこれから

●下條 真司（青森大学 ソフトウェア情報学部 教授）

バイオコミュニティ関西 アップデート

●高田 清文（バイオコミュニティ関西(BiocK) 事務局長）

パネルディスカッション ●坂田 恒昭（バイオコミュニティ関西 副委員長 兼 統括コーディネーター）、および講演者

2025年9月19日 バイオコミュニティ関西(BiocK) シンポジウム 「グローバル市場を目指した創薬系スタートアップ創生の加速」

創薬力強化とCDMO

●柴木 憲和（Eiki Consulting, LLC・President）

Creating successful early stage biotechs - two case studies in the UK

●竹之下 泰志（CEO, Senya Therapeutics／Guest Professor, Osaka University）

パネルディスカッション：日米欧の比較による日本の医薬品産業および創薬系スタートアップの強みと課題点

●坂田 恒昭（バイオコミュニティ関西 副委員長 兼 統括コーディネーター）

●永田 智也（D3LLC CEO）

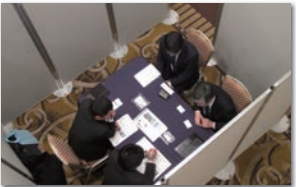
●ラナ・ゼイン（Greenstaff Lifesciences Associate Director）、および講演者

関西バイオビジネスマッチング

開催趣旨

高い成長が見込まれるバイオ関連産業分野において革新的なシーズを事業化するためには、アカデミア/スタートアップ/事業会社が持つシーズとニーズを結び付けることが重要となる。新規事業の創出、新たなイノベーション誘発の場として、「関西バイオビジネスマッチング」を2011年から継続的に開催している。

当初は近畿経済産業局の委託、補助、共催で、2017年からは近畿バイオ主催、2022年からはバイオコミュニティ関西と近畿バイオの共同主催で開催している。



基調講演者

第1回 2011年2月7日、8日	臼井 玲 (レイライフサイエンス有限会社 代表取締役) 山崎 清一 (いちよし経済研究所 企業調査部 首席研究員) 秋元 健吾 (サントリーホールディングス株式会社 知的財産部 課長) 高橋 慶人 (株式会社カネボウ化粧品 価値創成研究所 主任研究員)
第2回 2012年2月7日、8日	井垣 太介 (弁護士法人北浜法律事務所) 土井 尚人 (株式会社ヒューマン・キャピタル・マネジメント 代表取締役社長) 鬼頭 守和 (味の素株式会社 研究開発企画部 専任部長) 林 昭伸 (株式会社コーセー 研究所 開発研究室 室長)
第3回 2013年2月6日	佐藤 太郎 (産業革新機構 戦略投資G 執行役員 マネージングディレクター) 柴田 浩志 (サントリーウエルネス株式会社 執行役員 健康科学研究所長)
第4回 2014年2月5日	田中 隆治 (星薬科大学 学長)
第5回 2015年1月27日	森下 竜一 (大阪大学大学院 医学系研究科 教授)
第6回 2017年2月23日	西村 秀隆 (経済産業省 生物化学産業課長)

※基調講演は第6回までで終了



▲2011年ポスター

マッチング成功事例

「関西バイオビジネスマッチング2011」におけるマッチング成功事例として、サンスター株式会社から2013年1月9日に新商品が発売されました。

以下、同社のニュースリリースを一部抜粋して掲載させていただきます。

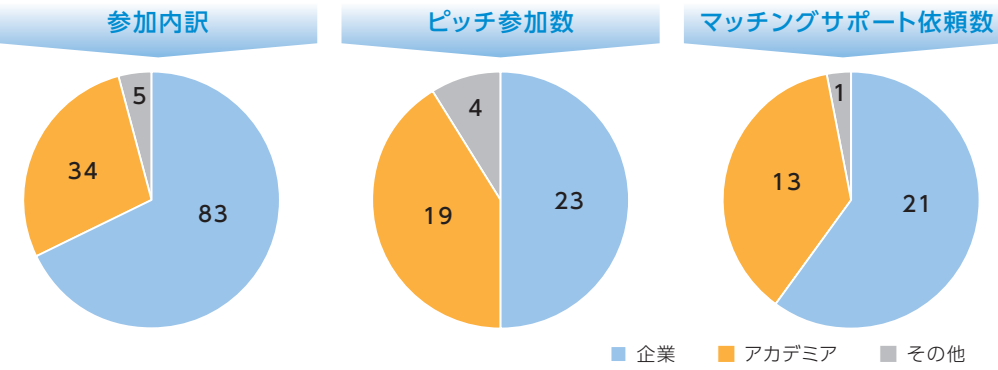
「エクイタンス イノセンスクリア」
[美容飲料、清涼飲料水]

『濃熟ETGエキス』(ハトムギ由来) 配合で、体内の内側から輝く透明感を導く美容飲料、「エクイタンス イノセンスクリア」を、2013年1月9日(水)より新発売します。



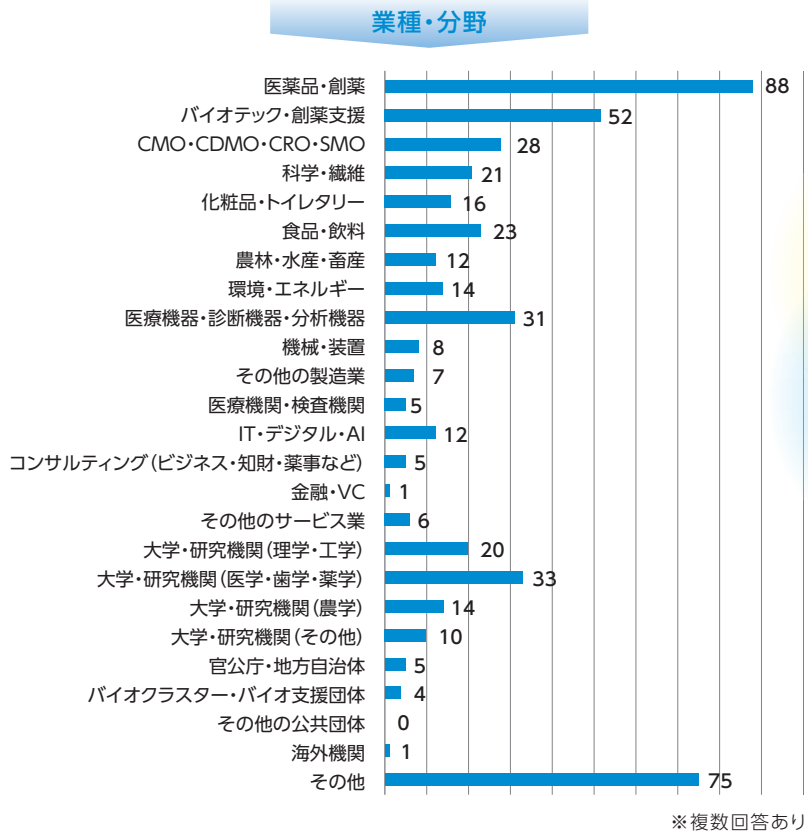
オンラインへの転換

2020年にはコロナ禍により会場での開催ができなくなったためオンラインへと転換し、2021年からはオンライン開催の利点を生かして本格的なマッチングシステムを導入した。オンラインピッチや商談の相手先を紹介・勧誘するマッチングサポートも行っている。

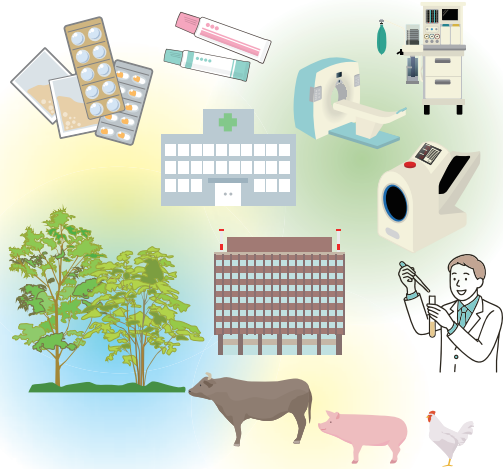


2025年チラシ

2024年度実績



※複数回答あり



主催 バイオコミュニティ関西 (BiocK)
NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議
共催 関西医薬品協会
協賛 アズワン株式会社
協力 学校法人佐藤学園 OBMリサーチセンター (ORC)
(代表幹事機関 公益財団法人都市活力研究所)
関西スタートアップアカデミア・コアリション (KSAC)
大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム
公益財団法人神戸医療産業都市推進機構
京都リサーチパーク株式会社
大阪府 (大阪バイオ・ヘッドクォーター)
近畿経済産業局
後援 独立行政法人中小企業基盤整備機構 近畿本部

マッチング成功事例

関西バイオビジネスマッチング2023における成功事例として、サーブ・バイオフーマ株式会社と日本臓器製薬株式会社が、2025年8月にサーブ・バイオフーマが開発した腫瘍溶解性ウイルス「Surv.m-CRA-1」について、骨軟部腫瘍を対象としたライセンス契約を締結しました。



大阪府受託事業：ライフサイエンス事業化推進事業 (ライフサイエンス海外ビジネス展開等支援業務)

2019年～現在

ライフサイエンス分野は国際的に急速な成長を続けており、有望な技術や研究シーズの探索は国境を越えて活発に行われている。中小企業・ベンチャー企業にとっては、国内市場にとどまらず、海外企業との提携、共同研究、ライセンスアウトなどを通じて事業拡大を図る大きな機会が広がっている。一方で、海外展開には海外ネットワークや国際ビジネスの経験が必要となるものの、多くの中小・ベンチャー企業ではその基盤が十分でないため、海外ビジネス機会を活かしきれていない状況も見られる。

こうした課題に対応するため、大阪府では、大阪府内のライフサイエンス系中小・ベンチャー企業が海外企業と出会い、事業提携に結びつける国際マッチングの促進を主目的として本事業を実施してきた。具体的には、海外企業やライフサイエンスクラスターとの面談支援、大阪での商談会開催、情報交換の機会創出などを通じて、府内企業のグローバル展開を後押しするとともに、海外企業の国内ビジネス参入を促進し、大阪のライフサイエンス産業のさらなる発展を図った。

近畿バイオは本事業を2019年度に初めて受託し、その後2025年度まで継続して受託している。事業では、以下を企画・運営し、府内企業の海外展開支援を多面的に進めた。

- 国際マッチングイベント「日欧バイোটেক&ファーマ パートナリングカンファレンス」
- 2019年から2023年にかけては、上記イベントの集客を目的としてBIO INTERNATIONALに、イベント後のフォローアップを目的としてBIO EUROPEに参加
- 上記イベントの集客を目的とした産学官連携情報交流セミナー
- 海外展開を支援する海外展開サポートセミナー

1) 日欧バイোটেক&ファーマ パートナリングカンファレンス

年 度	欧州側企業数(社)	日本側企業数(社)	商談数(件)
2019年度	61(15カ国)	50	263
2020年度	104(20カ国)	48	391
2021年度*	106(20カ国)	50	291
2022年度	84(22カ国)	50	260
2023年度	80(18カ国)	45	218
2024年度	88(22カ国)	71	302
2025年度	110(18カ国)	82	339

*コロナ禍のためオンラインのみ実施



2) 産学官連携情報交流セミナー 開催リスト

年度	回	開催日	講 演 テー マ	講 演 者 (敬称略)
2019年度	第1回	7月29日	外国企業との事業提携の実務～外国企業と提携する際のビジネスモデルと契約のポイント ライフサイエンス企業におけるM&A戦略～M&Aの概要とライフサイエンス企業におけるM&A戦略	イズミ国際コンサルティング 代表 泉 仁 史 株式会社テック・コンシリエ 共同創業者兼COO 小 林 誠
	第2回	9月6日	欧州におけるDigital Health/Digitalized Innovation 実現への 挑戦	デロイト・マツコンサルティング合同会社 モニター デロイト ライフサイエンス&ヘルスケア 執行役員 京都大学 大学院医学研究科 特命准教授 柳 本 岳 史
	第3回	12月6日	製薬企業とのパートナーシップに必要なデータと訴求力のある プレゼンテーション 【デジタルメディシンの現状と展望】 世界初のデジタルメディシン エピリファイマイサイトについて デジタルメディシンの現状と田辺三菱製薬の取り組み 【AI/IoT からのヘルスケアビジネスの 展開】 富士通のヘルスケアビジネスへの取り組み紹介 【ライフサイエンスビジネス・ピッチ】 インタープロテイン(株)や ティーエフケイ(株)など、大阪・関西の ライフサイエンス関連企業が登場!気になった発表者とネットワークングでコネクト! Post Covid-19時代、オンライン商談会はどこに注意! コロナ下におけるベンチャー企業の経営革新へのアドバイスと欧米バイオパートナーリングの現状	FORESIGHT & LINX株式会社 代表取締役 能 見 貴 人 大塚製薬株式会社 医薬品事業部 医薬品企画グループ マネージャー 伴 真紀子 田辺三菱製薬株式会社 執行役員 デジタルトランスフォーメーション部長 清 水 良 富士通株式会社 ヘルスケアビジネス推進統括部 部長 兼 エバンジェリスト(ヘルスケア担当) 岩 津 聖 二
2020年度	第1回	7月31日	マッチングシステムを使いこなそう! オンライン商談の必勝戦略	合同会社トロ 芳 賀 淳 三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 コンサルティング事業本部 経営コンサルティング1部 部長 兼 ヘルスケアコンサルティング室長 外 石 満 三菱UFJキャピタル株式会社 ライフサイエンス部 副部長 島 崎 誠 一般財団法人日欧産業協力センター 情報サービス EENマネージャー Daniel Gralki(ダニエル・グラルキ) 三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 コンサルティング事業本部 大阪ビジネスユニット 人の育ち支援室 チーフコンサルタント 枚 本 良 平 京都大学 大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 ビッグデータ医科学分野 教授 奥 野 恭 史
	第2回	9月1日	スーパーコンピュータ・AI が拓く創業の未来 タカラバイオの事業戦略 新型コロナウイルス関連事業などの取り組みについて	株式会社HACARUS 代表取締役CEO 藤 原 健 真 富士通Japan株式会社 ソリューションビジネス本部 ヘルスケアソリューションビジネス統括部 シニアディレクター 岩 津 聖 二 ATR脳情報通信総合研究所 所長/株式会社XNef 代表取締役 CEO 川 人 光 男 国立循環器病研究センター 理事・研究所長 望 月 直 樹 日本新薬株式会社 研究開発本部 創薬研究所 東部創薬研究所 所長 中 村 善 隆 国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学大学院 理学研究科 理学専攻化学 教授 機構教育研究推進等組織 糖鎖生命コア研究拠点 教授(兼任) 阿 部 洋
2021年度	第1回	9月2日	医療と創薬でのAI活用事例 デジタル技術を活用した生活習慣病への対応とコロナ対策の取組み	
2022年度	第1回	9月9日	脳回路マーカーを用いたデジタルヘルス COI-NEXT でのデジタルバイオヘルス実現への取組み 国産初の核酸医薬品であるデュシェンヌ型筋ジストロフィー治療剤ビルテプソの開発 翻訳反応の制御を目的とした核酸分子の開発	

産学官連携情報交流セミナー 開催リスト つづき

年度	回	開催日	講 演 テー マ	講 演 者 (敬称略)
2022年度	第2回	12月13日	新型コロナウイルス感染症の罹患後症状 産官学連携による難病治療薬開発のエコシステム 除菌消臭剤のメカニズム解明から生まれた創薬ツール～クライオ電子顕微鏡用グラフェンリッドの開発～ COVID-19経口治療薬ゾコーバの創製とパンデミックへの備え	国立国際医療研究センター病院 国際感染症センター 国際感染症対策室 医長、医療教育部門 副部門長(兼任) 森岡 慎一郎 大阪大学 大学院医学系研究科 再生誘導医学寄附講座 寄附講座 教授 玉 井 克 人 大阪大学 大学院薬学研究科 教授 井 上 豪 塩野義製薬株式会社 研究本部 創薬疾患研究所長 佐 藤 剛 章
	第2回	12月18日	デジタル技術による持続可能な医療 AI創業の基礎としてのデータベースと多面的モデリング	サスメド株式会社 代表取締役、医師・医学博士 上 野 太 郎 大阪大学 蛋白質研究所 教授/医薬基盤・健康・栄養研究所 AI健康・医薬研究センター センター長(兼任) 水 口 賢 司 クオリプス株式会社 代表取締役社長 最高経営責任者 草 薙 尊 之
	第1回	8月2日	クオリプスの概要及び今後の戦略について ChatGPT最速導入。DXが当たり前の住友ファーマ	住友ファーマ株式会社 データデザイン室 兼 IT&デジタル革新推進部 主席部員 菅 原 秀 和 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 医薬基盤研究所 副所長 ヘルス・メディカル微生物研究センター センター長(併) 國 澤 純
2024年度	第1回	8月2日	再生医療を取り巻くわが国の法整備と開発現場の現状と課題について 腸内環境の見える化がもたらす新しい健康未来像と創業・ヘルス産業への期待	株式会社サイト・ファクト 代表取締役社長CEO 川真田 伸 株式会社FRONTEO 取締役/CSO(Chief Science Officer) 豊 崇 博 義 大阪大学 産業科学研究所 准教授 曾 宮 正 晴
	第2回	1月15日		
2025年度	第1回	8月1日		
	第1回	8月1日		

3) 海外展開サポートセミナー 開催リスト

年度	回	開催日	講 演 テー マ	講 演 者 (敬称略)
2023年度	第1回	8月21日	医薬品創出において日本人が海外に展開していくためには? 技術情報流出をめぐる現状と課題について ライフサイエンスプレゼンテーション力向上セミナー 「理系プレゼンテーション成功のカギ『要約力』を磨こう」	イーライリリー株式会社 コーポレートビジネスディベロップメント リリーベンチャーズジャパンアンドアジア シニアディレクター 本 田 孝 雄 大阪府警察本部 外事課 経済安全保障担当 石 村 徳 彦 読売新聞大阪本社 社長直属「新聞のちから」委員会事務局 事務局長 戸 田 博 子 読売新聞大阪本社 社長直属「新聞のちから」委員会事務局 専任次長
	第2回	9月7日		
	第2回	9月12日	英国・ケンブリッジのエコシステム発展の歴史と弊社の果たしてきた役割 海外とのコミュニケーション、ビジネスの仕方を学ぶセミナー ー英語が下手でも、プレゼンが下手でも、モノさえ良ければ怖くない! 肩肘張らずに、自然体で海外と付き合おうー	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 創薬研究アライアンス部 部長/大阪大学共創機構 特任教授 前 田 朋 子 ケンブリッジコンサルタンツ株式会社 メディカルテクノロジー事業部 事業開発部長 松 井 拓 也 JPRO INCUBATION OFFICE 代表 上 谷 和 司
2024年度	第1回	8月28日	創業イノベーションの未来を切り拓く:長期的なグローバルパートナーシップの価値 英国・ケンブリッジのエコシステム発展の歴史と弊社の果たしてきた役割	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 創薬研究アライアンス部 部長/大阪大学共創機構 特任教授 前 田 朋 子 ケンブリッジコンサルタンツ株式会社 メディカルテクノロジー事業部 事業開発部長 松 井 拓 也 JPRO INCUBATION OFFICE 代表 上 谷 和 司
	第2回	9月12日	海外とのコミュニケーション、ビジネスの仕方を学ぶセミナー ー英語が下手でも、プレゼンが下手でも、モノさえ良ければ怖くない! 肩肘張らずに、自然体で海外と付き合おうー	京都大学「医学領域」産学連携推進機構 特定教授 鈴 木 忍
2025年度	第1回	9月1日	国境も組織も越えて向き合うコミュニケーションギャップと そこから生まれるイノベーション スタートアップの海外展開・連携に向けたヒント バイオ医薬品における米国市場への外国企業の参入と関連事業の動向 日本から世界へ:ビジネスディベロップメント成功のための戦略	一般社団法人 ライフサイエンス・イノベーションネットワーク・ジャパン 事務局長 高 橋 俊 一 BLA Regulatory, LLC 創業者 兼 主任コンサルタント Frank Li Greenstaff Lifesciences Japan Associate Director of Business Development JP-US ラナ・ゼイン
	第2回	9月25日		

BioJapan共同出展

2013年～現在

研究成果を効率的にアピールする機会が少ない関西のバイオ関連ベンチャー企業のために、海外企業の参加が多い大規模展示会であるBioJapan (毎年10月、パシフィコ横浜)において、近畿バイオでブースの一定区画を確保し出展を支援している。

2013年度：7社	2014年度：8社	2015年度：8社
2016年度：14社	2017年度：6社	2018年度：9社
2019年度：11社	2020年度：13社	2021年度：14社
2022年度：14社	2023年度：14社	2024年度：10社
2025年度：14社		



バイオベンチャーデータベース(JBAと共同運営)

2022年～現在

全国のバイオベンチャー情報を登録した本データベースを、2022年からバイオインダストリー協会(JBA)と共同で運営している。JBAは主に東日本を、近畿バイオは主に西日本を担当し、新規掲載の勧誘や掲載情報のメンテナンスを行っている。各社の事業概要、主な製品・技術・サービス、成果や実績およびアライアンスの目標・ニーズ等を掲載しており、バイオベンチャー企業にアクセスするための有用ポータルとして役立っている。日英のサイトがあり海外への情報発信ツールとしても有用である。

2025年12月現在の掲載企業数 370社

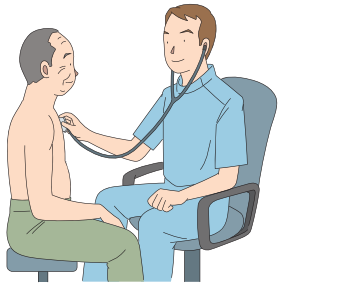


生活習慣病予防のための 機能性食品開発に関する研究会

2006年～現在



京都府立医科大学大学院
教授 内藤 裕二



第一期 2006年発足～2010年

「食と運動の機能性に関する研究会」
～関西における食・運動関連クラスター形成に向けて～

開催趣旨

本研究会は、健康な生活を維持するための重要な要素である食と運動の機能性の関係を解明し、第3期科学技術基本計画にも謳われている生涯健康な生活一生涯はつつつ生活を実現するための研究情報を集積し、新しい産業を立ち上げることを目的とする。

第二期 2010年～現在

「生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会」
～アグロメディカル・イニシアティブとの連携～

開催趣旨

臨床医・各専門分野の第一人者と開発者との連携と相互理解により、医師が認め、消費者に期待される機能性食品の開発を通じて、高齢化社会における健康の維持、疾病・老化の予防、食産業の発展に寄与する。
「くすり」の専門家である薬剤師も含め、健康食品が「予防医学・代替医療」として有効に生かされるよう、科学的根拠に基づいた健康食品の機能性、有効性および安全性を議論し、健康食品の信頼性を高める場とした研究会を開催する。

運営体制

初代会長 吉川 敏一（京都府立医科大学 学長）

2025年9月時点

会長 内藤 裕二（京都府立医科大学大学院 教授）

副会長 栗木 隆（江崎グリコ株式会社 取締役 研究フェロー）

委員 亀井 淳三（順天堂大学 特任教授）
田岡 直明（株式会社カネカ アグリ・バイオ&サプリメント研究所 所長）
芦田 均（武庫川女子大学 食物栄養科学部 教授／神戸大学 名誉教授）
青井 渉（京都府立医科大学大学院 准教授）
柴田 浩志（サントリーウエルネス株式会社）

アドバイザー 吉川 敏一（ルイ・パストゥール医学研究センター 理事長）
田中 隆治（NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 相談役／星薬科大学 元学長）

事務局長 村山 宣人（NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 専務理事）

講 演 テ ー マ			講 演 者（敬称略）	
2010年	1月27日	パーソナライズド・ニュートリションを目指したバイオセンサー	大阪大学大学院 工学系研究科 教授 民谷栄一	
		食品機能成分のスクリーニングと運動の併用効果	奈良女子大学 生活環境学部 食物栄養 井上裕泰	
		透析患者における抗疲労臨床試験の事例	大阪市立大学大学院 医学研究科 福田早苗	
		予防医療の実践に向けたバイオマーカーの研究開発	(株)バイオマーカーサイエンス 解析センター 中西 守	
		シームレスカプセル化技術とその応用の可能性	森下仁丹(株) バイオファーマ研究所 浅田雅宣	
	7月6日	体質改善サプリ:カネカ・グラボノイド	カネカ(株) QOL事業部 中川 格	
		卵白ペプチドランペップが血管拡張・血流改善に与える効果	(株)ファーマフーズ 開発部 佐内勇亮	
		「生活習慣病研究会」開催の趣旨	京都府立医科大学 消化器内科学教室 教授 吉川敏一	
		腎障害の発症機序と食品による予防と改善	医療法人良秀会 藤井病院 岸和田藤井第2診療所 宗正 敏	
		メタボ時代の大腸癌発症機序と食品による予防	京都府立医科大学大学院 医学研究科 准教授 内藤裕二	
	9月6日	皮膚と体型の見た目のエージング	北里大学 名誉教授 塩谷信幸	
		脳の老化の機序と食品による予防と改善	杏林大学 医学部 精神神経科学教室 教授 古賀良彦	
		ドライマウスの発症機序と食品による予防と改善	鶴見大学 歯学部口腔病理学講座 教授 斎藤一郎	
		11月8日 老化の共通基盤である酸化ストレスと食品による予防	大阪大学大学院 医学系研究科 教授 森下竜一	
		ケルセチンによる高血圧予防	京都府立医科大学大学院 医学研究科 教授 丸中良典	
	2011年	食事と行動変容による成人病疾患予防の最前線	日経BP社 医療局 主任編集委員 宮田 満	
		3月2日 変形性膝関節症の病態と食品による予防・改善	大阪大学 整形外科 助教 前 達雄	
		老人性難聴の発症機序と食品による予防と改善	滋賀医科大学 消化器内科 教授 藤山佳秀	
		7月25日 医農連携へ向けての新たな挑戦	東京大学大学院 医学系研究科 教授 山岨達也	
		網羅的プロテオミクスが明らかにする栄養動態変動の機序	京都府立医科大学 内科学教室 教授 吉川敏一	
	10月20日	肝臓の栄養代謝からみた食と疾病予防対策	大阪大学大学院 医学系研究科 教授 金井好克	
		医農連携へ向けての新たな挑戦	金沢大学大学院 医学系研究科 第一内科 教授 金子周一	
		前立腺癌の発症機序と食品による予防と改善	京都府立医科大学 学長 吉川敏一	
		北海道産素材の機能性評価の取り組み	帝京大学 医学部 泌尿器科講座 主任教授 堀江重郎	
		還元型コエンザイムQ10 一食事からもきちんと摂りたいー	(株)アミノアップ化学 研究部 主任研究員 三浦健人	
	11月17日	アンチエイジング素材としての明日葉カルコン、長命草	(株)カネカ QOL事業部 幹事職 藤井健志	
		大豆由来の脂質代謝調節機能素材PIPSナガセ	タカラバイオ(株) 機能性食品部 大野木宏	
		歯周病バイオフィルムを制御する鶏卵抗体(IgY)の開発	ナガセケムテックス(株) 研究員 渥美祐太	
		LOX-1を用いた変性LDL(酸化LDL)の活性測定法の確立	(株)ファーマフーズ 開発部 第2グループ長 山下裕輔	
		カナダサスカチュワン州Ag-west bioの紹介	(株)バイオマーカーサイエンス 解析センター長 大木 誠	
	2012年	温州みかんの三ケ日コホート研究	Ag-west bio President Wilf Keller	
		2月28日 脱脂大豆からの機能性食品への利用	(独)農研機構 果樹研 主任研究員 杉浦 実	
		植物が生産するヒアルロン酸	不二製油(株) 執行役員 廣塚元彦	
		生活習慣病予防のための機能性食品研究	東洋紡績(株) 総研 柴谷滋郎	
		研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)の紹介	京都府立医科大学 学長 吉川敏一	
	7月2日	A-STEP採択研究「消化管は全身の新たな司令塔」	(独)科学技術振興機構 技術移転ﾌﾟﾗﾅｰ 谷村修也	
		ドライアイの発症機序と食品による予防と改善	京都府立医科大学 消化器内科学 准教授 内藤裕二	
		緑茶の機能性解明と利用技術の開発	慶應義塾大学 医学部 眼科 専任講師 川北哲也	
		教職員および大学生における生活習慣病予防のための調査	(独)農研機構 野菜茶葉研 上席研究員 山本(前田)万里	
		アスタキサンチンによる脂肪肝炎の進展抑止	近畿大学 薬学部 医療薬学科 教授 川崎直人	
	9月20日	アディポネクチン経路に着目した機能性食品開発	金沢大学 医薬保健研究域 准教授 太田嗣人	
		肥満予防が期待できる食品素材の開発	東京大学大学院 医学系研究科 特任准教授 山内敏正	
		清酒から見出されたα-グルコシルグリセロールの機能性	辰馬本家酒造(株) 研究開発室 室長 竹中史人	
		酒粕から生まれた機能性新素材 プロファイバー	大関(株) 総合研究所 次長 峰時俊貴	
		麹菌産生鉄キレート型環状ペプチド フェリクリシンの機能性	月桂冠(株) 総合研究所 副主任研究員 入江元子	
	12月21日	薬用食品にメタボリックシンドローム予防物質を探る	京都薬科大学 教授 吉川雅之	
		セサミンの抗高血圧作用と血管弛緩作用メカニズム	大阪薬科大学 病態分子薬理学研究室 教授 松村靖夫	
		抗がん剤シスプラチンの副作用緩和における漢方薬の役割	星薬科大学 薬動学教室 教授 杉山 清	
		腸管免疫修飾による動脈硬化予防法の開発	神戸大学大学院 医学研究科 内科学講座 講師 山下智也	
		味覚受容体の機能と消化管における役割	味の素(株) イノベーション研究所 フロンティア研グループ長 中村英志	
2013年	3月5日	リンゴポリフェノール(プロシアニン類)の機能性について	(独)農研機構 果樹研究所 庄司俊彦	
		医農連携の成果を普及させるための戦略研究	神奈川県立保健福祉大学 学長 中村丁次	
		健康食品の現状と課題	公益財団法人 日本健康・栄養食品協会 理事長 下田智久	
		機能性表示健康食品は、実現するか?	大阪大学大学院 医学系研究科 教授 森下竜一	
		11月18日 アルツハイマー病発症機構の解明に向けた基盤的研究	岐阜大学大学院 医学系研究科 助教 太田和徳	
		海藻起源の機能性食品素材:フコイダンとアガロオリゴ糖	タカラバイオ(株) バイオ研究所 主任研究員 大野木宏	
		生活習慣病対策の新規機能性食品素材	(株)カネカ QOL事業部 機能性食品グループ 北村志郎	

講 演 テ ー マ			講 演 者 (敬称略)		
		北海道産天然素材を用いた機能性食品素材の開発	(株)アミノアップ化学	三浦健人	
		ホウレン草糖脂質のがん対策 (予防と治療)	神戸学院大学 栄養学部 准教授	水品善之	
2014年	2月19日	食による予防医学 ～ω3系脂肪酸とアンチオキシダント～	東京海洋大学 特任教授	矢澤一良	
		ナノテクノロジーを活用した天然物のヒト受容体と医学応用	慶應義塾大学 医学部 医化学教室 教授	末松 誠	
	7月18日	くすりと食品機能に関するネットワークの形成	星薬科大学 薬物治療学教室 教授	亀井淳三	
		調剤薬局が期待する健康食品	(株)阪神調剤薬局 薬局統括本部研修リーダー	蓬萊哲也	
		見た目の科学からみたサプリメントの考え方	近畿大学 アンチエイジングセンター 教授	山田秀和	
	9月29日	カロテノイド色素β-クリプトキサンチンと生活習慣病予防	(独)農研機構 果樹研究所 上席研究員	杉浦 実	
		新たな機能性表示制度の枠組と今後の展望	名古屋文理大学 フードビジネス科 教授	清水俊雄	
		糖尿病と食生活:酸性体質の恐ろしさ	京都府立医科大学大学院 医学研究科 教授	丸中良典	
11月14日		『食品薬学』—機能性食品素材に有用なシズ*を求めて—	近畿大学 薬学総合研究所 准教授	森川敏生	
		タカラバイオの機能性食品素材について	タカラバイオ(株) CDMセンター 課長	大野木宏	
		ユビキノール(還元型CoQ10)の抗疲労効果と市場展開	(株)カネカ QOL事業部 幹事職	藤井健志	
		スノーデンのプラセンタ・紅参・乳酸菌	スノーデン(株) 広報開発部 理事	高橋 洋	
		抗ストレス食品『アスパラガス茎熱水抽出物(ETAS)』と『ヘルシーDo』	(株)アミノアップ化学 学術部 学術開発室	前田哲宏	
2015年	2月27日	カロテノイド類の生体調節機能に着目した抗メタボ食品提供技術の開発とその効果の実証研究	京都府立医科大学大学院 医学研究科 消化器内科 准教授	内藤裕二	
		栄養成分としてのコラーゲンの作用	(株)ニッピ バイオマトリックス研究所 理事・主任研究員	小山洋一	
		腸内細菌治療で健康長寿	慶應義塾大学 医学部 消化器内科 教授	金井隆典	
	6月26日	慢性咳嗽時の咳嗽感受性亢進機序とそれに対するマスカハニ一の抑制効果	星薬科大学 薬物治療学教室 教授	亀井淳三	
		神経ペプチドGALPによる摂食・エネルギー代謝調節	星薬科大学先端生命科学研究所 生命科学先端研究センター 教授	塩田清二	
	9月25日	食物繊維由来腸内細菌代謝物、短鎖脂肪酸と抗肥満	東京農工大学大学院 農学研究科 応用生命化学専攻 准教授	木村郁夫	
		腸内代謝物による免疫修飾作用と炎症性腸疾患	慶應義塾大学 薬学部 生化学講座 教授	長谷耕二	
	11月27日	人を対象とした疫学研究における科学的エビデンス	大阪大学大学院 医学系研究科 臨床統計疫学 教授	新谷 歩	
		メタボロミクスの食品・生薬の官能評価への応用	大阪大学大学院 工学研究科 生命先端工学専攻 教授	福岡英一郎	
2016年	3月7日	生体移行性に注目した食品由来ペプチドの機能性研究	京都大学大学院 農学研究科 教授	佐藤健司	
		食と肥満:腸管の役割	京都大学大学院 医学研究科 教授 兼 京都大学医学部附属病院 病院長	稲垣暢也	
	7月1日	シート型生体センサによる医療、介護、ヘルスケアへの貢献～パッチ式脳波センサを例に～	大阪大学 産業科学研究所 先進電子デバイス研究分野 教授	関谷 毅	
		食品機能とバイオセンサー	大阪大学大学院 工学研究科 精密化学・応用物理学専攻 教授	民谷栄一	
	9月26日	ビフィズス菌GCL2505株の機能性研究	江崎グリコ(株) 健康科学研究所 チームリーダー	滝井 寛	
		乳酸菌・腸内細菌の新たな脂肪酸代謝—機能性脂肪酸生産と腸内脂質代謝制御への展開—	京都大学大学院 農学研究科 応用生命科学専攻 応用微生物学講座 助教	岸野重信	
	11月25日	オルガノイド培養法を用いた腸内細菌と宿主の相互作用の研究	慶應義塾大学 医学部 消化器内科 助教	佐々木伸雄	
		健康に寄与する微生物の育成により皮膚疾患を予防する脂肪酸素材	大阪市立工業研究所 生物・生活材料研究部 脂質工学研究室長	永尾寿浩	
2017年	2月27日	腸内環境・腸内微生物叢を標的にした高機能農林水産物開発:現状と展望	京都府立医科大学大学院 医学研究科 准教授	内藤裕二	
		食品機能性評価のための新規マーカーの探索	(公財)神奈川科学技術アカデミー 常勤研究員	亀井飛鳥	
	7月5日	生活習慣病予防・改善に役立つ希少糖の生理機能	香川大学 副学長・医学部 細胞情報生理学 教授	徳田雅明	
		希少糖含有シロップ～レアシュガースウィートの食品への利用～	松谷化学工業(株) 研究所 課長代理	内山朋子	
	9月6日	リソファジーと生活習慣病	大阪大学大学院 医学系研究科 遺伝医学講座 准教授	濱崎万穂	
		脳による食物摂取の認知とアミノ酸恒常性維持の仕組み ～おいしく食べて健康づくり～	(株)鳥居食情報調節研究所 代表	鳥居邦夫	
	12月13日	脳腸相関を介したプロバイオティクスの身体症状緩和和作用	徳島大学大学院 医歯薬学研究部 准教授	西田憲生	
		グリシンの睡眠改善効果	味の素(株) イノベーション研究所 グループ長	塩崎 誠	
2018年	2月26日	乳酸菌と腸管や炭水化物との相互作用の研究	関西大学 化学生命工学部 生命・生物工学科 助教	山崎思乃	
		Microbiome解析への新しいアプローチ:Single cell解析の進展	早稲田大学 先進理工学部 生命医科学科 教授	竹山春子	
	8月8日	腸内フローラと健康・疾病	杏林大学 保健学部 学部長	神谷 茂	
		隈笹エキスの育毛効果および活性成分の探索	星薬科大学 副学長	杉山 清	
	10月17日	腸内細菌叢と循環器疾患・生活習慣病	神戸大学医学部附属病院 循環器内科 准教授	山下智也	
		In Vitroで構築したヒト組織モデルの医療・創薬・食品分野への可能性	大阪大学大学院 工学研究科 准教授	松崎典弥	
	12月13日	皮膚の細菌叢解析と病気	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授	富田秀太	
		メタボロミクスを用いた歯周病トランスレーショナルリサーチの新展開	大阪大学大学院 歯学研究科 准教授	久保庭雅恵	
2019年	2月22日	神戸薬科大学における生涯研修支援事業と健康食品領域研修認定薬剤師制度	神戸薬科大学 エクステンションセンター 講師	鎌尾まや	
		健康食品・機能性食品研修ポータルサイト“セルフメディケーション.com”の構築と運営	星薬科大学 生体分子薬理学研究室／応用医療情報研究室 教授	亀井淳三	
		“健康食品”の安全性・有効性情報を介した情報発信および保健機能食品の現状	医薬基盤・健康・栄養研究所 食品保健機能研究部 部長	千葉 剛	
	7月16日	JSPS産学協力「未病マーカー」研究委員会の活動と次世代機能性食品の新側面	東京大学大学院 農学生命科学研究科 応用生命化学専攻 特任教授	阿部啓子	
		超高齢社会における新しい認知症予防	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 脳神経内科学 教授	阿部康二	
	9月19日	ディープラーニングを用いた食事画像の自動認識	電気通信大学大学院 情報理工学研究科 情報学専攻 教授	柳井啓司	
		腸内環境を決める因子は何なのか? 遺伝子、母子環境、食、環境要因?	京都府立医科大学大学院 医学系研究科 消化器内科 准教授	内藤裕二	
	11月19日	日本食と健康 一脳機能を中心として—	北海道大学大学院 工学研究院 客員教授	木曽良信	
		ペプチドハンティング ～多彩な機能性を示す食品由来ペプチドの発見とそのメカニズム～	京都大学大学院 農学研究科 准教授	大日向耕作	

講 演 テ ー マ			講 演 者 (敬称略)	
2020年	1月30日	マイクロニードル技術を活用した化粧品の前線	コスメディ製薬(株) 取締役	権 英淑
		大豆タンパク質のさらなる可能性	不二製油(株) 開発部門 企画室 主席研究員	河野光登
8月25日		腸内細菌に応答する膜タンパク質の機能解析～プレ・プロバイオティクスの効果の検証～	星薬科大学 生体分子薬理学研究室 特任講師	今 理紗子
		COVID-19長期化に備えた腸管免疫	京都府立医科大学大学院 医学系研究科 消化器内科学 准教授	内藤裕二
9月15日		ケトン体(β-ヒドロキシ酪酸, BHB)の発酵生産とその利用	大阪ガス(株) エネルギー技術研究所 シニアリサーチャー	坪田 潤
		ポスト・ウイズコロナの時代の毛細血管ケア	大阪大学 微生物病研究所 情報伝達分野 教授	高倉伸幸
10月27日		絶食や食品成分により誘導される冬眠様低代謝状態の神経基盤の解明	名古屋大学 環境医学研究所 ストレス受容・応答研究部門神経系分野Ⅱ 特任助教	山口裕嗣
		生活習慣病予防における骨格筋の役割	京都府立大学 生命環境科学研究所 分子栄養学研究室 教授	亀井康富
2021年	2月25日	長鎖高度不飽和脂肪酸と脳の健康	サントリーウエルネス(株) 健康科学研究所 研究主幹	金田喜久
		実験動物に優しい新しい食品機能評価法の開発—腎臓障害からサルコペニア—	広島大学大学院 統合生命科学研究所 分子栄養学研究室 教授	矢中規之
3月23日		魚肉タンパク質および魚肉ペプチドの健康機能性	(株)鈴廣蒲詳本店 製造チーム 研究開発部 部長 兼 魚肉たんぱく研究所 所長	植木暢彦
		機械学習を取り入れた全身循環の血流シミュレーション	東京大学大学院 情報学環 教授	大島まり
5月18日		毛細血管の健康(ヘスペリジンを例として)	江崎グリコ(株) 応用研究室	宅見央子
		生活習慣病の性差と機能性食品開発のターゲット	大阪府立大学大学院 生命環境科学研究所 准教授	原田直樹
7月6日		眼精疲労を含む視機能の加齢性変化への取り組み	ロート製薬(株) 営業企画推進部 学術情報グループ	植松由起
		皮膚感覚の分子メカニズムとその応用	(株)マンダム 基礎研究所 ライフサイエンス研究室 室長	藤田郁尚
9月7日		食で健康維持をはかる—軽度不調改善による仕事のパフォーマンス向上に資する食	農研機構 食品研究部門 主席研究員	山本(前田)万里
公開		Well-being実現に向けた機能性食品の役割	京都府立医科大学大学院 医学研究科 教授	内藤裕二
		日本食から考える機能性素材	順天堂大学 健康総合科学先端研究機構 客員教授	亀井淳三
11月11日		オルガノイドが切り拓く腸内細菌研究	群馬大学生体調節研究所 粘膜エコシステム制御分野 教授	佐々木伸雄
		柑橘成分の脳保護作用の研究および食品素材への展開	松山大学 名誉教授	古川美子
2022年	1月20日	肥満に伴う代謝異常症の予防・改善に有用な食品素材の探索と機能解析	京都大学大学院 農学研究科 准教授	後藤 剛
		健康寿命延伸のための毛細血管強化と機能性食品の役割	神戸大学大学院 保健学研究科 教授	藤野英己
3月8日		高い水溶性カルシウム/リン酸化オリゴ糖カルシウムの食を介したオーラルケアへの応用	江崎グリコ(株) 応用研究室	田中智子
		医学から機能性食品研究へ—疾病予防の要としての食品—	(公財)ルイ・パストゥール医学研究センター 理事長	吉川敏一
6月23日		食と微生物と健康	京都大学大学院 農学研究科 応用生命科学専攻 教授	小川 順
		水溶性食物繊維の機能性を考える	京都府立医科大学大学院 医学研究科 教授	内藤裕二
9月6日		機能性食品開発のためのゲノム編集技術の活用	(株)セツロテック 代表取締役CEO	竹澤慎一郎
公開		老化研究による新たな生活習慣病治療法の探索	大阪大学大学院 医学系研究科 健康発達医学寄附講座 教授	中神啓徳
12月1日		オートファジー活性調整によるビョンドエイジングの可能性	(株)AutoPhagyGO 代表取締役社長	石堂美和子
		食のパーソナライズと今後の展望	(株)AIVICK 代表取締役	矢津田智子
2023年	3月16日	ポリフェノールの健康効果を腸から紐解く	星薬科大学 生体分子薬理学研究室 特任講師	今 理紗子
		麹菌デフェリフェリクリシンの機能性食品素材としての可能性	月桂冠(株) 総合研究所 副主任研究員	戸所健彦
6月13日		京丹後長寿研究から見えてきた健康 一腸内細菌—食相関	京都府立医科大学大学院 医学研究科 生体免疫栄養学講座 教授	内藤裕二
		食物繊維による短鎖脂肪酸を介した代謝機能改善作用と機能性食品素材応用	京都大学大学院 生命科学研究所 生体システム学分野 教授	木村郁夫
9月12日		腸内細菌と認知症:食品から展望する認知症予防	国立長寿医療研究センター もの忘れセンター 医長・副センター長	佐佐直樹
公開		エンテロタイプと機能性食品	摂南大学 農学部応用生物学科動物機能科学研究室 教授	井上 亮
12月12日		TREM2に着目した糖尿病性認知症の新規認知症評価系の開発と植物由来フラボノイド・タキフィロリンの展開医療	国立病院機構京都医療センター 臨床研究センター 内分泌代謝高血圧研究部 部長	浅原哲子
		健康な食と生殖能力の関係:マウスを用いて神経回路の観点から	国立研究開発法人理化学研究所 生命機能科学研究センター 神戸/発生再生研究新規 比較ゲノミクス研究チーム	宮澤和成
2024年	3月12日	骨格筋と腸のクロストークから考える食品機能	京都府立大学大学院 生命環境科学研究所 栄養科学 准教授	青井 渉
		クロダイズポリフェノールの血管機能向上効果について	神戸大学大学院 農学研究科 教授	芦田 均
6月18日		地域高齢住民のフレイルにおける栄養素・食品摂取量と腸内細菌に関する横断的研究～2025年世界長寿サミットに向けて～	京都府立医科大学 大学院医学研究科 生体免疫栄養学 教授	内藤裕二
		筋萎縮に有効な機能性宇宙食の開発	徳島大学 大学院医歯薬学研究部 生体栄養学分野 教授/徳島大学 宇宙栄養研究センター センター長	二川 健
9月3日		生活より動脈硬化の新知見とケルセチン配糖体による血管新生～心外膜脂肪と毛細血管Vasa Vasorum～	徳島大学大学院医歯薬学研究部 循環器内科学分野 教授	佐田政隆
公開・毛細と合同		毛細より:毛細血管の維持がもたらす健康寿命の延伸	大阪大学 微生物病研究所 情報伝達分野 教授	高倉伸幸
12月3日		認知症基本法と最近の施策の動向:生活習慣病の視点から	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター もの忘れセンター 客員研究員	佐佐直樹
		腸内環境を守るPaneth細胞・αディフェンシンの健康と疾患における役割	北海道大学大学院 先端生命科学研究院 教授	中村公則
2025年	3月4日	骨格筋Microphysiological Systems(MPS)を活用した機能性食品開発	名古屋大学大学院 工学研究科 生命分子工学専攻 准教授	清水一憲
		認知症の回復を目指した和漢薬研究	富山大学 和漢医薬学総合研究所 神経機能学領域 教授・副所長	東田千尋
6月30日		食品成分がもつ免疫調節機能	十文字学園女子大学 人間生活学部 食品開発学科 教授	辻 典子
		感覚栄養学とポリフェノール	芝浦工業大学 システム理工学部 教授	越阪部奈緒美
		食品機能とマイクロRNA	九州大学 大学院農学研究院 生命機能科学部門 食料化学工学講座 食糧化学分野 主幹教授	立花宏文
12月1日		カロテノイドとビタミンAによる骨格筋の調節	大阪公立大学 大学院農学研究科 生命機能化学専攻 助教	北風智也
		腸内細菌叢—宿主のクロストークを媒介するマイクロRNAと食餌要因	北海道大学 大学院農学研究院 基盤研究部門 生物機能化学分野 食品機能化学研究室 教授	畠山 慶
		自身の脂肪酸バランスの状態を知って、日々の食生活に活かそう	麻布大学発ベンチャー 株式会社 食機能探索研究所 BABILON 取締役	原馬明子
		中枢NAD+代謝に着目した中枢・骨格筋連関とサルコペニアについて	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 高齢化・骨格筋・運動機能制御研究 フロンティアチーム フロンティアリーダー	伊藤雅之
		ヒトIPS細胞を活用した骨格筋研究:萎縮および筋分化に関する話題提供	東京大学 大学院農学生命科学研究科 応用生命化学専攻 食品生化学専攻分野 教授	山内祥生

毛細血管ラボ・
社会実装コンソーシアム

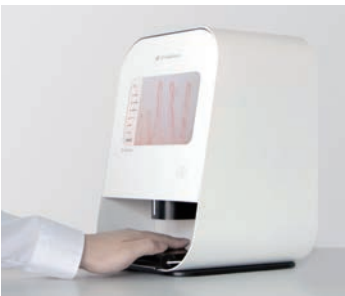
2021年～現在



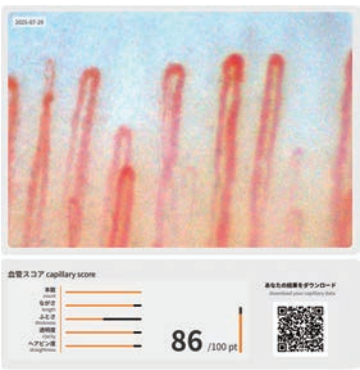
大阪大学
微生物病研究所
教授 高倉 伸幸

開催趣旨 高齢者の健康維持、医療費増大などを解決するためには、未病の段階で病気への進行を止めるセルフケアが重要であり、その実現には手軽に健康状態をチェックできる指標が必要となる。毛細血管計測画像は、特定の疾患、老化、疲労、ストレスなどの健康状態と関連する指標として活用できる可能性がある。毛細血管計測画像を用いて、会員の研究・ビジネスの発展に貢献し、かつ、当該画像を健康指標として確立すること、およびその社会実装を進めることを目的に活動を展開している。

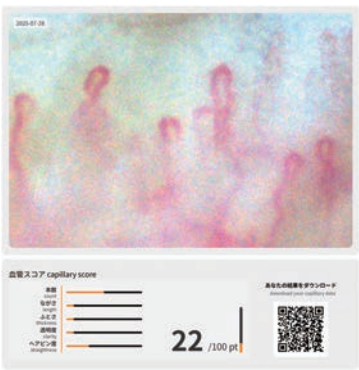
運営体制	
委員長	高倉 伸 幸 （大阪大学微生物病研究所 教授）
副委員長	武 野 團 （あっと(株) 代表取締役）
事務局長	国 松 武 史 （NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 理事・事務局長）
	法人会員 10社 ／ 個人会員 3名



毛細血管観察装置



健康な人の毛細血管画像



ゴースト化した毛細血管画像

2020年12月10日 オープンセミナー ※オープン 毛細血管の老化・劣化と加齢関連疾患の関係ーゴースト血管による治療抵抗性ー 緑内障診療における爪床毛細血管測定の実用性の可能性 毛細血管スコアの研究および社会実装の現状と構想	大阪大学 微生物病研究所 情報伝達分野 教授／大阪大学 総長補佐 高倉伸幸 東北大学大学院 医学系研究科 神経・感覚器病態学講座眼科学分野 教授 中澤 徹 あっと株式会社 代表取締役 武野 團
2021年4月14日 第2回オープンセミナー ※オープン 血流美人!ゴースト血管を作らないために 毛細血管の健康に寄与する商品開発	金沢医科大学 総合内科学 准教授 赤澤純代 ヘルスケア商品企画開発コンサルタント 藤井千春
2021年8月20日 (発足後)第1回オープンセミナー ※オープン 機能性表示食品取得を見据えた毛細血管測定の利用	たしかにプラス株式会社 代表取締役 深谷泰亮
2021年11月8日 (発足後)第2回オープンセミナー ※オープン 血管機能の非侵襲的評価法としての爪床毛細血管指標の可能性	愛媛大学大学院 抗加齢医学(新田ゼラチン)講座教授／ 愛媛大学医学部附属病院 抗加齢予防医療センター長 伊賀瀬道也

2022年3月29日 (発足後)第3回セミナー ※会員限定 血管形成に関わる薬剤・食品開発の試験法 毛細血管の老化予防に着目した植物素材の開発～植物原料メーカーの挑戦～ 未来社会健康デザイン拠点について 紹介	大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 教授／大阪大学 総長補佐 高倉伸幸 丸善製薬株式会社 研究開発本部 基盤技術研究科 主任研究員 大戸信明 東北大学 医学部 眼科学教室 主任教授 中澤 徹
2022年7月21日 2022年度 会員総会・第1回研究会 ※会員限定 毛細血管を対象とした未病・疾患対策 毛細血管研究の進展、毛細血管指標を用いた臨床試験の事例報告 健康経営の現状と毛細血管指標の健康経営企業での活用に関して	大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 教授／大阪大学 総長補佐 高倉伸幸 あっと株式会社 代表取締役 武野 團 あっと株式会社 CSO 中野 譲 あっと株式会社 白田明生
2022年10月4日 2022年度 第2回研究会 ※会員限定 大動脈・細動脈・毛細血管と運動トレーニング 炎症をターゲットにした非感染性疾患(NCDs) Cardiometabolic Diseases の予防と治療 共同研究提案	流通経済大学 スポーツ健康科学部 教授 大槻 毅 認定NPO法人アジア太平洋心臓病学会 理事長 松森 昭 あっと株式会社 代表取締役 武野 團
2023年1月12日 2022年度 第3回研究会 ※オープン 血行促進と予防医学 健康社会の実現に向けた腸内環境の見える化と血管・毛細血管との関連可能性	早稲田大学 ナノ・ライフ創新研究機構 規範科学総合研究所 ヘルスフード科学部門 部門長 矢澤一良 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所／ ワクチン・アジュバント研究センター センター長 國澤 純
2023年3月28日 2022年度 第4回研究会 ※会員限定 コンソーシアム会員様との意見交換会	
2023年7月11日 2023年度 会員総会・第1回研究会 ※会員限定 最近の血管の研究データ コンソーシアムの今後の計画と分担案	大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 教授／大阪大学 総長補佐 高倉伸幸 あっと株式会社 代表取締役 武野 團
2023年8月24日 2023年度 第2回研究会 ※会員限定 機能性食品成分による生活習慣改善への毛細血管指標の活用	東北大学 名誉教授 特任教授 駒井三千夫
2023年12月5日 2023年度 第3回研究会 ※会員限定 毛細血管の可視化と再生医療 毛細血管顕微鏡を用いたウロリチンA含有素材による血管改善効果	大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 教授 高倉伸幸 ダイセル株式会社 ヘルスケアSBU 事業推進室 事業戦略グループ 卯川裕一
2024年2月14日 2023年度 第4回研究会 ※会員限定 毛細血管病である全身性強皮症 毛細血管最新研究の紹介ー「毛細血管論文と解析システム紹介」	大阪大学大学院医学系研究科 血管作動温熱治療学共同研究講座/免疫内科 嶋良 仁 あっと株式会社 代表取締役 武野 團
2024年7月23日 2024年度 会員総会・第1回研究会 ※会員限定 最新の毛細血管研究動向 食と健康と毛細血管の関わり～ポリフェノール研究者の取り組み～ 毛細血管指標のPHR連携	大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 教授 高倉伸幸 摂南大学 農学部食品栄養学科 准教授 岸本良美 あっと株式会社 代表取締役 武野 團
2024年9月3日 2024年度 第2回研究会 ※生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会と合同開催 動脈硬化の新知見とケルセチン配糖体による血管新生 ～心外膜脂肪と毛細血管Vasa Vasorum～ 毛細血管の維持がもたらす健康寿命の延伸	徳島大学大学院医歯薬学研究部 循環器内科学分野 教授 佐田政隆 大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 教授 高倉伸幸
2024年12月20日 2024年度 第3回研究会 ※会員限定 皮膚老化と毛細血管とのかかわり	資生堂株式会社 みらい開発研究所 シーズ開発センター センター長 (Vice President) 加治屋健太郎
2025年2月17日 2024年度 第4回研究会 ※会員限定 健康長寿を支える血管・リンパ管機能の維持とその実現に向けて 毛細血管へのアプローチを目指した健康食品の研究開発について	東京科学大学 大学院 医歯学総合研究科 病態生化学分野 教授 渡部徹郎 全業販売株式会社 パワーライン営業部 学術開発課 課長 桜庭大樹
2025年7月1日 2025年度 会員総会・第1回研究会 ※会員限定 臓器間ネットワークによる代謝恒常性制御機構～発見から応用へ～	東北大学 SIRIUS(医学イノベーション研究所)所長／副理事 片桐秀樹
2025年8月6日 2025年度 第2回研究会 ※オープン サルコペニアにおけるゴースト血管の関与 セルフ型毛細血管スコアによるエビデンスベースヘルスケアと社会実装の可能性 爪先毛細血管指標と毛細血管に関わる機能性表示に向けて	大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 教授 高倉伸幸 あっと株式会社 代表取締役 武野 團 あっと株式会社 藤井千春
2025年11月18日 2025年度 第3回研究会 ※会員限定 血管の形成・機能維持と疾患・加齢に伴う破綻 着るだけで血行促進させる衣服技術	日本医科大学 福原茂朋 MTG社 GISHW 大阪・関西万博関連イベント 動画配信



バイオの次世代を考える会

バイオの次世代を考える会 2016年～2020年

次世代を担うアカデミアと企業の若手研究者が集い、違う立場から共通の接点や役割を見だし、新しい展開や創造につなげる異業種交流の場として「バイオの次世代を考える会」を立ち上げ、交流活動を実施した。

第1回
2017年1月19日
サントリーワールド
リサーチセンター

けいはんな地区におけるサントリーの取り組み
●高橋 賢 蔵（サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社 会長）
けいはんな学研都市におけるイノベーション推進の取り組み
●重松 千 昭（公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構 参与 PDMM支援センター 統括部長）
アカデミアからの話題提供
●馬場 健 史（九州大学 生体防御医学研究室 附属トランスオミクス医学研究センター メタボロミクス分野 教授）

第2回
2017年9月1日
住友クラブ大阪

ご挨拶と会社紹介
●藤田 克 哉（大日本住友製薬株式会社 研究本部 研究企画 GM）
大日本住友製薬(株)の人材マネジメント
●中塚 徹（大日本住友製薬株式会社 人事(人材育成)担当 シニアオフィサー）
●田中 孝 幸（研究本部研究管理部 人材企画G 人材育成担当主任）
当社の再生細胞医療への取り組み
●木村 徹（大日本住友製薬株式会社 取締役執行役員）
神戸大学の最近の取り組みについて(科学技術イノベーション研究科を中心に)
●荻野 千秋（神戸大学大学院 工学研究科 応用化学専攻 教授）

第3回
2018年1月26日
株式会社カネカ
高砂工業所

カネカのバイオテクノロジーへの取り組み
●八十原 良彦（株式会社カネカ バイオテクノロジー開発研究所 上席幹部）
教室の最近の取り組みとネットワーキング
●植田 充 美（京都大学大学院 農学研究科 応用生命科学専攻 教授）

第4回
2018年10月18日
田辺三菱製薬
株式会社 本社

田辺三菱製薬をAIでどうデザインするか？
●清水 良（田辺三菱製薬株式会社 執行役員 フューチャーデザイン部 部長）
●大野 研（創業本部 創業基盤研究所 研究員）
蛋白質の物性 高品質でより安全なバイオ医薬品の開発に向けて
●内山 進（大阪大学大学院 工学研究科 生命先端工学専攻 教授）

第5回
2019年2月4日
パナソニック
ミュージアム

パナソニックのご紹介
●吉岡 俊彦（パナソニック株式会社 テクノロジーイノベーション本部 センサ・デバイス研究所 所長）
植物バイオはバイオエコノミーに貢献できるか？ーNEDO PJなどでの産学連携研究事例ー
●岡澤 敦 司（大阪府立大学 生命環境科学研究室 准教授）

第6回
2019年6月11日
大塚グループ
大阪本社

大塚製薬(株)の紹介
●中澤 徹（大塚製薬株式会社 創業戦略部 戦略企画室 室長）
ボトムアップバイオリジー:次世代のバイオサイエンス
●松浦 友 亮（大阪大学大学院工学 研究科生命先端工学 准教授）

第7回
2020年1月17日
近畿バイオ

経験と考え方～ベンチャーキャピタルの視点から
●北岡 侑 子（日本ベンチャーキャピタル株式会社 常務執行役員）

第8回
2020年10月22日
薬師寺

**加藤朝胤管主による寺院案内および講話
写経(参加者全員)**

バイオの次世代を考える会 再スタート 2024年～現在

次世代を担う産学官の若手のネットワーク形成と、オープンイノベーションに繋がる異業種交流活動を目的として活動を再スタートした。今後、バイオテクノロジーがわが国のイノベーションの核となるよう期待されるためには、各分野において最新の研究に携わっている産学官のバイオニューリーダーの密な協力が不可欠と考え、アカデミア・産業界から最新の研究を紹介し、議論するとともにバイオエコノミーを推進し、関西におけるエコシステムを根付かせることを目的に活動している。

座 長 青 木 航（大阪大学 大学院工学研究科 教授）
副 座 長 蓮 沼 誠 久（神戸大学先端バイオ工学研究センター・センター長 教授）
白 石 晃 将（京都大学大学院農学研究科 助教）
菅 原 雄 一（塩野義製薬株式会社 ワクチン事業本部）

メ ン バ ー 関 谷 毅（大阪大学 産業科学研究所 教授）
三 浦 夏 子（大阪公立大学大学院 農学研究科 准教授）
山 崎 聖 司（大阪大学 産業科学研究所 准教授）
村 木 倫 子（大阪大学 経営企画オフィス 教授）
高 田 啓（富山県立大学 工学部 生物工学科／生物・医薬品工学研究センター 講師）
西藤 真太郎（近畿経済産業局 地域経済部 バイオ・医療機器技術振興課 課長補佐）
中 村 修 士（NTT西日本株式会社 ビジネス営業本部 主査）
朝 見 陽 次（サントリーホールディングス株式会社 イノベーション企画部）

第1回
2024年9月25日

バイオを取り巻く周辺状況に関するセミナー(知財・法務・財務)
スタートアップの財務戦略
●三澤 宏 之（みやこキャピタルパートナー）
法務戦略
●中 森 亘（北浜法律事務所 弁護士）
国際知的戦略の現状
●駒 谷 剛 志（高島特許法律事務所 弁理士）



第2回
2024年11月5日

オープンイノベーション(産学連携)の成功事例共有
新規抗CCR8抗体S-531011の創製から学ぶ産学連携の意義
●柳 楽 庸 史（塩野義製薬株式会社 創薬開発研究所 がんトランスレーショナル・リサーチ 領域長）
異分野への挑戦ーサプリメント原料・発酵ケトン体D-BHBの発酵生産ー
●坪 田 潤（大阪ガス株式会社 エネルギー技術研究所 フェロー）
食による健康長寿社会の実現に向けた取り組み～セルフケアフード協議会の近況～
●堅 田 一 哉（株式会社島津製作所東京支社 産学官・プロジェクト推進室 特任部長）
花事業を研究開発の力で育てる～ベンチャー企業や官学との連携～
●田 中 良 和（元サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社）



第3回
2025年2月3日

活動提案・意見交換
バイオエコノミー推進における日本の課題について

第4回
2025年7月15日

意見交換
日本のバイオテクノロジーを加速させる未来戦略・グラントデザインを議論する

第5回
2025年11月14日

意見交換
合成生物学の現状と将来展望



関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー

2014年～現在

ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開している関西の先生方にご講演をいただき、製薬企業、医療機器企業、診断薬企業、健康食品、サプリ、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・医療産業に対するインスピレーションおよび産業化へのイメージーションを感じていただき、産官学にわたる組織横断的なコミュニティを醸成して産官学の対話を促進することを目的として開始した。毎回2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題を提供いただき、講師の先生と直接お話しいただける場を提供している。当初は全10回を予定していたが、好評のため継続している。

モデレーター 大阪大学共創機構 特任教授 坂田 恒 昭

大阪大学大学院 医学研究科 教授 竹 田 潔

共 催 公益財団法人都市活力研究所

講演一覧

第1回
2014年9月30日
参加人数：61
炎症性腸疾患の発症機構の解析
●竹 田 潔（大阪大学大学院 医学系研究科・免疫制御学、免疫学フロンティア研究センター 教授）
核酸医薬開発の現状と将来展望
●小比賀 聡（大阪大学大学院 薬学研究科 教授）

第2回
2014年12月15日
参加人数：59
メタリックシンドロームの病態学と治療標的
●下村伊一郎（大阪大学大学院 医学系研究科 内分泌代謝内科学 教授）
計算生物学によるシステムの理解から創薬へ
●水 口 賢 司（医薬基盤研究所 プロジェクトリーダー）

第3回
2015年3月4日
参加人数：44
がん細胞のアミノ酸取り込みを標的としたがんPET診断と抗腫瘍治療の開発
●金 井 好 克（大阪大学大学院 医学系研究科 生体システム薬理学 教授）
スーパーコンピュータで挑む創薬と医療
●奥 野 恭 史（京都大学大学院 医学研究科 臨床システム腫瘍学 特定教授）

第4回
2015年6月12日
参加人数：67
アレルギーとがん免疫に対するアジュバント開発研究の新展開
●石 井 健（医薬基盤・健康・栄養研究所 創薬デザイン研究センター センター長）
米国に於ける臨床ビッグデータを用いた観察研究
●新 谷 歩（大阪大学大学院 医学系研究科 寄附講座 教授）

第5回
2015年9月11日
参加人数：51
日本の免疫研究とその臨床応用 ～疾患の鍵分子セマフォリン研究も含めて～
●熊ノ郷 淳（大阪大学 免疫学研究フロンティアセンター 教授）
我が国発のバイオ医薬の創出に向けて ～抗体医薬にフォーカスして～
●堤 康 央（大阪大学大学院 薬学研究科 教授）

第6回
2015年12月11日
参加人数：45
細胞の守護者オートファジー：細胞の自己成分分解システムが様々な疾患を抑制している
●吉 森 保（大阪大学大学院 医学系研究科 遺伝学教室 特別教授）
第3世代抗体医薬品の開発に必須のアプター分子の設計
●井 上 豪（大阪大学大学院 工学研究科 教授）

第7回
2016年3月11日
参加人数：59
iPS細胞がもたらす新たな軟骨疾患研究
●妻 木 範 行（京都大学 iPS細胞研究所 教授）
復活した遺伝子治療 ～最近の成果と課題～
●金 田 安 史（大阪大学大学院 医学系研究科 教授）

第8回
2016年6月10日
参加人数：50
生体内骨髄間葉系幹細胞を標的とした体内再生誘導医療開発の現状と未来
●玉 井 克 人（大阪大学大学院 医学系研究科 再生誘導医学寄附講座 教授）
京都大学発アカデミア創薬 ー卓越した基礎研究から医師主導治験までー
●萩 原 正 敏（京都大学大学院 医学系研究科 教授）

第9回
2016年9月21日
参加人数：64
最新の生体イメージング技術で捉える免疫炎症・骨破壊の動的実体
●石 井 優（大阪大学大学院 医学系研究科・生命機能研究科 免疫細胞生物学 AMED・JST、CREST 教授）
中枢神経障害に対する再生治療戦略
●山 下 俊 英（大阪大学大学院 医学系研究科 教授）

第10回
2016年12月6日
参加人数：44
mRNA分解による炎症調節メカニズム
●竹 内 理（京都大学 ウイルス・再生医学研究所 AMED-CREST、AMED 教授）
遺伝統計学で迫る疾患病態の解明とゲノム創薬
●岡 田 随 象（大阪大学大学院 医学系研究科 遺伝統計学 教授）

第11回
2017年3月9日
参加人数：41
実用化された最新クライオ電顕技術 ～創薬への応用～
●岩 崎 憲 治（大阪大学 蛋白質研究所 准教授）
腸内環境が導く生体応答の基礎的解明と健康科学への新展開
●國 澤 純（医薬基盤・健康・栄養研究所 プロジェクトリーダー）



第36回風景 (2023年7月3日)



坂田 恒 昭



竹 田 潔

第12回
2017年6月1日
参加人数：62
ゲノム編集技術の進歩と課題
●伊 川 正 人（大阪大学 微生物病研究所 教授）
インフルエンザウイルスの増殖機構
●野 田 岳 志（京都大学ウイルス研究所 ウイルス微細構造研究領域 教授）

第13回
2017年9月15日
参加人数：71
人工知能で精神疾患・発達障害を再定義し治療する
●川 人 光 男（(株)国際電気通信基礎技術研究所 通称ATR、脳情報通信総合研究所 所長）
腎臓の「治る」と「治らない」の境界線はどのように決まるのか
●柳 田 素 子（京都大学大学院 医学研究科腎臓内科学 教授）

第14回
2017年12月1日
参加人数：42
HIVインテグラーゼ阻害薬ドルテグラビルの創薬と開発の道程
●藤 原 民 雄（塩野義製薬株式会社 HIV Integrase Inhibitor グローバルプロジェクトリーダー）
腸管IgA抗体による腸内細菌選別とその制御
●新 蔵 礼 子（奈良先端科学技術大学院大学→2017/11/1～ 東京大学分子細胞生物学研究所 バイオサイエンス研究科 教授）

第15回
2018年3月8日
参加人数：40
眼とiPS細胞の未来
●西 田 幸 二（大阪大学大学院 医学系研究科 脳神経感覚器外科学（眼科学） 教授）
向社会性の脳内メカニズムとストレス
●春 野 雅 彦（情報通信研究機構（NICT）脳情報通信融合研究センター 脳情報工学研究室 研究マネージャー）

第16回
2018年7月3日
参加人数：74
細胞老化による発がん制御機構の解明とその制御
●原 英 二（大阪大学 微生物病研究所 遺伝子生物学分野 教授）
iPS細胞を用いた再生医療の実用化に向けて
●木 村 徹（大日本住友製薬(株) 取締役 執行役員）

第17回
2018年9月27日
参加人数：44
ウイルス感染に対する宿主核内システムの応答機構
●今井由美子（医薬基盤・健康・栄養研究所 感染病態制御ワクチンプロジェクト プロジェクトリーダー）
体内時計メカニズムと調節機構
●大 西 芳 秋（産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 副部門長）

第18回
2018年12月5日
参加人数：72
英国のゲノム医療の研究開発：実績と今後の展望
●英国領事館/Genomics Englandとコラボ開催

第19回
2019年3月5日
参加人数：34
ネットワーク構造から生まれる命システムの恒常性
●望 月 敦 史（京都大学 ウイルス・再生医学研究所/理化学研究所 望月理論生物学研究室 教授）
多発性骨髄腫に対する新規CAR T細胞療法の開発
●保 仙 直 毅（大阪大学大学院 医学系研究科 癌幹細胞制御学 寄附講座准教授）

第20回
2019年6月25日
参加人数：64
ライフサイエンス・オープンイノベーションに対する私感
●坂 田 恒 昭（大阪大学 サイバーメディアセンター 招聘教授）
炎症性腸疾患の病態解明をめざした腸管恒常性の維持機構の解析
●竹 田 潔（大阪大学大学院 医学系研究科 教授）

第21回
2019年9月4日
参加人数：67
大腸菌研究からのネットワーク生物学への展開
●森 浩 禎（奈良先端科学技術大学院大学 データ駆動型サイエンス創造センター システム微生物学 教授）
腸内細菌叢とがん ～腸内細菌関連因子による肝がんの進展機構～
●大 谷 直 子（大阪市立大学大学院 医学研究科 教授）

第22回
2019年12月9日
参加人数：46
細胞動態からみた皮膚免疫反応
●本 田 哲 也（京都大学医学部附属病院 皮膚科 講師）
医療データ二次活用環境構築のためのロードマップ
●松 村 泰 志（大阪大学大学院 医学系研究科 情報統合医学講座 医療情報学 教授）

第23回 ※2020年3月に開催を予定していた第23回セミナーは新型コロナウイルス感染拡大の影響により急遽中止となった

第24回
2020年6月25日
参加人数：132
WEB開催
脳波センシング技術とAI技術が生み出す医療・ヘルスケア創生 ～ブレインビッグデータを活用した予防・治療の開拓～
●関 谷 毅（大阪大学 総長補佐・栄誉教授 大阪大学産業科学研究所 教授）
「血管内皮幹細胞を用いた新しい血管再生療法の開発」
●高 倉 伸 幸（大阪大学 微生物病研究所 情報伝達分野 教授）

第25回
2020年9月29日
参加人数：80
WEB開催
白血病を発症させる原因遺伝子の解明 ー生まれた時から白血病は始まっているー
●牧 島 秀 樹（京都大学大学院 医学研究科 腫瘍生物講座 准教授）
新しい医薬品としてのラクダ科動物由来VHH抗体
●萩 原 義 久（産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 研究部門長）

第26回
2020年12月11日
参加人数：88
WEB開催
K値をもちいた解析で分かった新型コロナ感染拡大の特徴
●中 野 貴 士（大阪大学 核物理研究センター長）
新型コロナウイルスの性状とワクチン開発の現状
●松 浦 善 治（大阪大学 微生物病研究所 教授）

第27回
2021年3月2日
参加人数：84
WEB開催
新型コロナウイルス等感染症検査用超高速リアルタイムPCRシステムの開発
●永井 秀典（(国開)産業技術総合研究所 先端フォトニクス・バイオセンシングオープンイノベーションラボラトリ 研究グループ長 先端フォトニクス・バイオセンシングオープンイノベーションラボラトリ(阪大OIL) 兼務)

スポーツ医学からの健康研究・情報科学とバイオインダストリー：東京オリンピックとCOVID-19を迎えて
●中 田 研（大阪大学大学院 医学系研究科 健康スポーツ科学講座 スポーツ医学教室 教授）

第28回
2021年6月9日
参加人数：78
WEB開催
ゼブラフィッシュを用いた循環臓器発生学研究
●望 月 直 樹（国立循環器病研究センター 理事 研究所長）
ポストコロナ時代における多剤耐性菌感染症克服に関する研究
●西 野 邦 彦（大阪大学産業科学研究所 教授）

第29回 2021年9月1日 参加人数:256 WEB開催	iPS細胞を材料とした汎用性即納型T細胞製剤の作製 ―急性骨髄性白血病の治療へ向けた開発研究とウイルス感染症への応用― ●河 本 宏（京都大学 ウイルス・再生医科学研究所 副所長 再生免疫学分野 教授） 感染症の重症化機構：マラリアから新型コロナウイルス感染症 ●荒 瀬 尚（大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 免疫化学研究室／微生物病研究所 免疫化学分野 教授） ヒト嗅覚受容体セルアレイセンサーが拓く新しいにおいビジネス ●黒 田 俊 一（大阪大学産業科学研究所 教授／株式会社香味醗酵 創業者・CSO・取締役） 炎症応答を制御するユニークなユビキチン修飾系と炎症性疾患への寄与 ●岩 井 一 宏（京都大学大学院 医学研究科 研究科長 教授） 全ゲノム解析等を用いた網羅的ゲノム解析による消化器神経内分泌腫瘍の病態解明 ●谷内田 真一（大阪大学大学院 医学系研究科 医学専攻 ゲノム生物学講座・がんゲノム情報学 教授／国立がん研究センター研究所 ゲノム医科学分野 分野長） 「消化器がんの自然史に沿った疾患モデルの構築と応用」 ●妹 尾 浩（京都大学大学院 医学研究科 消化器内科学 教授） 工学的な臓器モデルの現状と課題、将来展望 ●松 崎 典 弥（大阪大学大学院 工学研究科 応用化学専攻 教授） 生理活性合成化合物の新しい世界 ●上 杉 志 成（京都大学化学研究所 教授／京都大学物質－細胞統合システム拠点 副拠点長） QbDに基づく細胞製剤製造の現状と展望 ●川真田 伸（（公財）神戸医療産業都市推進機構 細胞療法研究開発センター センター長） ヒト多能性幹細胞由来オルガノイド作製と眼の再生医療への利用 ●林 竜 平（大阪大学大学院 医学系研究科 寄附講座 教授） 感染症ワクチンの最適化に資する基盤技術構築 ●林 竜 平（大阪大学先導的学際研究機構・微生物病研究所 特任教授） 表皮の恒常性維持機構とその破綻の病態生理 ●久 保 亮 治（神戸大学大学院 医学研究科 内科系講座皮膚科学分野 教授） 量子化学計算を用いた構造生命科学研究 ●福 澤 薫（大阪大学大学院 薬学研究科 量子生命情報薬学分野 教授） 黄色ブドウ球菌クオラムセンシングの皮膚および全身感染症における役割 ●松 岡 悠 美（大阪大学免疫学フロンティア研究センター 皮膚アレルギー－生体防御 教授） 脳AI融合の臨床応用 ●柳 澤 琢 史（大阪大学 高等共創研究院 教授） T細胞の老化と再生 ●濱 崎 洋 子（京都大学iPS細胞研究所 副所長・教授／京都大学医学研究科 免疫生物学 教授） 組換え蛋白質の超高効率生産を実現する鶏卵バイオリクター ●大 石 勲（産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 副研究部門長） リンパ球動態を標的とした自己免疫疾患の新規治療法の開発に向けて ●鈴 木 一 博（大阪大学免疫学フロンティア研究センター 教授／大阪大学感染症総合研究教育拠点 教授） 生命の試験管内再構成とその再発明への挑戦 ●青 木 航（大阪大学大学院 工学研究科 教授） マルチオミクス解析による小児がんの病態理解と新規克服法の開発 ●滝 田 順 子（京都大学大学院 医学研究科 教授） がん抑制因子活性化創薬によるがん治療刷新を目指す ●片 桐 豊 雅（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 所長） AI×量子×バイオの融合 ●谷 口 正 輝（大阪大学 産業科学研究所 教授） データ駆動的患者層別化と創薬標的探索に向けたAI開発 ●夏目 やよい（医薬基盤・健康・栄養研究所 AI健康・医薬研究センター センター長代行・パイオインフォマティクスプロジェクト プロジェクトリーダー／徳島大学 先端酵素学研究所 特任教授（併任）／大阪大学 蛋白質研究所 特任教授（併任）） 生体イメージングによる難治性疾患の病態理解と創薬への応用 ●菊 田 順 一（神戸大学 大学院医学研究科 未来医学講座 免疫学分野 教授） 生物発光が持つ多様な応用展開 ―生理活性物質の探索から農薬検出まで― ●近江谷 克裕（産業技術総合研究所 生命工学領域 主席研究員） ゲノム編集スクリーニングを用いたがんの新しい病態理解と治療応用 ●井 上 大 地（大阪大学大学院医学系研究科 生命機能研究科（兼任）がん病理学 教授） 代謝経路を測量してバイオものづくりに活用する ●松 田 史 生（大阪大学大学院 情報科学研究科 教授） 腸内細菌叢のメタゲノム解析を基盤とした新規治療法の開発 ●植 松 智（大阪公立大学大学院 医学研究科 ゲノム免疫学 教授／東京大学医科学研究所 ヒトゲノム解析センター メタゲノム医学分野 特任教授） オルガノイドを用いた肝疾患治療 ●武 部 貴 則（大阪大学大学院 医学系研究科 ヒューマン・メタパス疾患研究拠点 教授・副拠点長／東京科学大学 総合研究院 ヒト生物学研究ユニット 教授／横浜市立大学 特別教授／コミュニケーション・デザイン・センター長／シンシナティ小児病院 幹細胞・オルガノイド医療研究センター 副センター長／准教授） 腸内細菌と宿主の糖代謝連関 ●木 村 郁 夫（京都大学大学院 生命科学研究科 教授） 産学連携で推進する標的アルファ線核医学治療の社会実装 ●中 野 貴 志（大阪大学 核物理研究センター長） GPCRシグナルの精緻解析から解明する統合理論 ●井 上 飛 鳥（京都大学大学院 薬学研究科 教授／東北大学大学院 薬学研究科 教授） 21世紀国際感染症対策と日本 ●高 島 義 裕（大阪大学 ワクチン開発拠点 先端モダリティ・ドラッグデリバリーシステム研究センター 特任教授） mRNA創薬の可能性と未来 ●位 高 啓 史（大阪大学 感染症総合教育研究拠点（CiDER）臨床生命工学チーム 教授）
第30回 2021年12月16日 参加人数:59 WEB開催	
第31回 2022年3月11日 参加人数:61 WEB開催	
第32回 2022年6月13日 参加人数:105 (内会場14) ハイブリッド開催	
第33回 2022年9月7日 参加人数:181 ハイブリッド開催	
第34回 2022年12月2日 参加人数:78 ハイブリッド開催	
第35回 2023年4月3日 参加人数:67 ハイブリッド開催	
第36回 2023年7月3日 参加人数:35 リアル開催	
第37回 2023年9月6日 参加人数:28 リアル開催	
第38回 2023年12月13日 参加人数:47 (内会場16) ハイブリッド開催	
第39回 2024年3月18日 参加人数:94 オンライン開催	
第40回 2024年7月2日 参加人数:125 オンライン開催	
第41回 2024年9月4日 参加人数:73 オンライン開催	
第42回 2024年12月17日 参加人数:106 オンライン開催	
第43回 2025年3月3日 参加人数:144 オンライン開催	
第44回 2025年7月8日 参加人数:85 オンライン開催	
第45回 2025年10月23日 参加人数:123 オンライン開催	

会場参加型トークセミナー

2013年～2024年

株式会社宮田総研の宮田満様*に座長をお願いし、関西で活躍する企業トップの方のお話を伺うという企画で全13回開催した。宮田様からはバイオの最新の潮流についてお話を、企業のトップの方からは経営のビジョンや戦略のお話を伺ったあと、ざっくばらんにフリートークをしていただいた。会場からの質問や発言も加わって毎回エキサイティングなトークが展開された。

*初代日経バイオテク編集長

講演一覧

第1回
2013年5月9日

（座長＋パネルディスカッション）
●宮 田 満（株式会社日経BP）
サラヤのビジネスと持続可能な社会への取り組み
●更 家 悠 介（サラヤ株式会社 代表取締役社長）

第2回
2013年12月12日

バイオテクノロジーの最新潮流2013／2014
●宮 田 満（株式会社日経BP 特命編集委員）
タカラバイオの事業戦略
●仲 尾 功 一（タカラバイオ株式会社 代表取締役社長）

第3回
2014年12月11日

バイオテクノロジーの最新潮流2014／2015
●宮 田 満（株式会社日経BP 特命編集委員）
不二製油でのバイオの取り組み
●海老原 善 隆（不二製油株式会社 代表取締役会長）

第4回
2015年6月23日

（座長＋パネルディスカッション）
●宮 田 満（株式会社日経BP 特命編集委員）
バイオビジネス「着想の原点」
●金 武 祚（株式会社ファーマフーズ 代表取締役社長）

第5回
2016年7月12日

再生医療に未来はあるのか？
●宮 田 満（株式会社日経BP 特命編集委員）
健康社員、健康企業を目指して
●ジュネジャ・レカ・ラジュ（ロート製薬株式会社 取締役副社長／エムジーファーマ株式会社 代表取締役社長）

第6回
2017年6月23日

腸内細菌叢ブームの真相
●宮 田 満（株式会社日経BP 特命編集委員）
茶色い宝石が切り拓く病気ゼロの社会
●福 田 真 嗣（株式会社メタジェン 代表取締役社長CEO／慶応義塾大学先端生命科学研究所 特任准教授）

第7回
2018年7月9日

日本のバイオ産業が、国際競争に勝つ条件
●宮 田 満（株式会社日経BP 特命編集委員）
技術で勝ってビジネスでも勝てる日本
●窪 田 規 一（ペプチドリーム株式会社 代表取締役会長）

第8回
2019年7月18日

バイオ産業に何故、ベンチャーが必要なのか？
●宮 田 満（株式会社宮田総研 代表取締役）
ベンチャーだからこそ出来るイノベーションと国際競争
●山 田 英（アンジェス株式会社 代表取締役社長）

第9回
2020年6月29日

新型コロナウイルス征圧と免疫
●宮 田 満（株式会社宮田総研 代表取締役）
ゲノム編集T細胞を用いたがん治療への挑戦
●鈴 木 隆 二（Repertoire Genesis株式会社 代表取締役会長）

第10回
2021年6月24日

希少疾患がバイオを救う
●宮 田 満（株式会社ヘルスケアイノベーション 代表取締役／株式会社宮田総研 代表取締役）
希少疾患のビジネスチャンス
●塩 村 仁（ノーベルファーマ株式会社 代表取締役社長）

第11回
2022年6月27日

バイオ最新潮流2022
●宮 田 満（株式会社ヘルスケアイノベーション 代表取締役／株式会社宮田総研 代表取締役）
mRNAワクチンの最前線
●鈴 木 蘭 美（モデルナ・ジャパン株式会社 代表取締役社長）

第12回
2023年7月21日

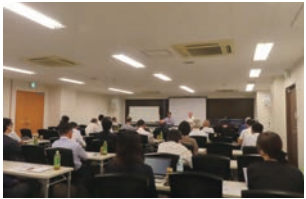
合成生物学の時代は来るか？
●宮 田 満（株式会社宮田総研 代表取締役社長）
日本の合成生物学研究の現状と今後の課題
●近 藤 昭 彦（神戸大学 副学長／神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 教授）

第13回
2024年7月25日

21世紀前半における、ヘルスケア・医薬産業の挑戦
●宮 田 満（株式会社宮田総研 代表取締役社長）
シスメックス長期経営戦略 VA33；ヘルスケアジャーニーの実現に向けた取り組みについて
●吉 田 智 一（シスメックス株式会社 取締役執行役員 CTO）



第13回風景（2024年7月25日）



第12回風景（2023年7月21日）

新春国際交流会

2002年～現在

近畿バイオインダストリー振興会議の新春の催しとして、「新春国際交流会」を2002年から毎年1月に開催している。英国領事館をはじめ各国のバイオ関連機関にもご参加いただき、会員の皆様との交流の場として活用いただいている。2017年度からはそれまで開催してきた「年末バイオセミナー」と一本化した。



ご講演

2025年1月31日(金)
ライフサイエンスハブウエスト



第I部 ご講演

主催者挨拶 NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 理事長 坂田 恒 昭

来賓ご挨拶 近畿経済産業局 局長 信谷 和 重 氏

ご講演 「バイオテクノロジーの最新潮流2024／2025」
株式会社ヘルスケアイノベーション 代表取締役 兼
株式会社宮田総研 代表取締役 宮田 満 氏

第II部 海外機関ご紹介

来賓ご挨拶 政府代表／特命全権大使(関西担当) 三 澤 康 氏

来賓ご挨拶 JETRO 大阪本部長 庄 秀 輝 氏

海外機関ご紹介

- アイルランド政府産業開発庁
- イスラエル大使館
- ケベック州政府在日事務所
- 在大阪オーストラリア総領事館
- 在大阪オランダ王国総領事館
- 在大阪・神戸米国総領事館
- ノースカロライナ州政府日本事務所
- 米国ペンシルベニア州政府日本投資事務所
- 米国メリーランド州政府日本投資事務所
- 英国総領事館(動画配信)



海外機関代表の集合写真

閉会の挨拶 NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 副理事長 田岡 直 明

懇親会・名刺交換会



懇親会



活動報告会

2020年～現在

近畿バイオの会員を対象として、活動報告会を年2～3回継続的にオンラインで開催している。新規入会会員の事業紹介と近畿バイオの新たな活動の紹介を中心としたプログラムで構成しており、会員相互の情報交換の場として活用されている。

講 演 テ ー マ			講 演 者 (敬称略)
2020年度	2月2日	ヤンマーグループにおける活動内容のご紹介 ケトン体摂取サプリ向け発酵生産D-BHBおよび非侵襲ミトコンドリアセンサーのご紹介 サノフィにおけるパートナーリング活動のご紹介 農学の新スタイル 爪床毛細血管像の臨床研究	ヤンマーホールディングス(株) 大阪ガス(株) サノフィ(株) 摂南大学 あっと(株)
	2月4日	LINK-J West 始動 患者組織由来がん細胞 ーがんアバターモデルーの構築と臨床応用 ゲノム編集技術による研究支援と畜産分野の開拓 シンガポール発、microRNAの発現解析から癌診断キットの開発、販売 鴻池運輸グループの医療関連事業ご案内 環農水研のぶどう・ワイン研究	(一社)ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン(LINK-J) 大阪府立病院機構(国際がんセンター) 株式会社セツロテック MIRXES Japan(株) 鴻池運輸(株) 地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所
2021年度	5月12日	世界最高性能の遺伝子発現プロファイリング技術の紹介とその応用 最新の培養実験で使用可能な実験機材の紹介 独自開発した育毛原料の紹介	(株)ナレッジパレット シーエスクリエ(株) 富士産業(株)
	5月17日	世界最高性能の遺伝子発現プロファイリング技術の紹介とその応用 最新の培養実験で使用可能な実験機材の紹介	(株)ナレッジパレット シーエスクリエ(株)
	10月7日	バイオコミュニティ関西 設立説明会 バイオ3Dプリンティングによる医療・創薬革命	NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 セルリンク(株)
2022年度	4月20日	神戸市・神戸医療産業都市推進機構のスタートアップ支援事業(Kansai Life Science Accelerator Program(KLSAP))の参加・賛助企業募集 バイオコミュニティ関西の現状報告 未利用バイオマス資源を用いたグリーンケミカルプロダクトの創出	神戸医療産業都市推進機構 NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 Innovare(株)
	5月12日	バイオものづくりを加速させる関西のバイオファウンドリ(バイオものづくりパンフレットの紹介) NEDOが取り組むバイオものづくり - バイオファウンドリ拠点整備と人材育成(NEDO特別講座) 透過画像を用いたスフェロイドの非侵襲評価技術 統合型バイオ・ファウンドリによるバイオ産業クラスターの形成 事業紹介と個人最適実現のための「食とICTの融合」 GRAS発酵食品微生物の代謝物と腸内菌叢の相互作用 新たな微細藻類の分離・培養とその利用	近畿経済産業局 NEDO 住友電気工業(株) (株)バックス・バイオイノベーション (株)AIVICK 国民バイオ(株) (株)SeedBank
	9月15日	日本政策投資銀行(DBJ)関西支店のご紹介 大阪ソーダグループのヘルスケア事業への取組み 事務所紹介ーバイオ分野の実績を中心にー 関西イノベーションイニシアティブの活動および参画大学のシーズ集のご紹介 オープンイノベーションに資する新たな研究施設「ターンキーラボ健都」のご紹介 関西バイオビジネスマッチング2022のご案内	(株)日本政策投資銀行 (株)大阪ソーダ 弁護士法人山本特許法律事務所 関西イノベーションイニシアティブ(代表幹事機関:公益財団法人都市活力研究所) 京都リサーチパーク(株) NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議
	3月15日	バーンズアンドソーンバーク法律事務所・事務所紹介 シスメックスの研究開発・オープンイノベーションに関する取組み 竹中工務店 バイオ領域への取組 と 関連する保有技術のご紹介 サプリメント・医薬品原料 リン脂質型オメガ3を含むオールインワンオイルの紹介 ゲノミクスを用いた研究開発コンサルティングのご紹介 当社とお客さま・お客さまどうしの「つながり」およびイノベーションの推進に向けて バイオベンチャーデータベースのご案内	バーンズアンドソーンバーク法律事務所 シスメックス(株) (株)竹中工務店 アーケル・バイオマリン・ジャパン(株) (株)日本バイオデータ 第一生命保険(株) NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議
2023年度	7月12日	関西医薬品協会のイノベーション関連の取り組み 「健康寿命の延びる沿線」実現に向けた取組について バイオコミュニティ関西におけるNTT西日本の取り組み紹介 ～医療・健康分野におけるパーソナルデータ利活用の促進に向けた取組み～ DCIパートナーズの活動紹介 テイカ株式会社の事業内容のご紹介 H.U.グループの再生医療・バイオ医薬品向け品質試験サービスのご紹介 ケンブリッジコンサルタンツ社のご紹介	関西医薬品協会 阪急阪神ホールディングス(株) 西日本電信電話(株) DCIパートナーズ(株) テイカ(株) H.U.セルズ(株) ケンブリッジコンサルタンツ(株)
	9月19日	東南アジアへの事業展開におけるDocquity(ドクイティ)の活用 オーディオの技術をウェルネス・ヘルスケアへ 農業の関係人口創出にむけたAwaji Nature Lab&Resortの取組について 川崎重工業の紹介および医療・ヘルスケア領域における取組み	Docquity Holdings Pte. Ltd. オンキヨー(株) (株)パナ農援隊 川崎重工業(株)
	2月21日	バイオコミュニティ関西(BiocK)活動報告 国際シンポジウム(Bioeconomy Hub Japan)開催について クリニック向け簡易型CPC施設に関する取組み 株式会社シーテックおよびKODOBOKU技術のご紹介 ぶどう圧搾残渣を用いたサステナブル事業のご紹介 大阪公立大学のアカデミア創薬のご紹介 福岡県のバイオ産業振興に係る取組紹介	NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 八洲薬品株式会社・BizScience株式会社 (株)シーテック (株)旗ヶ岡ネイチャー研究所 大阪公立大学 福岡県大阪事務所
2024年度	7月29日	バイオ・ヘルスケア企業の人材課題を解決する新サービスのご提案および事例紹介 ワールドインテックの特徴について EY Japanの概要とEYライフサイエンスセクターのご紹介 ダイキン工業の協創イノベーションと、ニュースのご紹介	(株)RDサポート (株)ワールドインテック EY新日本有限責任監査法人 ダイキン工業(株)
	3月11日	AMR(Antimicrobial Resistance)問題の解決に向けた難培養性細菌の可能性 会社概要およびナノピペット技術を用いた微細藻類関連事業化検討例のご紹介 DNA/RNA ヘテロ 2 本鎖核酸(HDO)のご紹介 神鋼環境ソリューション攪拌技術の培養分野への適用 生体内顕微鏡を用いた細胞レベルでのリアルタイムIn Vivoイメージング	(株)村田製作所 Yokogawa Innovation Switzerland GmbH レナセラピューティクス(株) (株)神鋼環境ソリューション IVIMテクノロジー
2025年度	7月3日	ライフサイエンス団体、バイオコム・カリフォルニアについてと、BCIがどのようにして、米国進出に興味のある日本企業を支援できるかについて。 Synapto Venturesによるユニークな資金調達支援サービス 「グローバルな規制対応パスウェイ:医薬品・医療機器の成功に向けたパートナーシップ」 遺伝子細胞製剤に特化したCDMOサイトファクトの事業紹介 再生医療に係る業務、およびショウジョウバエを用いた評価試験について ～総合環境衛生企業としての各種業務ご紹介～ 箕面市における賃貸ラボ(事務所兼研究所)の開発計画のご紹介 ACROBiosystems株式会社のご紹介	Biocom Japan Consulting(BJC) Synapto Ventures BLA Regulatory (株)サイトファクト 環境衛生薬品(株) 東京建物(株) アクロバイオシステムズ(株)
	12月24日	光スイッチスマートセルおよび光制御型バイオ生産システムのご紹介 お茶摂取による健康寿命の延伸に関する研究の取組みについて 「誰も病気になる未来」「誰もが自分らしく生きられる社会」を目指して 信頼性の高いエビデンス創出を支えるヘルスケアCROの取り組みと事例紹介 会社概要 (一財)大阪科学技術センターの活動内容 当社のバイオ関連取り組みについて 既知から未知を発見するAI創薬支援サービス[Drug Discovery AI Factory] 会社紹介と関西圏におけるラボオフィス開発について	(株)ミーバイオ 共栄製茶(株) フォーネスライフ(株) (株)アイメックRD ノーベルファーマ(株) (一財)大阪科学技術センター 双日(株) (株)FRONTEO JR西日本不動産開発(株)

近畿経済産業局の施策との連携

産業クラスター政策

地域の中堅中小企業・ベンチャー企業が大学、研究機関等のシーズを活用して、産業クラスター（新事業が次々と生み出されるような事業環境を整備することにより、競争優位を持つ産業が核となって広域的な産業集積が進む状態）を形成し、国の競争力向上を図る。

第1期（2001～5年）産業クラスターの立ち上げ期

クラスターの実態と政策ニーズを踏まえて、国が中心となって進める産業クラスター計画プロジェクトとして20程度を立ち上げ、自治体が独自に展開するクラスターと連携しつつ、産業クラスターの基礎となる「顔の見えるネットワーク」を形成する。

第2期（2006～10年）産業クラスターの成長期

引き続きネットワークの形成を進めるとともに、具体的な事業を展開していく。また、同時に企業の経営革新、ベンチャーの創出を推進する。なお、必要に応じて、プロジェクトの見直し、新たなプロジェクトの立ち上げを柔軟に行う。

第3期（2011～20年）産業クラスターの自律的発展期

ネットワークの形成、具体的な事業展開を更に推進していくとともに、産業クラスター活動の財政面での自立化を図っていき、産業クラスターの自律的な発展を目指す。

関西の強みを活かした地域連携の取組

関西地域健康長寿関連産業活性化協議会（2010年～2014年）

事業の背景と目的

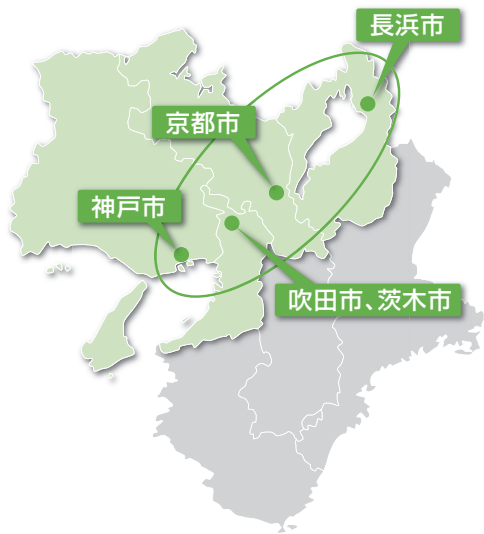
- 平成22年2月に企業立地促進法の広域計画を促進するために発足する。行政機関及び産業支援機関の広域的な連携により、産学連携・人材育成等の支援事業を一体となって実施する。
- 関西地域における最先端の研究拠点と多様な産業集積を活用し、次世代の健康長寿関連ビジネスを創出するとともに、地域内の企業立地件数、製品出荷・新規雇用創出件数の増加を図る。

協議会構成員

- 長浜市、京都市、吹田市、茨木市、神戸市
- 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県
- 大阪商工会議所、神戸商工会議所
- (社)バイオビジネス創出研究会、(財)京都高度技術研究所、(財)千里ライフサイエンス振興財団、(財)先端医療振興財団、(財)神戸市産業振興財団、NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議

目標に向けた事業環境整備等

- 人材育成セミナー、シンポジウムの開催 → 医工人材の育成
- 人的ネットワークの形成、情報提供事業
- 地域連携コーディネーターの配置 → シーズの発掘
- 新事業創出支援
- 産学医の連携支援 → 医療現場のニーズによる製品開発
- ビジネスマッチング・販路開拓支援
- 海外クラスターとの連携 → 海外とのアライアンスの促進



「組織工学・再生医学 ワークショップ」

再生医療とスーパー特区

JT 生命誌研究館
NPO 法人 AASJ

代表 西川 伸一



主 催 kTi(関西ティッシュ・エンジニアリング・イニシアティブ)、財団法人大阪科学技術センター、近畿バイオインダストリー振興会議、産業クラスター部会

後 援 独立行政法人産業技術総合研究所、近畿経済産業局、神戸市

開催趣旨

日本の研究助成機関はこの10年近くの間多くの研究費を再生医療につぎ込んできました。その見返りとして、研究助成機関と社会は再生医療の早急な実現化を求めています。そのような状況の中で、再生医療研究は厚生労働省から出された幹細胞研究指針の枠を通じた臨床研究という公の場への船出を始めたところです。再生医療にかかわる医師、研究者、研究助成機関、そして市民にとって重要な時期にさしかかっています。本シンポジウムは、再生医療研究における基礎研究から始まり企業化成功例まで、また、指針に沿った臨床研究の実施とその問題点、そして規制の実際などについて考える機会を設けることを目的に、これらの問題に関わる第一人者の講師陣をお迎えして開催いたします。（開催時の案内から）

ワークショップの議題（第6回から記載）

第6回	2003年10月25日 第1部 再生医療に関するRegulation 第2部 再生医療の日米のトピックス	第12回	2006年4月22日 第1部 自己細胞を用いた再生医療 第2部 関西の再生医療関連ベンチャー交流会
第7回	2004年3月6日 第1部 ゲノムベイ東京構想と東西連携 第2部 再生医療関連企業パネル展示	第13回	2006年11月25日 第1部 体性幹細胞を取り巻く研究指針動向 第2部 長期培養における細胞の機能変化とその規制
第8回	2004年12月18日 第1部 細胞組織医療材料の製品化のための環境整備 第2部 再生医学と工学	第14回	2007年8月25日 第1部 再生医療の産業化 第2部 イノベーション施策と再生医療
第9回	2005年3月12日 第1部 ランゲルハンス氏島移植と膵臓移植の現状と展望 第2部 糖尿病患者団体との連携	第15回	2008年9月6日 第1部 ヒトES細胞培養法—創薬開発ツールとしての利用 第2部 再生医療の速やかな社会還元を目指して 第3部 先進医療推進のための施策の最近の動向
第10回	2005年6月4日 第1部 CPCの実際—医療機関の取組み— 第2部 CPCの実際—企業の取組み—	第16回	2009年9月26日 第1部 スーパー特区の制度とその運用 第2部 スーパー特区の制度を活用して推進する再生医療
第11回	2005年11月26日 第1部 再生医療 from 再生医学 第2部 ビジネスチャンス in 再生医療	第17回	2010年9月18日 第1部 指針の見直しとそのreview 第2部 実現化している幹細胞指針適合臨床研究の現状

「遺伝子治療シンポジウム」

我が国における
遺伝子医薬品承認申請に向けた課題と取り組み

大阪大学大学院
医学系研究科
教授 金田 安 史



- 主 催
- 近畿バイオインダストリー振興会議、近畿バイオ産業クラスター部会
- 後 援
- 近畿経済産業局、財団法人大阪科学技術センター、大阪商工会議所

開催趣旨

当振興会議では、近畿経済産業局の近畿産業クラスター計画の一環として、「遺伝子治療国際シンポジウム」を企画します。バイオテクノロジー分野の中でも遺伝子治療は、特に将来の有望な治療手段として社会の注目を集めております。遺伝子や合成核酸を用いた難病の分子治療の臨床研究、治療用遺伝子の分離や新規遺伝子導入技術などの研究開発も推進されており、他の機関でも研究開発が盛んに行われています。

このような状況のもと、欧米の研究者とわが国の研究者が一同に会し、遺伝子治療に関する開発状況の現状と将来を議論することにより、遺伝子治療の研究開発・実用化の可能性を探るとともに、わが国における先端医療分野および周辺技術の普及・啓蒙を図り、近畿地域において創薬関連産業のクラスター形成を目的に開催いたします。（開催時の案内から）

シンポジウムの議題

第1回	2003年2月6日	第1部	遺伝子治療の現状総括	
		第2部	遺伝子治療の技術進展と将来展望	
		第3部	遺伝子治療の臨床研究と将来展望	
第2回	2004年1月30日	第1部	遺伝子の導入と発現技術の進展	
		第2部	生活習慣病遺伝子治療の進展	
		第3部	遺伝子治療の発展	
第3回	2005年1月28日	第1部	siRNAの治療薬への応用	第4部 遺伝子治療のための治療薬設計
		第2部	遺伝子探索のためのハイスループットスクリーニング法	
		第3部	画期的な遺伝子診断法とイメージング法の開発	
第4回	2006年2月3日	第1部	遺伝子治療のための技術革新	
		第2部	感染症の予防と治療	
		第3部	神経変性疾患の予防と治療	
第5回	2007年2月2日	第1部	遺伝子医薬品の実用化に向けて	
		第2部	国内遺伝子治療ベンチャーの動向	
第6回	2008年2月1日	第1部	合成系を用いた高機能ベクターの開発	
		第2部	ウイルスを用いた高機能ベクターの開発	
第7回	2009年1月30日	第1部	遺伝子分離と導入技術の開発	第4部 遺伝性疾患への応用 第5部 遺伝子治療の将来像
		第2部	癌治療への応用	
		第3部	循環器疾患への応用	
第8回	2010年2月5日	第1部	国内外の遺伝子医薬品の現状	
		第2部	遺伝子治療臨床研究申請の問題点	
		第3部	遺伝子治療の臨床研究と将来展望	
第9回	2011年2月1日	第1部	癌遺伝子治療臨床研究	第4部 今後の進め方
		第2部	生活習慣病の遺伝子治療臨床研究	
		第3部	総合討論	

「コンビナトリアル・バイオエンジニアリング会議」

京都大学大学院
農学研究科
代教授 植田 充 美



- 主 催
- NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議
- 後 援
- コンビナトリアル・バイオエンジニアリング研究会、(社)未踏科学技術協会・「生命をはかる」研究会、コンビナトリアルバイオ工学会、ナノバイオテクノロジー部会、近畿経済産業局、日本生物工学会、文部科学省科学研究費特定領域「ライフサーベイヤー」

開催趣旨

生命活動を動的に解析するプローブやシステムを研究開発する新分野「ライフサーベイヤー」（後援の(社)未踏科学技術協会・「生命をはかる」研究会の和田昭允先生のご提唱）研究分野を日立・中研の神原秀記先生をリーダーに、科研費特定領域研究で創成・育成してきました。現在、オミックスやインタラクトームなどの多変数解析を踏まえ、生命や生物の動的なダイナミクスを自然の姿のままで捉え、究極的にはシングルセル解析を目指して生命現象を定量的に測定していく研究へと展開してきています。これまでに得られた研究手法を、「不思議」のあふれる生命現象の解析研究に融合させて貢献していくには、という点を大命題に、この「生命の不思議」を研究されている先生方をお招きして議論してゆきたいと考えております。（開催時の案内から）

フォーラムの議題

第1回	2004年7月21日	議 題	コンビナトリアル・バイオエンジニアリング 分子ディスプレイの発展
第2回	2005年10月20日	議 題	ヒューマン・ライフサイエンス・フォーラム
第3回	2006年11月10日	議 題	「分子ライブラリー」構築に向けた コンビナトリアル・バイオエンジニアリングの挑戦
第4回	2007年11月9日	議 題	定量的生命計測研究からの現代科学と 社会へのメッセージライフサーベイヤーの構築に向けて
第5回	2008年11月7日	議 題	ポストゲノムデータベース時代の幕開け バイオテクノロジー新時代をゆく
第6回	2009年11月13日	議 題	生命の不思議をはかるために
第7回	2010年11月12日	議 題	感覚の不思議をはかるために

「関西バイオの未来を考える会」

設立の経緯と趣旨

近畿経済産業局のバイオクラスター形成計画の推進に協力して活発に活動を行っており、創生・育成に関わったバイオベンチャーも20数社に進展した。今後バイオテクノロジーが期待されるような力を発揮し、わが国のバイオ産業の核となるべく発展していくためには、各分野を牽引する" 関西のバイオニューリーダー "と言える先生方の英知の結集が必要と考え、「関西バイオの未来を考える会」を2004年に発足させ、最先端のバイオ技術について議論するとともに広く産業界への普及を推進した。

講演者

第1回 2005年2月28日	福崎英一郎 (大阪大学大学院工学研究科応用生物工学専攻 助教授) 田丸 浩 (三重大学生物資源学部生物圏生命科学科 助教授) 梶本 修身 (大阪外国語大学 助教授)	藤井 郁雄 (大阪府立大学大学院先端科学研究所 教授) 坂田 恒昭 (神戸大学大学院自然科学研究科 教授)
第2回 2005年6月20日	杉本 留三 (経済産業省産業技術環境局研究開発課 課長補佐) 安達 宏昭 (大阪大学大学院工学研究科 助手)	玉井 克人 (大阪大学大学院医学系研究科 助教授) 高木 昌宏 (北陸先端科学技術大学院大学材料科学研究科 教授)
第3回 2005年11月11日	田畑 泰彦 (京都大学再生医科学研究所生体組織工学研究分野 教授) 杉本 直己 (甲南大学先端生命工学研究所 所長)	
第4回 2006年5月23日	黒田 俊一 (大阪大学産業科学研究所生体触媒科学研究分野 助教授) 家戸敬太郎 (近畿大学水産研究所 助教授)	梶本 哲也 (京都薬科大学薬品製造学教室 助教授) 矢野 浩之 (京都大学生存圏研究所生物機能材料分野 教授)
第5回 2006年10月2日	吉田 和哉 (奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科 助教授) 河田 照雄 (京都大学大学院農学研究科食品生物科学専攻 教授)	山中 伸弥 (京都大学再生医科学研究所再生誘導研究分野 教授) 宇山 浩 (大阪大学大学院工学研究科应用化学専攻 教授)
第6回 2007年7月13日	近藤 昭彦 (神戸大学大学院工学研究科 教授) 南野 直人 (国立循環器病センター研究所薬理部 部長)	橋本 堂史 (神戸大学大学院農学研究科食品・栄養化学 助教) 加藤 功一 (京都大学再生医科学研究所 准教授)
第7回 2008年1月21日	近江谷 克裕 (北海道大学医学研究科 教授) 三宅 正人 (産業技術総合研究所細胞情報工学研究 グループ長)	渡部 邦彦 (京都府立大学農学研究科 教授) 民谷 栄一 (大阪大学大学院工学研究科 教授)
第8回 2008年5月26日	田畑 泰彦 (京都大学大学院再生医科学研究所 教授) 池 道彦 (大阪大学大学院工学研究科 教授)	福崎英一郎 (大阪大学大学院工学研究科 教授) 植田 充美 (京都大学大学院農学研究科 教授)
第9回 2009年2月16日	藤原 伸介 (関西学院大学理工学部生命科学科 教授) 安達 宏昭 (株式会社 創晶 代表取締役社長)	近藤 昭彦 (神戸大学大学院工学研究科 教授) 児玉 崇 (株式会社 トラスト 代表取締役社長)

「関西バイオビジネス研究会」

設立の経緯と趣旨

日本公認会計士協会近畿会、日本弁理士会近畿支部、大阪弁護士会の三つの専門士業が協力し合って関西のバイオ産業を積極的に支援するため、「バイオサポーターズ三会協議会」が2003年10月に発足した。近畿バイオは、バイオの基礎知識・専門用語・専門知識を習得するための勉強会の設定・運営を支援してきた。さらに、具体的なビジネスモデル作成等の事例研究会も支援した。

2004年10月には、三会のバイオビジネスに関する専門知識を有する専門家で構成した「関西バイオビジネス研究会」を発足させ、バイオベンチャー企業の創業支援、経営支援等に役立つ特許戦略、財務戦略、法務戦略等の研修を開始し、その実践の中から設立されたベンチャー企業を支援した。

また、2015年2月には、「バイオサイエンス」を事業にする手引き書『ビジネスプラン策定のポイント』が近畿経済産業局により製作された。

バイオ起業「3土」の援

「援(えん)」は、「たすける」という意味を持ち、その意味通り2004年～2010年までの6年間で3社の立ち上げを後押ししてきた。活動はすべてボランティア。「全国でもここだけ」という珍しい取り組みを行った。



研究会が支援して設立された主な企業

社 名 所在地 設立時期 代表者	マグナビート 株式会社 千葉県 市原市 2005年7月 代表取締役 大 西 徳 幸	事業内容 熱応答性磁性ナノ粒子の販売、市場開発、用途開発、技術サポート及び検査診断システムや診断薬材料の開発・研究。
社 名 所在地 設立時期 代表者	株式会社 BNA 大阪府 茨木市 2008年5月 代表取締役 河 原 三 紀 郎	事業内容 スーパー人工核酸BNAに関する核酸医薬品の開発研究、遺伝子診断技術開発、各種BNAの製造と販売、新規BNAの開発と知的財産化(特許化)等。
社 名 所在地 設立時期 代表者	株式会社 プロテクトィア 大阪府 茨木市 2010年6月 代表取締役社長 内 田 国 克	事業内容 カテキン誘導体を利用した感染症対策部材等の各種製品の研究開発・製造・販売、化合物・技術シーズに関する受託合成・分析・評価。
社 名 所在地 設立時期 代表者	アンチエイジングペプチイド株式会社 大阪府 茨木市 2016年4月 代表取締役 橋 弥 尚 孝	事業内容 化粧品素材の販売、化粧品の販売
社 名 所在地 設立時期 代表者	ユナイテッド・イムニティ株式会社 三重県 津市 2017年11月 代表取締役社長 原 田 直 純	事業内容 がん免疫療法を中心とする医薬品の研究・開発・製造・販売
社 名 所在地 設立時期 代表者	株式会社 ビズジーン 大阪府 茨木市 2018年4月 代表取締役 開 發 邦 宏	事業内容 ウイルスの迅速検出技術、病原体やヒトの遺伝子診断技術、ウイルス濃縮技術に関する研究開発と各種受託研究

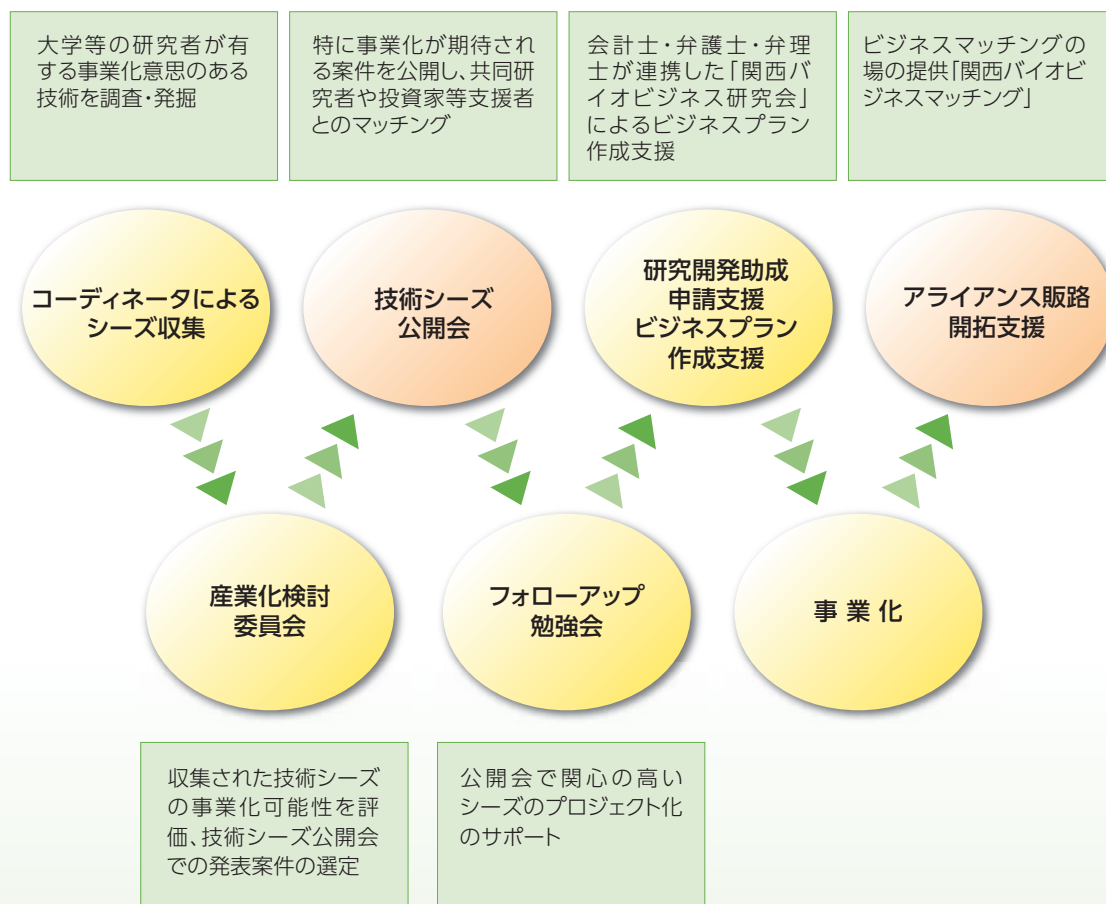
バイオ技術シーズ公開会

設立の経緯と趣旨

1999年に通商産業局よりJBAを介して近畿圏バイオ技術基盤整備事業を受託して、近畿圏のバイオ分野の産業化基盤技術、産業化促進のための課題を調査した結果、基盤技術として1999年当時約300名のバイオ研究者、約600のバイオ技術シーズが存在することが判明した。にもかかわらずそれらが産業化されていない原因としては、①バイオ技術シーズ・ニーズのマッチングのためのコーディネート機能、また、マッチングのための場の欠如、②バイオ研究のためのインキュベーターの欠如、③スタートアップ時の資金の欠如、この3つの課題があると判断した。

そこで、解決策として会員企業OBでバイオ知識豊富な方、大学の名誉教授らに依頼して、収集したバイオ技術シーズの産業化可能性を検討する専属コーディネーターに就任していただき、コーディネーター会議を設けて検討いただいた技術シーズとニーズをマッチングさせるための技術シーズ公開会を開催した。(1999年～2017年)

事業化に向けての一貫したハンズオン支援



この事業を通じて40名もの企業家マインドをもった若いポスドク等のコーディネータを育成するとともに、自らがベンチャー企業を立ち上げたコーディネータも育てることができた。

成果事例 1

NPO近畿バイオが創出・育成をしたベンチャー各社(例)

1999年の第1回の公開会から2017年の終了まで全39回の開催となり、発表件数は424シーズ、その参加者数は延べ3,000名以上となった。このシーズ公開会を通じた研究プロジェクト、バイオベンチャーが数多く生まれた。

■ アンジェスMG 株式会社	■ AntiCancer Japan 株式会社	■ 株式会社 エマオス京都
■ オーストリッチファーマ 株式会社	■ 株式会社 Office高分子医薬	■ 株式会社 カルディオ
■ カルナバイオサイエンス 株式会社	■ 株式会社 京都コンステラ・テクノロジーズ	■ 株式会社 京都モノテック
■ クリングルファーマ 株式会社	■ グリーンゴールドバイオシステム 株式会社	■ 株式会社 グリーンバイオ
■ 株式会社 四国核酸化学	■ 株式会社 ジーンデザイン	■ 株式会社 ジェイテック
■ ジェノメディア 株式会社	■ 株式会社 ジェノラックBL	■ 株式会社 植物ハイテック研究所
■ 株式会社 創晶	■ 株式会社 ソフセラ	■ 日本アドバンストアグリ 株式会社
■ ネオケミア 株式会社	■ 株式会社 バイオエックス	■ Bio-energy 株式会社
■ バイオサイトキャピタル 株式会社	■ 株式会社 バイオセレンタック	■ バイオベース 株式会社
■ 株式会社 バイオマーカーサイエンス	■ バイオリーダースジャパン 株式会社	■ 株式会社 ハイペップ研究所
■ 株式会社 BNA	■ 株式会社 ビーエムティーハイブリッド	■ 株式会社 ビークル
■ 有限会社 ビック・ワールド	■ 株式会社 ファーマフーズ	■ 株式会社 フェアリーエンジェル
■ 株式会社 プロテクトピア	■ マイクロ波化学 株式会社	■ マグナビート 株式会社
■ 株式会社 ミレニアムゲートテクノロジー	■ 株式会社 魁半導体	■ メド・ソリューション 株式会社

成果事例 2 第10回シーズ公開会 (2003年11月14日 開催)

発表者	機関名	所属	役職	テーマ
高 橋 和 利	奈良先端科学技術大学院大学	遺伝子教育研究センター	研究員	ERasとNanogによる幹細胞の多能性と増殖能の改善
山 中 伸 弥 (iPS細胞研究所長・教授) 「ノーベル生理学・医学賞」を受賞 (2012年10月8日)				

成果事例 3

第13回シーズ公開会 (2005年2月18日 開催)

「コンビナトリアル・バイオエンジニアリングによる新規生体機能分子の創出」
藤 井 郁 雄 大阪府立大学大学院 農学生命科学研究科

フォローアップ勉強会 (2005年3月15日 開催)

「コンビバイオを基盤とした低分子医薬リード化合物の開発技術」

内閣総理大臣表彰「第5回 ものづくり日本大賞」
製品・技術開発部門「経済産業大臣賞」(2013年9月13日)

AS OneCell picking システム

100万規模の細胞から1個の細胞を生きたまま回収

「世界初マイクロチップでの単一細胞全自動解析・回収装置の商品化」
我が国の医療分野における、創薬や再生医療研究における貢献に期待
アズワン株式会社



成果事例 4 新社屋へ移転



株式会社 ジェイテック
大阪府茨木市の開発センター



株式会社 ジーンデザイン
大阪府茨木市の本社

成果事例 5



株式会社ファーマフーズ
2006年6月
東京証券取引所
マザーズへ株式上場



京都市西京区の本社

「再生医療技術を活用した動物実験代替法」検討会 (近畿経済産業局主催、近畿バイオ共催)

動物実験の代替手法としてヒトの生体環境を模した複数の人工臓器を連結した複合組織チップの研究開発が急がれており、その早期実現を目的として「再生医療技術を活用した動物実験代替法」検討会を開催した。本検討会は、近畿経済産業局の関西再生医療産業コンソーシアム(KRIC)事業の一環として開催され、近畿バイオも共催として参画しプログラム作成や運営を行った。(2017年度～2019年度)

キックオフ 2017年8月31日	動物実験を代替する細胞組織評価デバイスと国内外の動向 藤 田 聡 史 (産業技術総合研究所 関西センター 細胞マイクロシステム研究グループ 研究グループ長) 細胞組織評価デバイスの産業化に向けた課題と必要となる要素技術 杉 浦 慎 治 (産業技術総合研究所 医薬品アッセイデバイス研究グループ 主任研究員) 細胞組織評価デバイスの創薬応用ニーズと規格化に向けて 石 田 誠 一 (国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 薬理部 第3室 室長)
第1回 2017年10月30日 〔流路等デバイス〕	Organ-on-a-chip技術の開発と骨髄機能の再現に向けた取り組み 鳥 澤 勇 介 (京都大学 白眉センター 工学研究科 マイクロエンジニアリング専攻 特定准教授) マイクロ・ナノ光学による生体外[ヒト]モデル開発 亀井 謙一郎 (京都大学高等研究院 物質－細胞統合システム拠点 特定拠点准教授) ES/iPS細胞を用いた動物実験代替法開発 斎 藤 幸 一 (住友化学株式会社 先端材料開発研究所 上席研究員)
第2回 2017年11月15日 〔細胞〕	細胞組織評価デバイスのための臓器モデル開発の現状と課題 松 崎 典 弥 (大阪大学大学院 工学研究科 応用化学専攻 准教授) 再生医療、創薬で求められる細胞規格に対する考え方 伊 藤 弓 弦 (産業技術総合研究所 生命工学領域創薬基盤研究部門 幹細胞工学研究グループ 研究グループ長) ヒトiPS細胞の創薬利用を加速するLSIメディエンス社の取り組み 井 上 裕 章 (株式会社LSIメディエンス 創薬支援事業本部 先端事業推進部 部長)
第3回 2017年11月28日 〔計測・検出〕	細胞・組織・臓器機能の分子解析デバイスと応用展開 民 谷 栄 一 (大阪大学大学院 工学研究科 精密機械・応用物理学専攻 ナノバイオ領域 教授) 無標識細胞分析:ラマン分光イメージングの活用 藤 田 克 昌 (大阪大学大学院 工学研究科 応用物理学専攻 准教授) 多点平面電極を用いた細胞組織の機能性評価 下 野 健 (パナソニック株式会社 先端研究本部 研究企画部 主幹)
第4回 2018年8月30日 〔人体組織デバイス開発における課題とニーズ〕	新規化合物のヒト体内動態予測の現状と課題 楠 原 洋 之 (東京大学大学院 薬学系研究科 分子薬物動態学教室 教授) 医薬品の研究開発における人体組織デバイスへの期待 ～海外での先行事例を参考に～ 赤 羽 隆 文 (幹細胞評価基盤技術研究組合 技術部 担当部長) 皮膚を標的とした化粧品・医薬品開発における培養モデル皮膚の現状と今後 井上 紳太郎 (岐阜薬科大学 化粧品健康学講座 特任教授)
第5回 2018年10月3日 〔人体組織デバイスの開発におけるレギュレーションの現状と今後〕	細胞加工製品の造腫瘍性の評価法の開発 佐 藤 陽 治 (国立医薬品食品衛生研究所 再生・細胞医療製品部 部長) 細胞特性及びその測定に関する国際標準化の現状 伊 藤 弓 弦 (国立研究開発法人産業技術総合研究所 生命工学領域 創薬基盤研究部門 幹細胞工学研究グループ 研究グループ長) 動物を用いない新たな安全性評価試験法の動向と課題 小 島 肇 (国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 安全性予測評価部 第二室 室長)
第6回 2018年12月14日 〔臓器モデルの現状と今後〕	3次元腎臓オルガノイドの創薬利用への可能性と課題 高 里 実 (理化学研究所 生命機能科学研究センター ヒト器官形成研究チーム チームリーダー) ヒトiPS細胞を用いた小腸モデルの構築とその利用について 松 永 民 秀 (名古屋市立大学大学院 薬学研究科 臨床薬学分野 薬学部 臨床薬学教育研究センター 教授) 中枢創薬においてヒト血液脳関門モデルに期待される役割とその開発状況 降 幡 知 巳 (千葉大学大学院 医学研究院 中核研究部門 呼吸・循環治療学研究講座 助教)
第7回 2019年8月6日 〔マイクロ流路及び周辺技術〕	モデレーター 亀井 謙一郎 (京都大学高等研究院 物質－細胞統合システム拠点 准教授) 自律神経系の再構築に向けた神経誘導・培養技術の開発 高 山 祐 三 (産業技術総合研究所 生命工学領域 創薬基盤研究部門 主任研究員) 細胞塊を用いた創薬実験プラットフォームの開発 池 内 真 志 (東京大学大学院 情報理工学系研究科 システム情報学専攻 生体医用マイクロシステム講座 講師)
第8回 2019年10月18日 〔細胞培養及び周辺技術〕	モデレーター / オルガノイド培養技術の動向 高 里 実 (理化学研究所 生命機能科学研究センター ヒト器官形成研究チーム チームリーダー) 皮膚器官形成における細胞外環境の役割 藤 原 裕 展 (理化学研究所 開拓研究本部 軟原生体模倣システム理研白眉研究チーム チームリーダー) モジュール型臓器チップによる動物実験代替法の構築 萩 原 将 也 (理化学研究所 開拓研究本部 軟原生体模倣システム理研白眉研究チーム チームリーダー)
第9回 2019年12月16日 〔センシング及び周辺技術〕	モデレーター 藤 田 聡 史 (産業技術総合研究所 先端フォトニクスバイオセンシングOIL 副ラボ長) 誘導ラマン散乱顕微法による振動分光イメージングとその応用 小 関 泰 之 (東京大学大学院 工学系研究科 電気系工学専攻 准教授) 光で読み解く生命活動－分子から個体まで 谷 知 己 (産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 主任研究員)

関西スマートセルフォーラム（近畿経済産業局との共同主催）

生物が持つ物質生産能力を人工的に最大限引き出した細胞“スマートセル”を利用したもののづくりは製造プロセスの抜本改革につながる可能性がある。スマートセルインダストリーの実現に向けた中小・ベンチャー企業に対する知財戦略支援事業を推進している近畿経済産業局との共催で、関西スマートセルフォーラムを開催した。(2018年度～2020年度)

2018年9月25日 【総論】 バイオエコノミーの実現に向けた国際動向と我が国の取組 バイオエコノミーを加速するスマートセルインダストリー～技術開発・産業の動向～ スマートセルインダストリー実現のための技術開発 (NEDOスマートセルプロジェクト)			上 村 昌 博 (経済産業省 商務情報政策局 商務・サービスグループ 生物化学産業課長) 近 藤 昭 彦 (神戸大学 大学院科学技術イノベーション研究科 教授) 林 智 佳 子 (国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) 材料・ナノテクノロジー部 主査 プロジェクトマネージャー)
遺伝子組換え生物に係る法規制の動向について 関西スマートセルフォーラム2018のねらい			松 尾 康 範 (独立行政法人製品評価技術基盤機構 (NITE) バイオテクノロジーセンター 安全審査室 室長) 足 立 光 晴 (近畿経済産業局 地域経済部 バイオ・医療機器技術振興課 課長)
2018年11月9日 【スマートセルをめぐる最新技術動向】 植物・作物におけるゲノム編集の現状と展望 ～ジャガイモ研究を例にして 鶏卵バイオリアクター ～[金の卵]による組換え蛋白質生産技術～ 植物の特異的スマートセルとその制御戦略 スマートセル技術の応用事例 ～植物組織培養による活性型ビタミンD3高効率生産の研究～			村 中 俊 哉 (大阪大学 大学院工学研究科 生命先端工学専攻 教授) 大 石 勲 (産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 先端ゲノムデザイン研究グループ 研究グループ長) 矢 崎 一 史 (京都大学 生存圏研究所 森林園遺伝子統御分野 教授) 水 谷 敦 司 (株式会社竹中工務店 技術研究所 研究コーディネーター部 連携推進グループ長)
【知財戦略】 ゲノム編集技術における知財戦略			秋 元 浩 (知的財産戦略ネットワーク株式会社 代表取締役社長)
【ベンチャー企業の技術シーズ紹介】 動物細胞版スマートセルの開発 ～新規細胞樹立・人工染色体ベクターによる物質生産の可能性～			福 岡 道 公 (株式会社chromocenter 専務取締役) 源 治 尚 久 (研究開発部 部長)
2019年1月30日 【スマートセルをめぐる最新技術動向】 スマートセル創製を加速するAI基盤技術 スマートセル創出プラットフォームの構築と実現に向けて			武 田 志 津 (株式会社日立製作所 研究開発グループ 技師長 兼 基礎研究センタ 日立神戸ラボ長) 蓮 沼 誠 久 (神戸大学先端バイオ工学研究センター センター長 神戸大学 大学院科学技術イノベーション研究科 教授)
酵素変換・微生物変換プロセス開発の現状と展望 デジタル・バイオエコノミーの実現に向けて (バイオプラスチックをはじめとして)			小 川 順 (京都大学 大学院農学研究科 応用生命科学専攻 教授) 水 無 渉 (三菱ケミカル株式会社 横浜研究所 バイオ技術研究室長)
【知財戦略】 スマートセルインダストリーにおいて利用される情報と特許			川 上 桂 子 (特許事務所イノベンティア 代表)
【ベンチャー企業の技術シーズ紹介】 PPRタンパク質を利用した細胞内核酸操作技術			八 木 祐 介 (エディットフォース株式会社 研究開発部門 部長)
2019年10月8日 【イントロダクション】 国内におけるスマートセルの概要			近 藤 昭 彦 (神戸大学 大学院科学技術イノベーション研究科長)
【ベンチャー企業の技術シーズ紹介】 新規ゲノム編集ツール:CRISPR-Cas3 ゲノム編集の社会実装を加速する			真 下 知 士 (C4U株式会社 科学技術顧問) 奥 原 啓 輔 (ブラチナバイオ株式会社 代表取締役CEO)
【アカデミアのスマートセル関連最新技術動向】 細胞内で可逆的に形成する代謝酵素集合体“G-body”調節機構の解明と利用に向けて			三 浦 夏 子 (大阪府立大学 大学院生命環境科学研究所 応用生命科学専攻 発酵制御化学研究室 助教)
【スマートセルインダストリーと知的財産】 スマートセルインダストリー関連技術の特許出願動向について			千 葉 直 紀 (特許庁 審査第三部 生命工学 審査官)
2019年12月11日 【イントロダクション】 バイオ戦略とスマートセルインダストリー政策の動向			佐々木 章 (経済産業省 生物化学産業課 課長補佐)
【アカデミアのスマートセル関連最新技術動向】 リン酸基修飾酵母を活用した低環境負荷型有価金属回収システムの創出			東 雅 之 (公立大学法人大阪市立大学 大学院工学研究科 化学生物系専攻 細胞工学研究室 教授)
【企業のスマートセル技術紹介】 微生物が生産するカネカ生分解性ポリマー-PHBHの実用化に向けて			藤 木 哲 也 (株式会社カネカ R&B本部R&Bテーマ推進室 幹部職)
【スマートセルインダストリーと知的財産】 スマートセルでも負けてしまわないための知財戦略 ～研究開発・企画ステージにおける知財戦略・ポートフォリオの策定の重要性を考える			豹 谷 剛 志 (山本特許法律事務所 博士(薬学)／学士(法学)／弁理士)
【管内のスマートセル技術紹介】 スマートセルによる有用化学品の発酵生産の事業化を目指して 微生物を用いたウメ調味廃液からの油脂生産技術			清 水 雅 士 (マイクロバイオファクトリー株式会社 代表取締役社長) 中 村 允 (和歌山県工業技術センター 食品開発部 主査研究員)
2021年3月10日 【イントロダクション】 「スマートセルインダストリー」の実現に向けて			近 藤 昭 彦 (神戸大学 大学院科学技術イノベーション研究科長 兼 一般社団法人先端バイオ工学推進機構 (OEB) 代表理事)
関西のスマートセル技術特許調査の報告(傾向と分析)			辻 雄 介 (株式会社ダン計画研究所 研究員)
【シーズ発表】 スマートセル創出に向けた生命現象の理解と新規バイオツールの開発 微生物の中核代謝経路フラックスを制御するための技術			黒 田 浩 一 (京都大学大学院 農学研究科 准教授) 戸 谷 吉 博 (大阪大学大学院 情報科学研究科 バイオ情報工学専攻 准教授)
【事例紹介】 モノづくりの可能性を広げるスマートセル利用 麹菌・遺伝子組換えカイコ・無細胞系でのタンパク質合成サービス スマートセル技術を用いた Unavailable Made Available の実現 バイオXデジタル時代の微生物利用促進プラットフォーム NEDO スマートセルプロジェクトの成果普及と新たなプロジェクト展開について			庄 司 信 一 郎 (株式会社シニアート 代表取締役) 山 田 浩 之 (大関株式会社 大関総合研究所 総合研究所事業開発G) 劉 曉 麗 (長瀬産業株式会社 ナガセR&Dセンター センター長) 久 保 寛 之 (独立行政法人製品評価技術基盤機構 バイオテクノロジーセンター 参事官) 林 智 佳 子 (国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) 材料・ナノテク ノロジー部 バイオエコノミー推進室 プロジェクトマネージャー／主査)

先進的な中堅・中小企業、ベンチャー企業の可能性を広げる、いろいろな取り組み

日本バイオベンチャー大賞

独創的なバイオ関連技術・製品・サービスを事業化し、起業家、また事業家として経営に邁進する先進的な中堅・中小企業、ベンチャー企業(大学発ベンチャー、企業内ベンチャー含む)を対象に、フジサンケイビジネスアイが主催する日本バイオベンチャー大賞の後援を行い、2002年から2009年まで近畿バイオインダストリー振興会議賞としてベンチャー企業の表彰を行った。

日本バイオベンチャー大賞

第1回	2002年	3月	6日	アンジェスMG 株式会社
第2回	2003年	2月	5日	株式会社 総合医科学研究所
第3回	2004年	2月	3日	該当企業なし
第4回	2005年	10月	19日	株式会社 ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング
第5回	2007年	10月	18日	株式会社 ホソカワ粉体技術研究所
第6回	2009年	10月	21日	クリングルファーマ 株式会社
第7回	2012年	2月	29日	プレシジョン・システム・サイエンス 株式会社
第8回	2013年	2月	7日	ペプチドリーム 株式会社
第9回	2015年	2月	27日	ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ 株式会社
第10回	2017年	3月	2日	サンバイオ株式会社

近畿バイオインダストリー振興会議賞

第1回	2002年	3月	6日	株式会社 ファーマフーズ
第2回	2003年	2月	5日	株式会社 サンルイ・インターナショナル
第3回	2004年	2月	3日	ネオケミア 株式会社
第4回	2005年	10月	19日	株式会社 フェニックスバイオ
第5回	2007年	10月	18日	アルブラスト 株式会社
第6回	2009年	10月	21日	バイオ21 株式会社
第10回	2017年	3月	2日	エコサイクル株式会社

※第7回、第8回、第9回は近畿バイオインダストリー振興会議賞の設定なし



全国バイオネットワーク形成事業(JBA受託)

研究者の有する技術シーズ(基礎研究シーズ、産業化に結びつきやすいシーズ、市場性に課題を残す技術シーズ等)を評価して、それぞれの段階にあった指導・助言を行い、事業化・製品化に向けたより優れた技術シーズを育成・見い出すため、バイオ分野に造詣の深い専門知識をもった方々にその研究開発の促進や事業化の可能性について審議していただくネットワーク形成推進委員会を設立して事業化を推進した。

第1回 委員会 2003年6月11日発足～2008年度まで開催

委員長 小林 昭 雄 (大阪大学大学院工学研究科 教授)

委員 清水 當 尚 (近畿バイオインダストリー振興会議 理事長)
 荒 井 基 夫 (大阪府立大学大学院農学生命科学研究科 教授)
 宮 本 和 久 (大阪大学大学院薬学研究科 教授)
 細 川 信 義 (エンゼル証券株式会社 代表取締役)
 大 井 満 彦 (三井物産戦略研究所バイオ センター長)
 橋 本 久 芳 (財団法人大阪産業振興機構新産業支援部アドバイザー)
 荒 河 敏 (元大日本製薬株式会社 研究所部長)
 田 村 格 (大阪科学技術センター技術・情報振興部 部長)
 八 島 毅 祐 (近畿経済産業局バイオインダストリー振興 室長)
 井 上 了 (近畿バイオインダストリー振興会議 事務局長)
 遠 山 伸 次 (近畿バイオインダストリー振興会議 専務理事)

オブザーバー 大 平 昌 幸 (近畿経済産業局)
 小 谷 純 二 (近畿経済産業局)

海外との交流

Local to Local 産業交流事業

日本貿易振興会 (JETRO) の支援事業として2001年にローカル・トゥ・ローカル産業交流事業 (LL事業) を受託した。地域経済の活性化を目的として、日本の地方企業と外国の企業との国際ビジネス交流を支援して、双方の企業にメリットのある物、技術、経営ノウハウや資本の交流への発展を目指し、近畿地域と英国スコットランド地域の医療・医療福祉機器分野企業のビジネス交流を2003年まで計5回実施した。



オランダフードバレーとの連携

2009年にMOUを締結し、オランダフードバレー訪問や会員企業へのフードバレーの紹介などを行った。

Core of the Dutch Food Valley is the interaction between research and business with the aim to enhance the innovation strength of the agrifood sector. Wageningen University and Research Centre, NIZO Food Research, TNO Quality of life, Rikilt Food Safety Institute and Plant Research International play a key role.



カナダ・サスカチュワン州との連携

2010年にMOUを締結し、サスカチュワン、大阪双方でシンポジウム、企業や研究機関の訪問などを行った。

Ag-West Bio was established in 1989 and is supported through funding by the Ministry of Agriculture, Province of Saskatchewan and strives to be a catalyst for building a strong agricultural biotechnology cluster in Saskatchewan.

サスカチュワン州とのマッチング

2014年4月23日 大阪科学技術センター

【カナダ側機関】 Ag-West Bio, National Research Council Canada-NRC, Prairie Tide Chemicals, Star Produce Ltd., Biologinal Food & Science Corp., Prairie Berries
【日本側機関】 不二製油(株)、ロート製薬(株)、奈良先端科学技術大学院大学

2015年11月10日 大阪科学技術センター

【カナダ側機関】 Ag-West Bio, カナダ領事
【日本側機関】 サントリーグローバルイノベーションセンター(株)、(株)カネカ、ヤンマー(株)、第一工業製薬(株)

2016年12月13日 大阪科学技術センター

【カナダ側機関】 Bioenterprise Corporation
【日本側機関】 (株)カネカノ近畿バイオノ長瀬産業(株)ノ江崎グリコ(株)ノサントリーグローバルイノベーションセンター(株)

2017年5月26日 企業訪問

【カナダ側機関】 PlantForm, Vive Crop
【日本側機関】 (株)カネカ、不二製油(株)

2018年3月12日 企業訪問

【カナダ側機関】 Ag-west Bio
【日本側機関】 日本戦略投資(株)、(株)カネカ



日韓バイオマス研究会

- 第1回 2007年12月 7日 ソウル
- 第2回 2008年12月20日 神戸 (神戸大)
- 第3回 2009年11月 6日 ソウル
- 第4回 2010年11月 5日 京都 (月桂冠)
- 第5回 2011年 6月23日 慶州 (KMB)
- 第6回 2012年10月25日 神戸 (生物工学会)
- 第7回 2013年 7月 4日 ピョンチャン (KMB)
- 第8回 2014年 9月10日 札幌 (生物工学会)
- 第9回 2015年 6月25日 プサン (KMB)
- 第10回 2016年 9月29日 富山 (生物工学会)

KMB: The Korean Society for Microbiology and Biotechnology

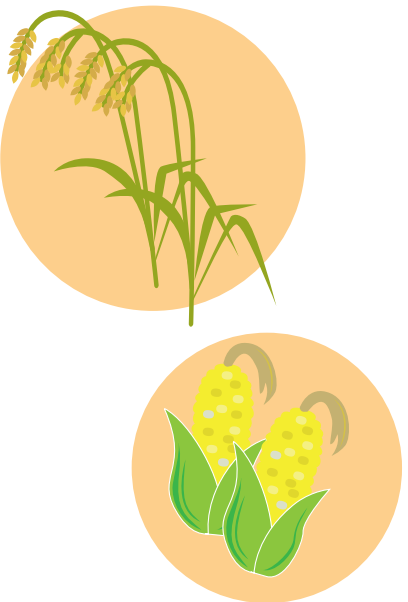


近畿バイオ・バイオマス研究会

2007年～2018年

開催趣旨

地球環境の持続・人口増加・脱石油・成熟社会での新価値の創造などに対応するため、バイオマス資源や微生物・動物・植物を有効に活用して、エネルギー・燃料・化成品・マテリアル・高付加価値食品などを生産する上流から下流まで一貫した実用化技術・商品開発の情報提供や支援、国の施策の情報提供なども行った。幹事の先生方と密接に連携し、国プロの取得や、会員企業の事業計画の企画立案に役立つ活動を行った。企業会員と幹事の先生方との密接な連携を図った。



2018年9月時点

会 長	近 藤 昭 彦（神戸大学 大学院工学研究科 教授）
副 会 長	田 丸 浩（三重大学 大学院生物資源学研究科 教授）
幹 事	宇 山 浩（大阪大学 大学院工学研究科 応用化学専攻 教授） 明 石 欣 也（鳥取大学 農学部 准教授） 片 倉 啓 雄（関西大学 化学生命工学部 生命・生物工学科 教授） 福崎英一郎（大阪大学 大学院工学研究科 生命先端工学専攻 教授） 片 岡 道 彦（大阪府立大学 大学院生命環境科学研究科 教授） 赤 松 史 光（大阪大学 大学院工学研究科 機械工学専攻 教授）
顧 問	新 名 惇 彦（奈良先端科学技術大学院大学 名誉教授） 植 田 充 美（京都大学 大学院農学研究科 応用生命科学専攻 教授） 成 文 喜（大韓民国 国民大学校 自然科学大学 生命ナノ化学科 教授）
事 務 局	NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議

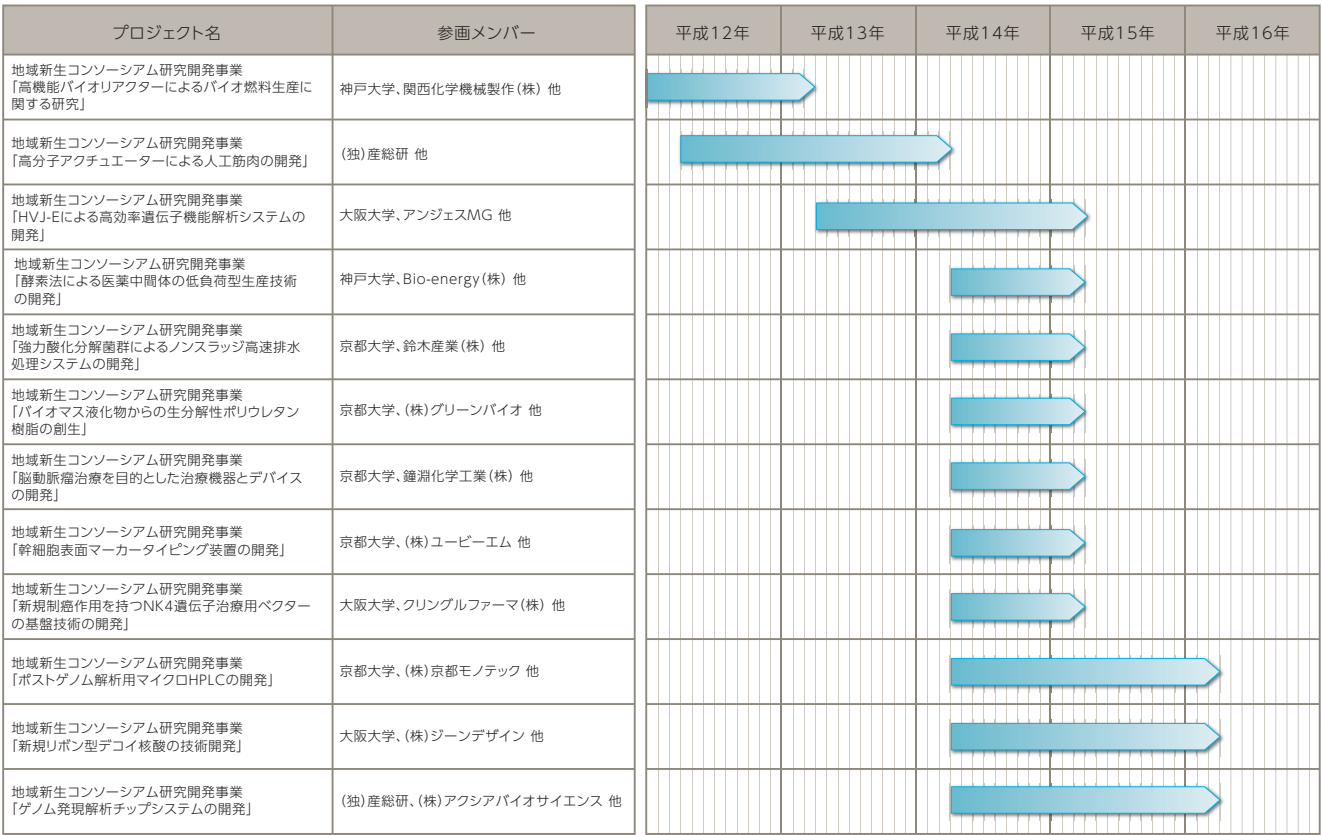
講 演 テ ー マ			講 演 者（敬称略）	
2010年	2月15日	酵素電池、微生物電池の開発動向	(株)住化技術情報センター	鍋島成泰
		木質バイオマスの微粉碎によるバイオエタノール製造技術	(独)産総研 中国バイオマス研究センター	遠藤貴士
		バイオプラスチック「ポリ乳酸」の最新動向と将来展望	京都工芸繊維大学 繊維科学センター 特任教授	望月政嗣
5月10日		木質バイオマスの水熱反応によるバイオリファイナリーの構築	京都大学大学院 エネルギー科学研究科 教授	坂 志朗
		アセトン・ブタノール発酵の温故知新	佐賀大学 農学部 生命機能科学課 准教授	小林元太
		カネカ生分解性バイオポリマー	(株)カネカ 研究開発本部 イノベーション企画部	藤木哲也
6月9日		担子菌を用いたバイオマス利用の実用化に向けて	信州大学 工学部 物質工学科 教授	天野良彦
		超音波二酸化チタン法とイオン液体を組み合わせた前処理	金澤大学 環日本海域環境研究センター 助教	仁宮一章
	8月28日	水のサステナビリティと低炭素企業を目指して	サントリーホールディングス(株) エコ戦略部部長	高屋雅光
公開		持続可能なバイオ燃料	(社)日本エネルギー学会副会長	横山伸也
		藻類ボトリオコッカス ～未来の石油代替資源～	筑波大学大学院 生命環境科学研究科 教授	渡邊信
	11月29日	温室効果ガス排出量を対象としたバイオ燃料プロセスのLCA	(独)産総研 安全科学研究部門	玄地 裕
2011年	2月14日	ポリ乳酸及びL-乳酸の製造技術について	武蔵野化学研究所	谷口正明
		トータルソリューションとしてのバイオマス利活用	九州工業大学 教授	白井義人
		海藻利用と未来社会 ～海藻バイオ燃料構想を含めて～	能登谷応用藻類学研究所	能登谷正浩
5月13日		微生物オイル生産の可能性	(独)産総研 生物プロセス研究部門	横地俊弘
		生命の根源物質5-アミノレブリン酸	SBIアラブプロモ株式会社 取締役 CTO	田中 徹
		資源作物栽培によるバイオマス原料の安定供給とその利用	九州沖縄農業研究センター	我有 満
7月15日		株式会社ファーストバイオスの木質バイオマス発電事業	(株)ファーストバイオス	日下田伸
		大震災によってパラダイムシフトしたバイオマス利用位置づけ	東京大学 農学部 教授	鮫島正浩
		樹脂触媒を用いた高品質バイオディーゼル燃料製造技術	名古屋大学大学院 工学研究科 准教授	佐藤浩太郎
8月31日		水素化分解反応によるバイオマス由来ジオールの合成	東北大学大学院 工学研究科 教授	富重圭一
	公開	バイオマスプラスチックの広がり と課題	ユニチカ(株) 中央研究所 研究開発グループ	上田一恵
2012年	2月24日	バイオディーゼル副産物を原料としたバイオプラスチック製造	日立造船(株) エンジニアリング本部	岸田央範
		ブレークスルーを目指す、サラヤとバイオの取り組み	サラヤ(株) 代表取締役社長	更家悠介
		ペーパースラッジをバイオエタノールの生産原料に	静岡大学創造科学技術大学院 教授	朴 龍 洙
5月11日		清酒酵母の遺伝的特性とエタノール発酵への利用	(独)酒類総合研究所 研究企画知財部門	下飯 仁
		フラボノイドの代謝工学による青い花の開発と実用化	サントリーホールディングス(株) 植物科学研所長	田中良和
		植物工場ユニット agri-cube	大和ハウス工業株式会社 総合研究所 副所長	吉村 守
7月20日		木質バイオマスシンポジウム	(共催)五條市、生産技術振興協会アライアンス委員会（後援）奈良県	
		木質バイオマスのエネルギー源としての重要性	奈良先端科学技術大学院大学 副学長	新名惇彦
		木質バイオマスガス化発電	大阪大学大学院 教授	赤松史光
9月7日		次世代バイオ固形燃料:バイオコークスの開発と展望	近畿大学 教授	井田民男
		間伐材の有効利用に向けて	NPOエコデザインネットワーク	大和泰隆
		石炭焚火力発電所における木質ペレット混焼	関西電力(株)	山本哲生
9月7日		住宅業界から見た国産材	大和ハウス工業(株) 総合研究所 副所長	吉村 守
		森の流れに乗る ～新しい持続的社會へ向けて～	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授	船岡正光
	公開	草本系バイオマスからのエタノールー貫生産技術開発	バイオエタノール革新技術研究組合	三橋秀一
11月29日		エタノール生産の今昔と関西化学機械製作の貢献	関西化学機械製作(株) 代表取締役社長	野田秀夫
		バイオマスからの高付加価値物質の検索とその応用	関西大学 化学生命工学部 准教授	河原秀久
		嫌気性微生物を活用したバイオマスからの有用物資生産	広島大学大学院 先端物質科学研究科 准教授	中島田豊
合成代謝経路によるC3,C4バイオアルコールの生産			九州大学大学院 農学研究院 准教授	花井泰三

講 演 テ ー マ			講 演 者（敬称略）	
2013年	3月21日	バイオマスプラスチックの現状と将来展望	大阪大学大学院 工学研究科 教授 宇山 浩	
		固体並行複発酵による廃棄物からエタノール生産とコスト分析	関西大学 化学生命工学部 教授 片倉啓雄	
		CBP発酵を中心とした統合プロセス開発	神戸大学大学院 工学研究科 教授 近藤昭彦	
5月20日		嫌気性細菌によるバイオリファイナリー研究開発	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 田丸 浩	
		持続的社会と健やかな生活のための微生物機能開発	京都大学大学院 農学研究科 教授 小川 順	
		バイオ医薬品生産における動物細胞工学の現状	徳島大学 ソシオテクノサイエンス研究部 教授 大政健史	
7月31日		ナノで考えるスマートバイオデザイン	東北大学大学院 工学研究科 准教授 梅津光央	
		ガス化を利用したバイオマスからの燃料/ケミカルズ製造	(独)産総研 エネルギー技術研究部門 小木知子	
		ナノセルロースにおける最近の進展	京大大学生存圏研究所 生物機能材料分野 教授 矢野浩之	
9月4日		夢の繊維素材”ワモ糸”実用化への挑戦	スパイパー株式会社 代表取締役社長 関山和秀	
		公開 バイオマスからの新規プラスチック生産戦略	理化学研究所 環境資源科学研究センター 沼田圭司	
		麹菌酵素を活用したバイオマスからのバイオエタノール生産	月桂冠株式会社 総合研究所 堤 浩子	
		バイオベース化学品の生産: バイオプロセスで化学品をつくる	京都学園大学 バイオ環境学部 教授 清水 昌	
11月21日		バイオマス資源:セルロース複合材料としての展開	神戸大学大学院 工学研究科 教授 西野 孝	
		耐久製品用のバイオプラスチックの開発	日本電気株式会社 スマートエネルギー研究所 位地正年	
		大阪大学産学連携制度による植物由来バイオポリマーの開発	大阪大学大学院 工学研究科 特任教授 中澤慶久	
2014年	3月26日	油糧植物ジャトロファ:育種、生産、利用に関する海外動向	鳥取大学 農学部 生物資源環境学科 准教授 明石欣也	
		木質バイオマスをを用いたエネルギービジネスの経済性分析	大阪大学 環境イノベーションセンター 特任助教 木下裕介	
		大都市圏におけるバイオマスエネルギー利活用に関する考察	大阪大学大学院 工学研究科 助教 中塚記章	
6月13日		新規な実バイオマス前処理とその評価系構築	神戸大学大学院工学研究科 荻野千秋	
		東南アジアバイオマス資源からの糖質生産技術開発と産業化への取組	(独)国際農林水産業研究センター 小杉昭彦	
		アーバンアグリとバイオマス都市圏での展開とその支援システム構築	(一社)テラプロジェクト 小林昭雄	
10月1日		アフリカの農業・バイオマス生産に如何に貢献するか	近畿バイオイングストリー振興会議 理事長 新名惇彦	
		公開 アフリカアグリファンドの意義と展望	つくばテクノロジーシード株式会社 代表取締役 佐々木美樹	
		北アフリカ食薬資源の機能解析と有効利用	筑波大学 生命環境系 北アフリカ研究センター長 教授 磯田博子	
		カラハリ砂漠食物資源とヤトロファ・バイオマス開発	鳥取大学 農学部 准教授 明石欣也	
11月28日		新規人工生成成経路構築によるバイオプロパノールの発酵生産	大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 応用生命科学専攻 教授 片岡道彦	
		微細藻類の代謝系解析に基づく次世代バイオ燃料生産への挑戦	神戸大学 自然科学系先端融合研究環 重点研究部 准教授 蓮沼誠久	
		イオン液体を用いたバイオリファイナリー	金沢大学 理工研究域 自然システム学系 教授 高橋憲司	
2015年	2月3日	持続可能・低炭素社会実現に向けた珪藻利用システム(ダイアトム・ファクトリー)	兵庫県立大学大学院 生命理学研究科 准教授 菓子野康浩	
		バイオマス生産拡大を目指した不良土壌耐性植物の作出	石川県立大学 生物資源工学研究所 教授 西澤直子	
		ゼロから創製する新しい木質の開発	産業技術総合研究所 生物プロセス研究部門 主任研究員 光田展隆	
3月24日		食の循環の健全化に向けた酵母の機能開拓	龍谷大学 法学部及び農学研究科 教授 島 純	
		非可食バイオマスからのバイオ燃料・グリーン化学品生産	(公財)地球環境産業技術研究機構バイオ研究グループ 主任研究員 乾 将行	
		微生物による物質生産のための代謝デザインと細胞評価	大阪大学 大学院情報科学研究科 教授 清水 浩	
6月19日		バイオマス増産に向けた持続的な植物病害防除技術の開発	岡山大学 大学院環境生命科学研究科(農学系) 准教授 能年義輝	
		バイオマス資源を利用した高性能・高機能ポリマー素材の分子設計	理化学研究所 環境資源科学研究センター バイオマス工学連携部門 バイオプラスチック研究チーム チームリーダー 阿部英喜	
		耐熱化酢酸菌の耐熱化機構とその高温発酵への利用	山口大学 農学部 教授(特命)中高温微生物研究センター長 松下一信	
9月11日		未利用農業系廃棄物を原料としたバイオリファイナリー技術の事業化とその課題	エコバイオフル株式会社 代表取締役 吉井淳治	
		公開 航空業界におけるバイオ航空燃料利用に向けた動き	全日本空輸株式会社 総務・CSR推進部 CSR推進チーム 久野正雄	
		バイオベースポリマーの高性能化を目指して	東京大学 大学院農学生命科学研究科 教授 岩田忠久	
10月30日		光合成微細藻類ラン藻を用いた代謝制御機構の解析とプラスチック原料の生産	明治大学 農学部 農芸化学科 専任講師 小山内崇	
		C1微生物で拓くメタノールエコノミー	京都大学 大学院農学研究科 応用生命科学専攻 准教授 由里本博也	
		セルロースナノファイバーの増粘剤への応用	第一工業製薬株式会社 事業本部 機能化学品事業部 機能化学品研究所 合成研究第一グループ 課長 神野和人	

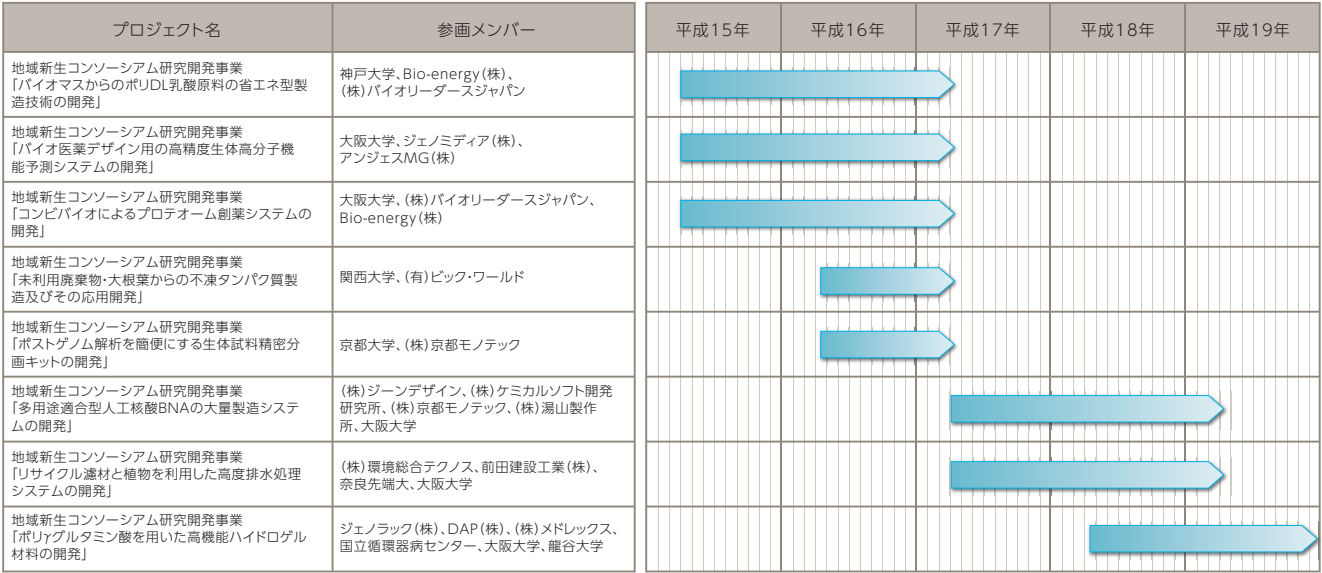
講 演 テ ー マ			講 演 者（敬称略）	
11月25日		グリコの糖質酵素の開発とバイオ素材	江崎グリコ株式会社 健康科学研究所 素材グループ マネージャー 大段光司	
		植物資源からのバイオポリエステル発酵生産	東京工業大学 大学院総合理工学研究科 物質科学創造専攻 准教授 柘植丈治	
		ゲノム新時代の重イオンビーム育種技術開発	理化学研究所 仁科加速器研究センター 応用研究開発室 室長 阿部知子	
2016年	2月24日	セルロースナノファイバーの調製と新規材料への展開	東京大学 大学院農学生命科学研究科 生物材料科学専攻 准教授 齋藤継之	
		ここまで来た、ナノセルロース電子デバイス	大阪大学産業科学研究所 セルロースナノファイバー材料研究分野 准教授 能木雅也	
		酵母を宿主とした生分解性プラスチックの生産	株式会社カネカ R&D企画部 企画グループ 大阪大学 大学院工学研究科 カネカ基盤技術協働研究所 特任研究員 松本圭司	
6月22日		電子の流れから探る生命進化と多様性	理化学研究所 環境資源科学研究センター 生体機能触媒研究チーム チームリーダー 中村龍平	
		バイオポリエステル生産菌の代謝工学	東京工業大学 生命理工学院 教授 福居俊昭	
		バイオマスからの多様な化学品、燃料生産:現状と今後の展開	神戸大学 大学院 科学技術イノベーション研究科 教授 研究科長 近藤昭彦	
8月30日		バクテリアナノファイバー AtaAによるバイオプロセスの革新	名古屋大学 大学院工学研究科 化学・生物工学専攻 教授 堀 克敏	
		微生物制御の新たな展開 ～個から集団まで～	筑波大学 生命環境系 教授 野村暢彦	
		インドネシアにおけるバイオリファイナリーの展望	神戸大学 大学院工学研究科 応用化学専攻 准教授 荻野千秋	
11月11日		国産リグニン資源を利用した新産業創出のとりくみ ～SIPリグニンの研究開発～	森林総合研究所 木材化学研究室長 兼 筑波大学 生命環境系 教授 山田竜彦	
		公開 樹木細胞壁を工業規格へ ～ナノセルロース/リグノフェノール複合系の設計と誘導～	三重大学 社会連携研究センター 特任教授 船岡正光	
		セルロースのナノファイバー化とナノ複合材料	神戸大学 大学院工学研究科 応用化学専攻 教授 西野 孝	
2017年	2月10日	様々なバイオマスからの水素、メタン発酵プロセスの開発	広島大学 大学院先端物質化学研究科 分子生命機能科学専攻 教授 中島田豊	
		セルロースナノファイバー・ポリマーのナノコンポジットの成形加工～微細発泡成形と表面加飾～	京都大学 大学院工学研究科 化学工学専攻 教授 大嶋正裕	
		3月22日 バイオと触媒で作る基幹化成品	株式会社ダイセル 研究開発本部 研究推進グループリーダー 新井 隆	
		原形質流動速度の人工制御による植物バイオマス増産技術の開発	早稲田大学 先端生命医科学センター 教育・総合科学学術院 専任講師 富永基樹	
		ナノセルロースの構造が決め手の触媒機能創発	九州大学 大学院農学研究院 教授 北岡卓也	
6月30日		非天然型ポリエステルの微生物合成・合成機構からポリマー物質まで	北海道大学 大学院工学研究科 応用化学部門 生物工学分野 准教授 松本謙一郎	
		高温・酸性耐性紅藻シジンの遺伝的改変法の開発とその産業利用に向けた試み	国立遺伝学研究所 細胞遺伝研究系 共生細胞進化研究部門 教授 宮城島進也	
		セルロースナノファイバーの製造と材料利用技術 ～基礎・応用・課題～	国立研究開発法人産業技術総合研究所 中国センター 機能化学研究部門 セルロース材料グループ 部長 遠藤賢士	
8月25日		自己組織化細胞膜微膜を用いた細胞信号伝達研究	北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 マテリアルサイエンス系 教授 高木昌宏	
		バイオマスへ挑むドンキホーテとなって	京都大学 大学院農学研究科 応用生命科学専攻 京都バイオ計測センター 教授 植田充美	
		10月6日 木の国ニッポンの資源 セルロースナノファイバー	京大大学生存圏研究所 生物機能材料分野 教授 矢野浩之	
公開		植物油脂を用いる屋根用塗料の開発と事業化	水谷ペイント株式会社 専務取締役 技術部統括部長 水谷 勉	
		カニ殻由来の新素材キチンナノファイバーの実用化に向けた取り組み	鳥取大学 工学研究科 化学・生物応用工学専攻 准教授 伊福伸介	
		セルロース系バイオプラスチックの開発、高機能性、特に、漆器調(漆ブラック)の高装飾性の実現	日本電気株式会社 IoTデバイス研究所 主席研究員 位地正年	
		環境対応ポリウレタンの開発	三井化学株式会社 研究開発本部 合成化学品研究部 リサーチフェロー 山崎 聡	
12月15日		三重県における木質発電の現状と小規模・分散型の木質バイオマス地域循環システムの重要性	三重大学 大学院生物資源学研究科 共生環境学専攻 教授 坂本竜彦	
		植物科学とデータ科学を融合したバイオマス増産研究	理化学研究所 環境資源科学研究センター セルロース生産研究チーム チームリーダー 持田恵一	
		ゲノム編集トマトの開発と社会実装に向けて	筑波大学 生命環境系 教授 つくば機能植物イノベーション研究センター センター長 江面 浩	
2018年	3月7日	耐熱性酵素を用いたin vitro人工代謝系の構築 ～応用に向けた取り組みと課題～	大阪大学 大学院工学研究科 生命先端工学専攻 准教授 本田孝祐	
		光合成機能の改良と応用研究	神戸大学 大学院人間発達環境学研究科 人間環境学専攻 准教授 蘆田弘樹	
		気孔開度制御による植物の生育促進と乾燥耐性付与	名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所 教授 木下俊則	
9月22日		バイオリファイナリー研究の経緯を振り返って	前 神戸大学 学長 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 機構長 福田秀樹	
		総括 地球温暖化防止の切り札、植物バイオテクノロジー	奈良先端科学技術大学院大学 名誉教授・特任教授 前 NPO法人近畿バイオイングストリー振興会議 理事長 新名惇彦	
		東南アジアとの連携によるバイオリファイナリーの実現に向けて	神戸大学 大学院工学研究科 教授 荻野千秋	
		種々バイオマスの有効活用および実用化の取り組み	関西化学機械製作株式会社 Bio-energy株式会社 代表取締役社長 野田秀夫	
		地域活性のあり方と新エネルギーを考える	三重大学 大学院生物資源学研究科 教授 田丸 浩	
		バイオマス有効活用を加速するスマートセルインダストリーの実現	神戸大学 大学院科学技術イノベーション研究科 教授 近藤昭彦	

公的資金獲得

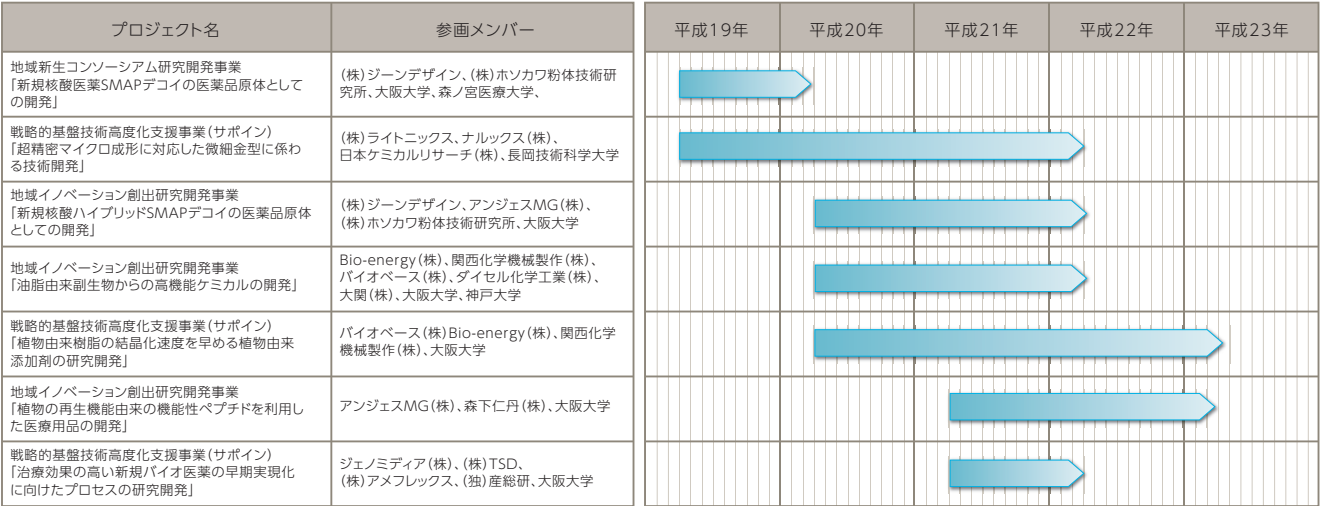
平成12年度～平成15年度



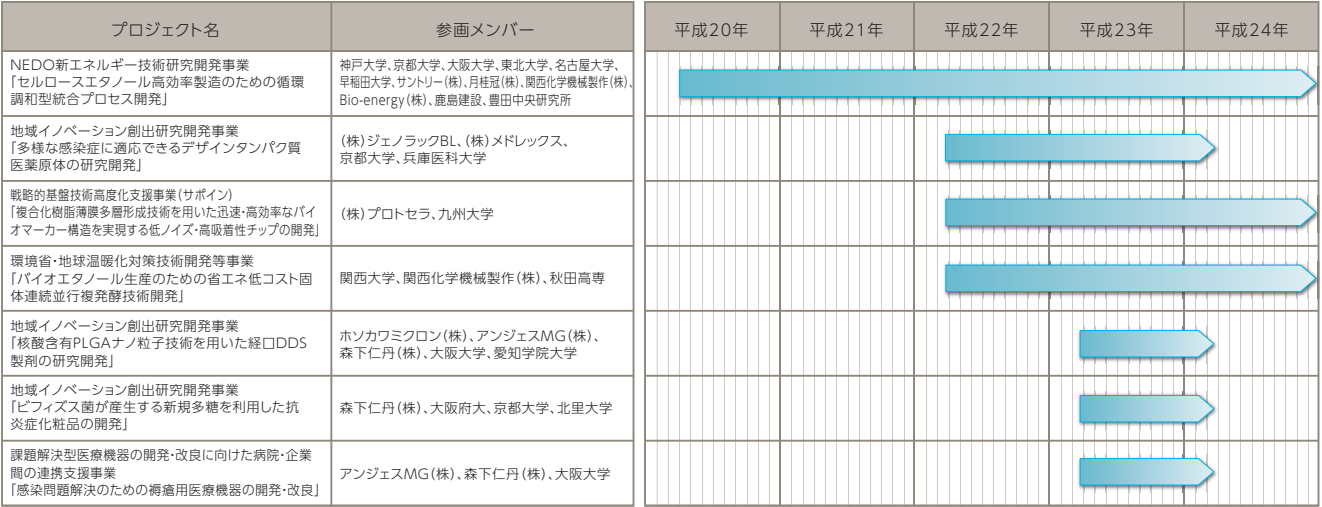
平成15年度～平成19年度



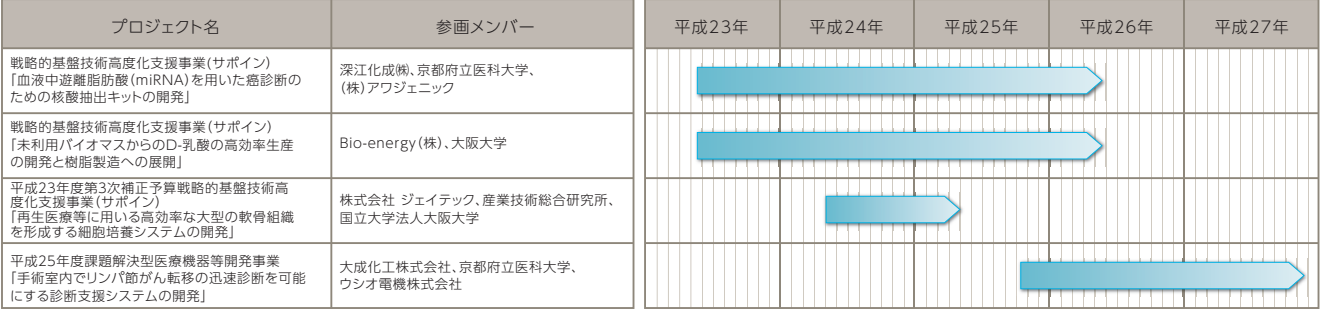
平成19年度～平成22年度



平成20年度～平成24年度



平成23年度～平成27年度



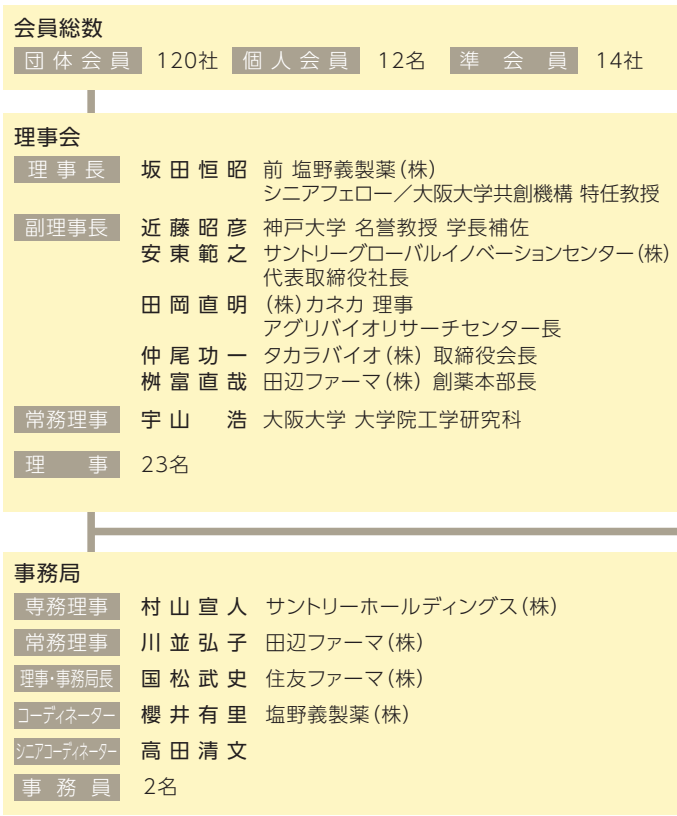
年表

2025	Bioeconomy Hub Japan2025開催	20
2024	バイオの次世代を考える会 再スタート	20
2023	バイオコミュニティ関西事業の一環として、JST事業を受託	
2022	バイオコミュニティ関西が内閣府から認定、第7代坂田恒昭理事長就任	
2021	バイオコミュニティ関西発足	
2020	ホームページをリニューアル	
2019	大阪府のライフサイエンス事業化推進事業を初めて受託	
2018	関西スマートセルフォーラム開催(近経局と共同主催)	
2017	再生医療技術を活用した動物実験代替法検討会開催	
2016	バイオの次世代を考える会発足、第6代田中隆治理事長就任	
2015	30周年記念事業の開催、事務所移転	
2014	関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー開始	
2013	会場参加型トークセミナー開始	
2012	第5代:新名惇彦理事長就任	
2011	関西バイオビジネスマッチング開催	
2010	関西地域健康長寿関連産業活性化協議会参画	
2009	関西バイオベンチャー企業一覧作成	
2008	新エネルギー技術開発事業受託	
2007	事務所移転、「バイオマス研究会」発足	
2006	「食と運動の機能性に関する研究会」発足	
2005	20周年記念冊子作成	
2004	「関西バイオの未来を考える会」発足	
2003	NPO法人化	
2002	近畿産業クラスター計画受託	
2001	「新春国際交流会」発足、第4代:清水當尚委員長就任	
2000	新規成長産業連携支援事業受託	
1999	「バイオ技術シーズ公開会」発足	
1996	第3代:秋吉節委員長就任	
1995	定例研究会講演「酵素の衣料用洗剤への応用」	
1994	定例研究会講演「EPOの研究開発について」	
1992	会報インタビュー 山田秀明京都大教授	
1991	会報インタビュー開始 山田康之京都大教授	
1990	第2代:千畑一郎委員長就任	
1989	会報第20号研究話題「海洋バイオ研究」「生分解性プラスチック」	
1988	会報第12号研究話題「機能性食品研究会」	
1987	会報第9号研究話題「農業分野における生物工学研究の応用」	
1986	会報第2号研究話題「遺伝子工学の医学への応用」	
1985	近畿バイオ設立3月6日、初代:山村雄一委員長就任	

2025	坂口志文氏ノーベル生理学・医学賞受賞(制御性T細胞の発見)	25
2024	「バイオものづくり」推進と合成生物学の事業化加速	20
2023	AI創薬・デジタルバイオ産業の台頭	
2022	政府が「バイオエコノミー戦略2022」改訂版を公表	
2021	mRNA・核酸医薬技術の急速な応用拡大	
2020	COVID-19パンデミックによりmRNAワクチンが実用化	
2019	バイオ戦略2019(内閣府)策定	
2018	国主導の「バイオ戦略2019」議論開始	
2017	CRISPR遺伝子編集の臨床応用が本格化	
2016	ゲノム編集食品の開発・研究が本格化	
2015	機能性表示食品制度施行	
2014	赤崎勇、天野浩ノーベル物理学賞受賞	
2013	PMDAウエスト開設、富士山世界遺産登録	
2012	山中伸弥ノーベル生理学・医学賞受賞	
2011	東日本大震災、関西広域連合設立	
2010	鈴木章、根岸英一ノーベル化学賞受賞	
2009	事業仕分け、産業クラスター実質廃止	
2008	下村脩ノーベル化学賞受賞	
2007	リーマン・ショック	
2006	ライブドアショック、新興市場株低迷	
2005	個人情報保護法施行	
2004	大学法人化、鳥インフルエンザ流行	
2003	日経平均7,607円、ヒトゲノム解読完了	
2002	田中耕一ノーベル化学賞受賞	
2001	ニューヨーク同時多発テロ	
2000	介護保険制度施行	
1999	EC統一通貨ユーロ誕生	
1998	長野冬季オリンピック	
1997	地球温暖化防止京都会議 京都議定書採択	
1996	○-157全国で発生、クローン羊ドリー誕生	
1995	阪神淡路大震災	
1994	関西国際空港開港	
1993	冷害による米不足で米緊急輸入	
1992	東海道新幹線のぞみ登場	
1991	特定保険用食品制度施行	
1990	バブル崩壊開始	
1989	日経平均最高記録38,957円	
1988	ソウルオリンピック	
1987	利根川進ノーベル生理学・医学賞受賞	
1986	男女雇用機会均等法施行	
1985	ポリメラーゼ連鎖反応(PCR法)発明	

NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議

現体制図 2025年12月現在



重点的な取組み
○バイオエコノミー視点の深化
地球規模の社会課題(環境、食糧問題、資源循環、健康長寿など)に貢献できる技術・事業の推進
○オープンイノベーションと異分野連携の強化
DX・AI等、異分野技術との融合推進と新たな価値を創出するプラットフォームとしての機能強化
○地域基盤と国際ネットワークの融合
関西地域と海外との連携深化、技術交流・産業展開の道を拡大
○人材育成と次世代支援
バイオの未来を担う若手・学生層、起業志向のある研究者などの持続可能な人材循環の確立

近畿圏バイオ関係者との人的ネットワーク(約1,000人)
海外機関とのネットワーク(約50機関)

生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会
委 員 長 内 藤 裕 二 京都府立医科大学 大学院 教授
副委員長 栗 木 隆 江崎グリコ(株) 取締役研究フェロー
委 員 亀 井 淳 三 順天堂大学 特任教授
田 岡 直 明 (株)カネカ
アグリ・バイオ&サプリメント研究所 所長
芦 田 均 武庫川女子大学
教授／神戸大学 名誉教授
青 井 渉 京都府立大学 大学院 教授
柴 田 浩 志 サントリーウエルネス(株)

毛細血管ラボ・社会実装コンソーシアム
委 員 長 高 倉 伸 幸 大阪大学微生物病研究所 教授
副委員長 武 野 團 あっと(株) 代表取締役
法人会員 10社 ／ 個人会員 3名

バイオの次世代を考える会
座 長 青 木 航 大阪大学 大学院工学研究科 教授
副 座 長 連 沼 誠 久 神戸大学
先端バイオ工学研究センター 教授
塩野義製薬(株)ワクチン事業本部
白 石 晃 将 京都大学 大学院農学研究科 助教
菅 原 雄 一 大阪大学 産業科学研究所 教授
関 谷 毅 大阪公立大学大学院 農学研究科 准教授
三 浦 夏 子 大阪大学 産業科学研究所 准教授
山 崎 聖 司 大阪大学 経営企画オフィス 教授
村 木 倫 子 富山県立大学 工学部 生物工学科／
生物・医薬品工学研究センター 講師
高 田 啓 近畿経済産業局 地域経済部
バイオ・医療機器技術振興課 課長補佐
西藤 真太郎 NTT西日本(株) ビジネス営業本部 主査
中 村 修 士 サントリーホールディングス(株)
朝 見 陽 次 イノベーション企画部

事業 (2025年度)

- 1 バイオ関連技術産業化支援事業
○バイオコミュニティ関西
○活動報告会
○産学個別マッチング
- 2 バイオベンチャー支援事業
○関西バイオビジネスマッチング2025
○2025年度 ライフサイエンス海外ビジネス展開等支援事業(大阪府からの受託事業)
○令和7年度 研究者と事業者のマッチングイベント業務委託(大阪府からの受託事業)
○BioJapan2025共同出展
○バイオベンチャーデータベース
- 3 研究会
○生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会
○毛細血管ラボ・社会実装コンソーシアム
○バイオの次世代を考える会
- 4 セミナー・講演会
○関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー
- 5 海外交流
○新春国際交流会
- 6 その他
○西宮市植物生産研究センター(受託業務)
○メルマガ配信

1 役員変遷

任意団体 近畿バイオインダストリー振興会議

	委員長	副委員長				幹事長	事務局長
1985 3	山村雄一	伊藤 健	城阪俊吉	福井三郎		千畑一郎	山地哲也
1986	山村雄一	伊藤 健	城阪俊吉	福井三郎		千畑一郎	
1987 3	山村雄一	伊藤 健	城阪俊吉	福井三郎		千畑一郎	新田浩夫
1988	山村雄一	伊藤 健	城阪俊吉	福井三郎		千畑一郎	
1989	山村雄一	伊藤 健	城阪俊吉	福井三郎		千畑一郎	
1990 6	千畑一郎	岡田善雄	鳴海欽一	西澤吉彦		山田秀明	井上雅資
1991	千畑一郎	岡田善雄	鳴海欽一	西澤吉彦		山田秀明	井上雅資
1992 6	千畑一郎	岡田善雄	鳴海欽一	西澤吉彦		山田秀明	河原田肇
1993 6	千畑一郎	岡田善雄	鳴海欽一	西澤吉彦		山田康之	河原田肇
1994 6	千畑一郎	岡田善雄	鳴海欽一	西澤吉彦		山田康之	柳生 勝
1995	千畑一郎	岡田善雄	鳴海欽一	西澤吉彦		山田康之	柳生 勝
1996 6	秋吉 節	岡田善雄	安部川佳司	新田恒治	五十川昌孝	新名惇彦	田村 格
1997	秋吉 節	岡田善雄	安部川佳司	新田恒治	五十川昌孝	新名惇彦	田村 格
1998	秋吉 節	岡田善雄	安部川佳司	新田恒治	五十川昌孝	新名惇彦	田村 格
1999	秋吉 節	岡田善雄	安部川佳司	新田恒治	五十川昌孝	新名惇彦	田村 格
2000 6	秋吉 節	岡田善雄	安部川佳司	新田恒治	五十川昌孝	新名惇彦	遠山伸次
2001 6	清水當尚	岡田善雄	大橋武久	橋本忠夫		小林昭雄	遠山伸次

NPO 法人 近畿バイオインダストリー振興会議

	理事長	副理事長				専務理事	常務理事		事務局長
2002 12	清水當尚						小林昭雄	小川裕策	遠山伸次
2003 7	清水當尚	大橋武久	田中隆治				遠山伸次	小林昭雄	田村 格
2004 7	清水當尚	大橋武久	田中隆治	新名惇彦			遠山伸次	小林昭雄	田村 格
									理事・事務局長
2005 7	清水當尚	大橋武久	田中隆治	新名惇彦			長谷川淳三	小林昭雄	
2006 7	清水當尚	大橋武久	田中隆治	新名惇彦			遠山伸次	小林昭雄	
2007 7	清水當尚	大橋武久	田中隆治	新名惇彦			遠山伸次	福田秀樹	橋本昭栄
2008 7	清水當尚	谷 敍孝	田中隆治	新名惇彦			遠山伸次	福田秀樹	橋本昭栄
2009 7	清水當尚	谷 敍孝	田中隆治	新名惇彦			遠山伸次	福田秀樹	
2010 7	清水當尚	谷 敍孝	田中隆治	新名惇彦			遠山伸次	福田秀樹	藤川茂昭
2011 7	清水當尚	谷 敍孝	田中隆治	新名惇彦			遠山伸次	福田秀樹	藤川茂昭
2012 7	新名惇彦	山田正彦	田中隆治	植田充美			井上 了	坂田恒昭	藤川茂昭
2013 7	新名惇彦	山田正彦	田中隆治	植田充美			井上 了	坂田恒昭	藤川茂昭
2014 7	新名惇彦	山田正彦	田中隆治	植田充美	坂田恒昭		藤川茂昭	中尾正宏	
2015 7	新名惇彦	山田正彦	田中隆治	植田充美	坂田恒昭	梅村 勲	中尾正宏		
2016 7	田中隆治	山田正彦	近藤昭彦	高橋賢藏	坂田恒昭	梅村 勲	中尾正宏	宇山 浩	松村俊彦
2017 7	田中隆治	山田正彦	近藤昭彦	高橋賢藏	坂田恒昭	梅村 勲	中尾正宏	宇山 浩	松村俊彦
2018 7	田中隆治	山田正彦	近藤昭彦	高橋賢藏	坂田恒昭	梅村 勲	中尾正宏	宇山 浩	松村俊彦
2019 7	田中隆治	山田正彦	近藤昭彦	高橋賢藏	坂田恒昭		松村俊彦	中尾正宏	宇山 浩
2020 7	田中隆治	満田 勝	近藤昭彦	高橋賢藏	坂田恒昭		高田清文	川並弘子	宇山 浩
2021 7	田中隆治	満田 勝	近藤昭彦	高橋賢藏	坂田恒昭		高田清文	川並弘子	宇山 浩
2022 7	坂田恒昭	田岡直明	近藤昭彦	柴田浩志	縄野雅夫		高田清文	川並弘子	宇山 浩
2023 7	坂田恒昭	田岡直明	近藤昭彦	柴田浩志	縄野雅夫	仲尾功一	高田清文	川並弘子	宇山 浩
2024 7	坂田恒昭	田岡直明	近藤昭彦	柴田浩志	縄野雅夫	仲尾功一	高田清文	川並弘子	宇山 浩
2025 7	坂田恒昭	田岡直明	近藤昭彦	安東範之	榊富直哉	仲尾功一	村山宣人	川並弘子	宇山 浩

2 NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 2025年度 会員リスト

正会員：団体会員（120社） 2025年12月現在 （五十音順）

機 関 名	機 関 名
1 (株)RDサポート	61 NPO法人資源リサイクルシステムセンター
2 (株)アールピーエム	62 シスメックス(株)
3 (株)アイメックRD	63 Synapto Ventures
4 ACROBIOSYSTEMS JAPAN CO.,LTD.	64 (株)島津製作所
5 旭化成ライフサイエンス(株)	65 (株)神鋼環境ソリューション
6 アズワン(株)	66 (公財)新産業創造研究機構
7 あっと(株)	67 住友化学(株)
8 アンジェス(株)	68 住友ファーマ(株)
9 EY新日本有限責任監査法人	69 摂南大学
10 (株)石本建築事務所	70 (株)セツロテック
11 稲畑産業(株)	71 双日(株)
12 岩谷産業(株)	72 ダイキン工業(株)
13 H.U.セルズ(株)	73 (株)ダイセル
14 NTT西日本(株)	74 タカラバイオ(株)
15 (一財)大阪科学技術センター	75 (株)竹中工務店
16 大阪ガス(株)	76 田辺ファーマ(株)
17 大阪公立大学 研究推進課	77 (公財)地球環境産業技術研究機構
18 (地独)大阪産業技術研究所	78 (株)テーオーシー
19 大阪商工会議所	79 東京建物(株)
20 (株)大阪ソーダ	80 Tractus Asia
21 大阪バイオメディカル専門学校	81 奈良先端科学技術大学院大学
22 大阪府	82 (株)ナレッジパレット
23 (地独)大阪府立環境農林水産総合研究所	83 日本新薬(株)
24 (地独)大阪府立病院機構	84 日本ベーリンガーインゲルハイム(株)
25 大塚製薬(株)	85 (株)日本政策投資銀行
26 小野薬品工業(株)	86 (株)日本総合研究所
27 オンキヨー(株)	87 NEI Northeast Indiana
28 片山化学工業(株)	88 ノーベルファーマ(株)
29 (株)カネカ	89 バーンズ&ソーンバーク法律事務所
30 川崎重工業(株)	90 Biocom California
31 環境衛生薬品(株)	91 バイオ・サイト・キャピタル(株)
32 関西医薬品協会	92 (一社)バイオビジネス創出研究会
33 関西化学機械製作(株)	93 (株)パソナ農援隊
34 (公社)関西経済連合会	94 (株)バッカス・バイオイノベーション
35 共栄製茶(株)	95 パナソニックホールディングス(株)
36 京都府	96 阪急阪神ホールディングス(株)
37 (株)クボタ	97 BLA Regulatory
38 (株)KRI	98 税理士法人 日根野会計事務所
39 (株)ケー・エー・シー	99 (株)ファーマフーズ
40 ケンブリッジコンサルタンツ(株)	100 フォーネスライフ(株)
41 (公財)神戸医療産業都市推進機構	101 福井県
42 神戸市	102 福岡県大阪事務所
43 神戸天然物化学(株)	103 富士通Japan(株)
44 KookminBio Corporation(国民バイオ)	104 富士フイルム和光純薬(株)
45 (国開)国立循環器病研究センター	105 (株)FRONTEO
46 (一財)彩都バイオヒルズクラブ	106 北海道大阪事務所
47 (株)サイト・ファクト	107 丸石製薬(株)
48 さつきアドバイザリー(株)	108 (株)ミーバイオ
49 サラヤ(株)	109 (株)村田製作所
50 (国開)産業技術総合研究所	110 森下仁丹(株)
51 サンスター(株)	111 八洲薬品(株)
52 サントリーグローバルイノベーションセンター(株)	112 山梨県大阪事務所
53 シーエスクリエ(株)	113 弁護士法人山本特許法律事務所
54 (株)シーテック	114 ヤンマーホールディングス(株)
55 (株)SeedBank	115 Yokogawa Innovation Switzerland GmbH
56 (株)ジーンデザイン	116 (一社)ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン(LINK-J)
57 JR西日本不動産開発(株)	117 レナセラピューティクス(株)
58 JCRファーマ(株)	118 ロート製薬(株)
59 塩野義製薬(株)	119 (株)ワールドインテック
60 滋賀県	120 和歌山県

●個人会員（12人） ●準会員（14 社） ●海外機関（約30機関）

NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議の目的及び事業

目 的

この法人は、バイオインダストリー振興に関する事業を行うことにより、人々の健康維持・増進を図り、社会の環境を保護することによって、快適で活力のある社会作りを達成することを目的とする。

事 業

前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

特定非営利活動に関わる事業

- （1）バイオテクノロジーを産業化するためのコーディネート事業
- （2）バイオテクノロジーの情報交流・人材交流事業
- （3）バイオ関連業務委託契約によるコンサルタント事業
- （4）その他目的を達成するために必要な事業

NPO法人 近畿バイオインダストリー振興会議（定款より抜粋）



発行: 2025年(令和7年)12月
編集・発行: NPO法人 近畿バイオインダストリー振興会議

〒541-0048 大阪市中央区瓦町4-8-4 井門瓦町第2ビル 3F Tel.06-4963-2107 Fax.06-4963-2127